

漫画onWeb



ブラックジャックに

よるしく

13

佐藤秀峰

CONTENTS

- 第119話 疲れた大人
- 第120話 プレゼンテーション
- 第121話 点火
- 第122話 ただ我を知る
- 第123話 受容の時
- 第124話 屋上の戦士
- 第125話 ピーターの帰還
- 第126話 生きていたい
- 第127話 坂道を登る

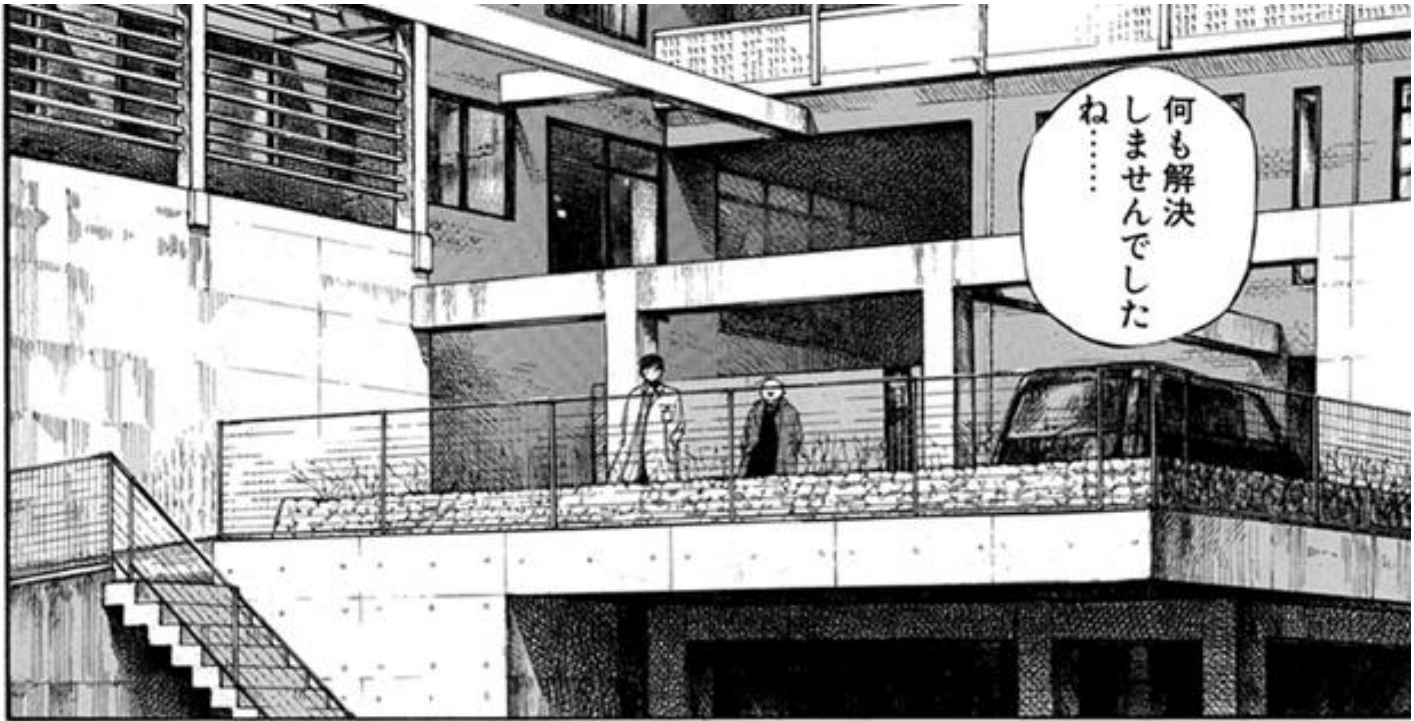
集中治療室 ICU





第119話 疲れた大人







早川さんと
小沢さんのお母さん
にはまた話を
してみます……

納得してもらえ
るまで何度でも
同じ事をくり返す
つもりです……



なぜそこまで
するんですか
……？



あなたのやり方
では
誰の賛同も
得られない……

そんな事をして
あなたに何の
メリットがあるの
でしょう……？





だけど
小沢さんの命
は……

子供達の命に比べて
意味のないもの
なのでしょうか……？



それだけが
今の僕が
小沢さんに
できる……

医者としての
たった一つの
仕事です……



僕の目的は
小沢さんが生きる
場所を作る事です



僕は医者で
ありつづけたい
です……



僕は……

医者という
仕事
が好きなんです……



ホットと
アイスが
ございますが

ありがとうございます
ございました

780
円です

はい店内で
お召し上がり
ですか？







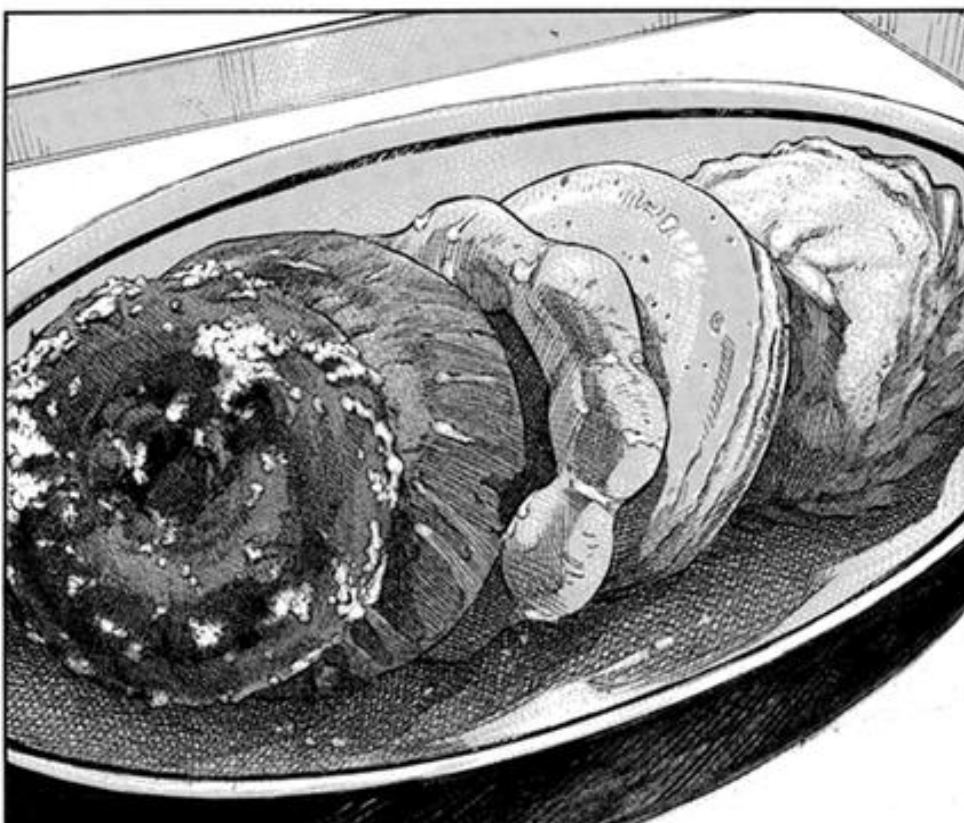
そうですか

以前
新生児集中治療室
NICUで
お会いして
いたんですね



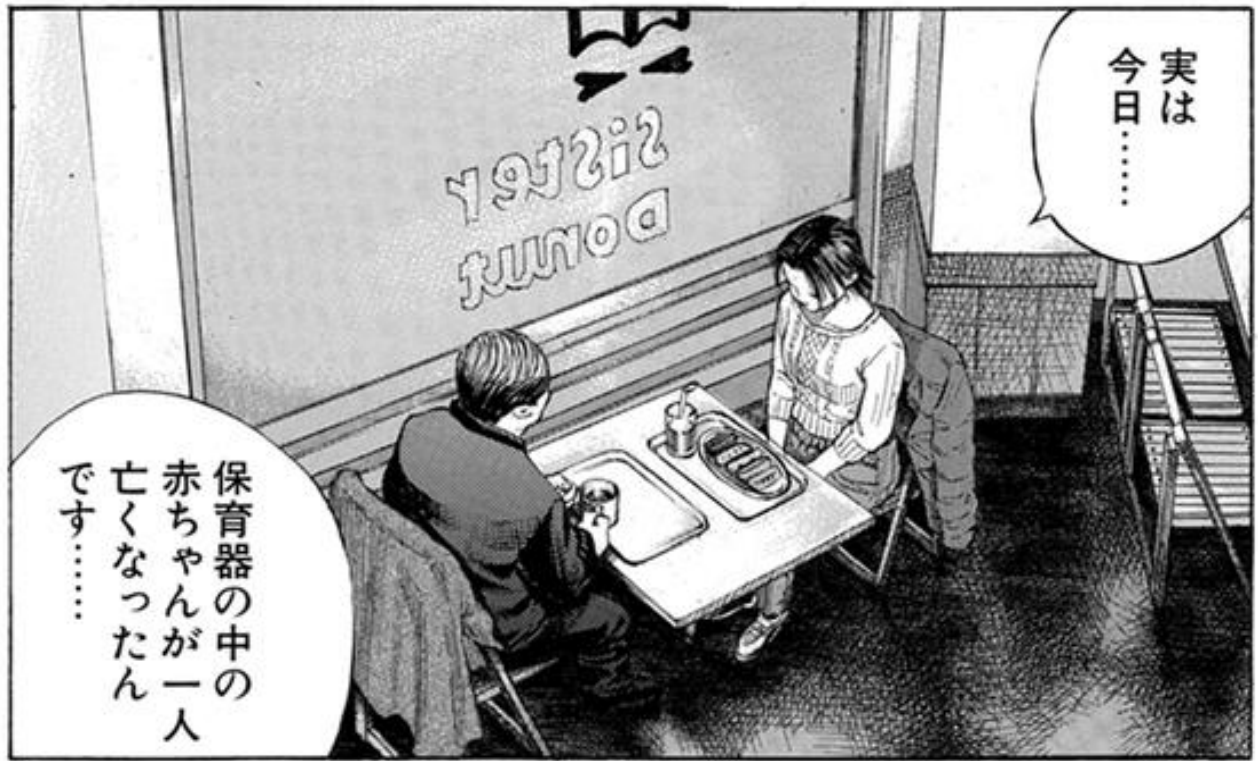
すいません

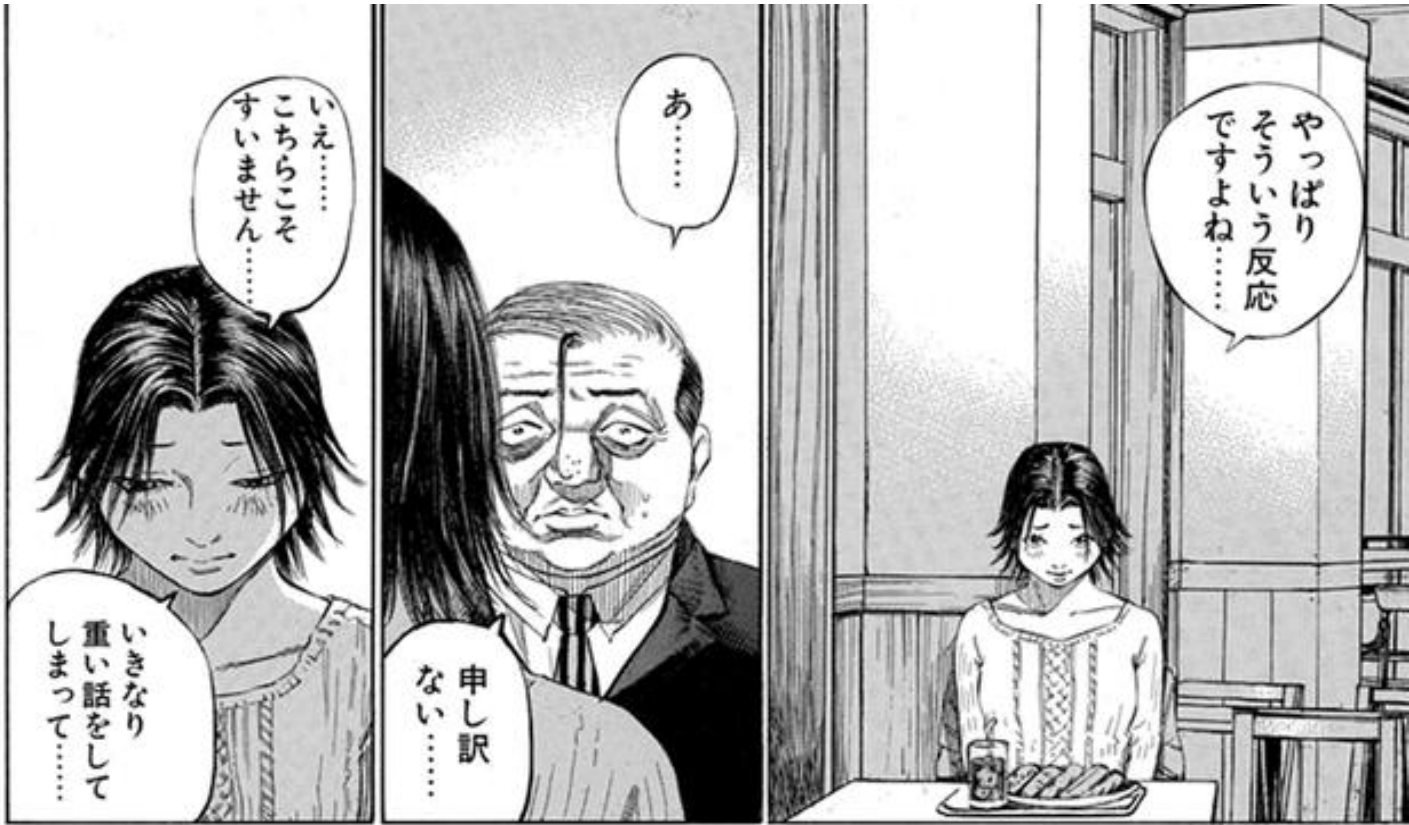
ほとんど
初対面なのに
話しかけるなんて
おばちゃん
ですよ



あれ？

今日は
お一人ですか？







どうでしたか？
斉藤先生……

やっぱり
落ち込んで
ました？



今日は
精神科へ
行かれたん
ですか？

ええ……
一応取材と
言う事で……



え？



NICUの
時も
そうだったん
です

仕事との距離感の
とり方が下手って
言うか……



いえ……
きのう精神科の
患者さんが
飛び降りたって
聞いたもので……

斉藤先生って
いちいち反応が
大きいですよ？



212
100





それでも時々
反省したフリ
だけはするん
ですけどね……

「僕のした事は
ただの自己満足
じゃないだろう
か？」とか
言ってる……



ヤダな……

あの人
ルールだとか
周りの迷惑なんて
関係ないんだから



大変じゃ
ありませんか
……？

彼のような人と
つきあっていく
のは……



あんなに
本気の人と
出会ったのは初めて
ですから……

だけど
私……



別れようと
思った事も
ありますよ
……



だから
私は肯定して
あげようと
思ったんです……



もしも
あの人が誰かに
否定されたら
しても……

私だけは
彼を肯定して
あげようと
思ったんです
……



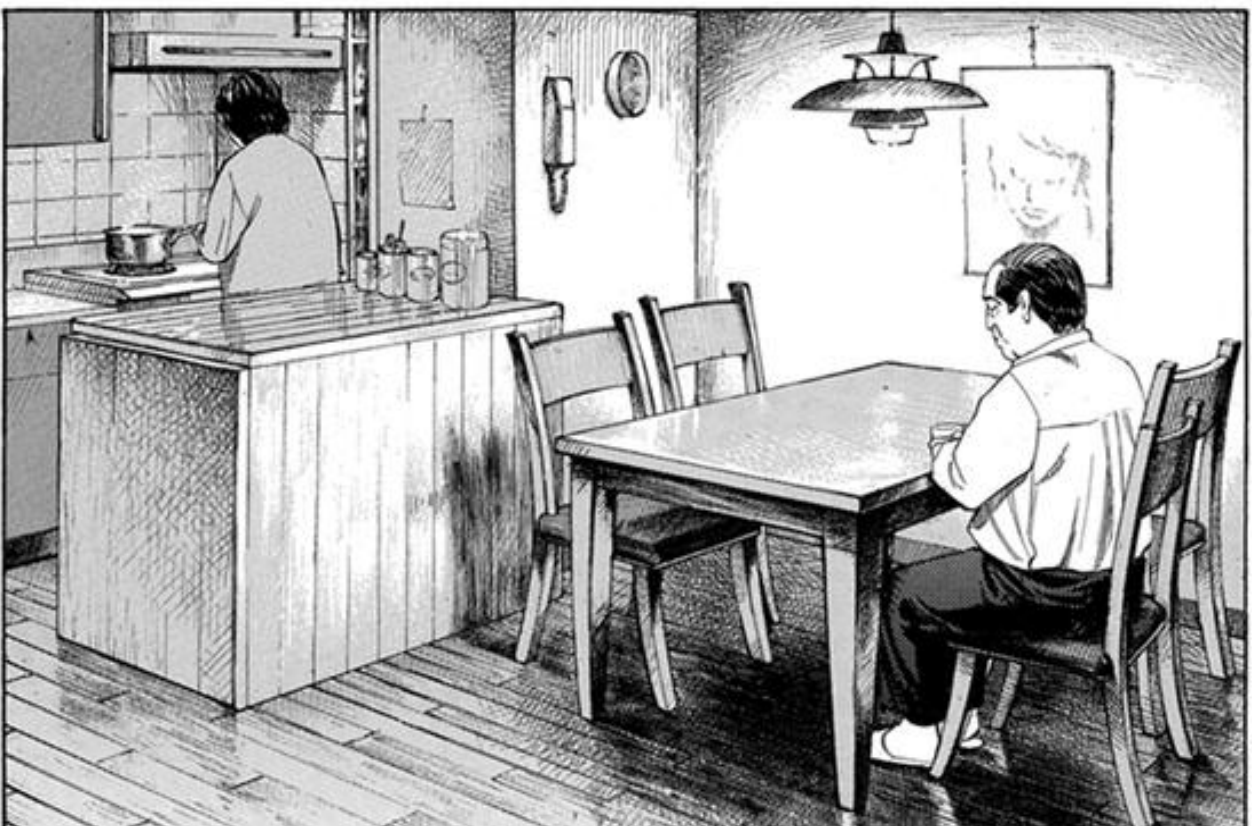
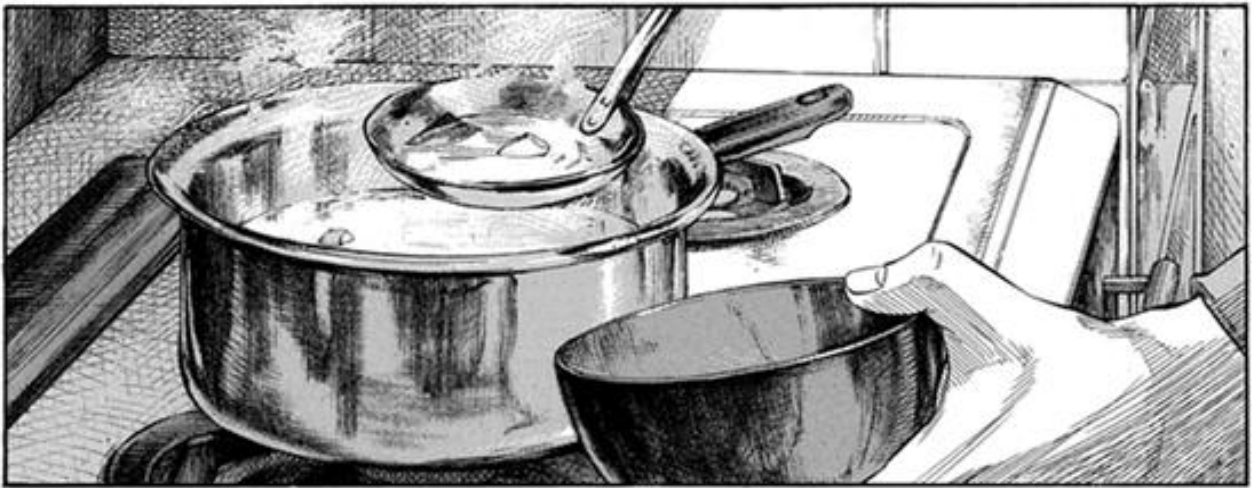
あれ……
ヤダ……

何で私
こんな事
しゃべってん
だろ……？

ところで何を
やらかしちゃっ
たんですか？
斉藤先生

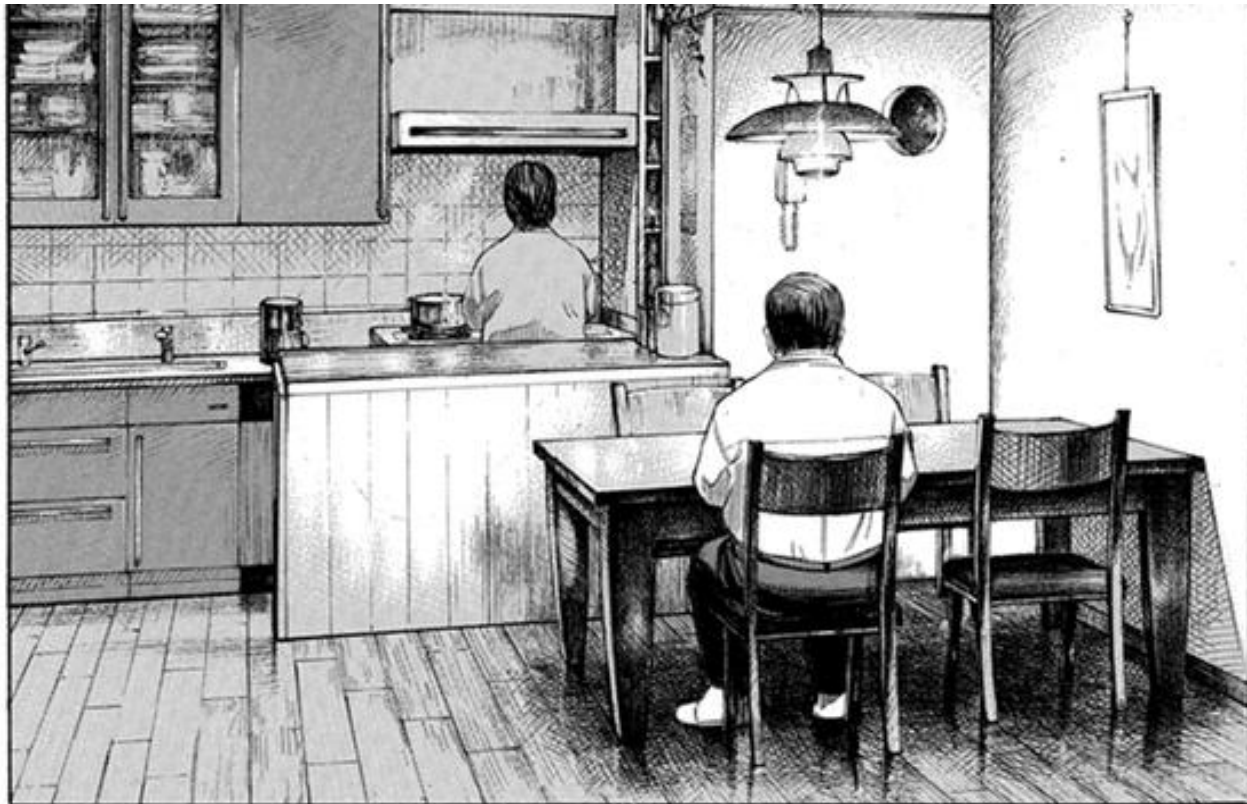
すっかり
話が横道に
それちゃい
ましたね……













第120話

プレゼンテーション



自分の書いた
記事で……

世界を変えたい
と
思っていた……



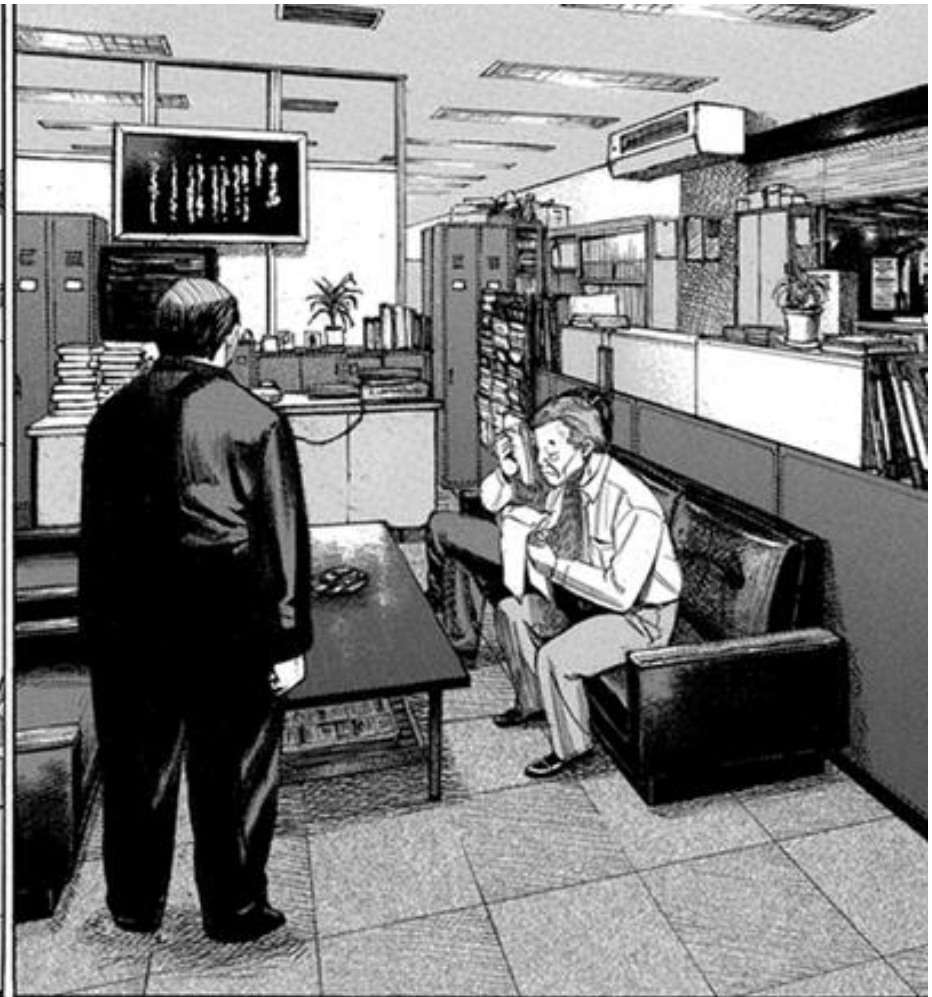
ジョン・レノンに
なりたかった……

174

174

連載企画案：精神医療の未来

174





実名で
いくのか？



本人の許可なく
実名で報道する
事はできません

飛び降りた
本人は意識不明
の重体だ



実名を出す
つもりは
ありません

彼や周囲への
影響を考えれば
当然の配慮です





大衆は
バカじゃ
ありませんよ



〇〇小事件で
我々が伝えてきた
情報は結果的に
であれ 誤報
でした

しかし
それについて
謝罪も訂正も
ない



もしここで
開き直って
何もしなければ

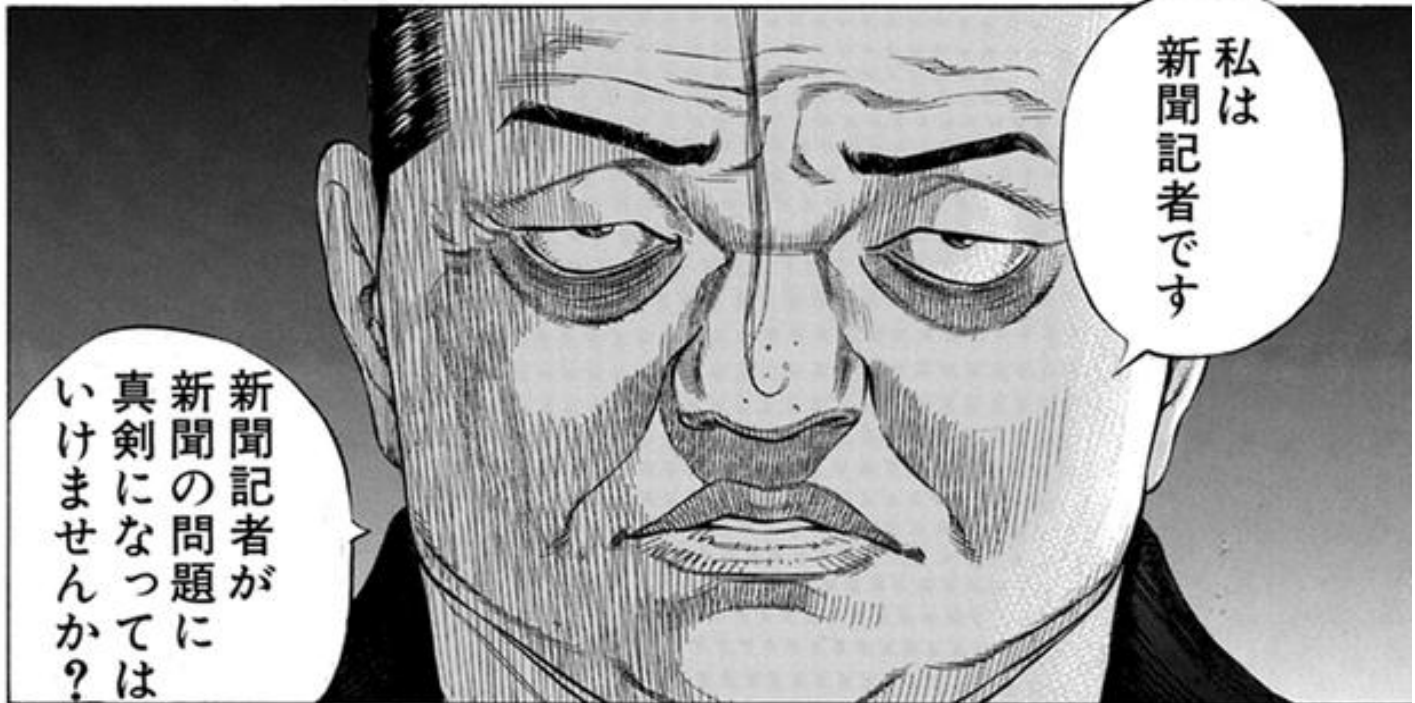
我々は二度と
大衆の信頼を
取り戻せないかも
しれません



我々は今
大衆の不信を
買っています



それは君が
心配する問題
ではない



私は
新聞記者です

新聞記者が
新聞の問題に
真剣になつては
いけませんか？



編集総領









種本君

この場で
部外者は
君だ



火を点ければ
炎は一瞬で
拡がります……



次長……

酸素は
満ちています
……



私は私の
記事で……

精神障害者への
差別を
なくしたいと
思っています
……



「表現」とは
……

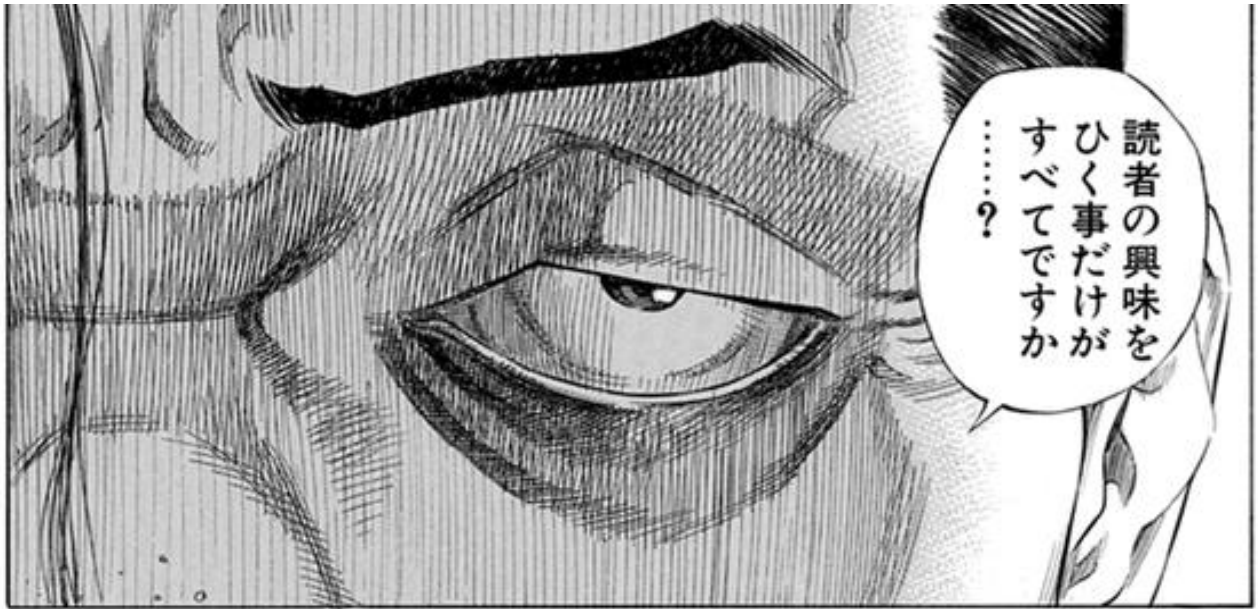
誰かに何かを
伝えるために
あります……

つまりどんなに
伝えたい事が
あっても……

誰も読まない
記事は「表現」
ではありません
……

ですがどんなに
多くの人に
読まれても……

そこに伝えたい
事がなければ
「表現」では
ありません……

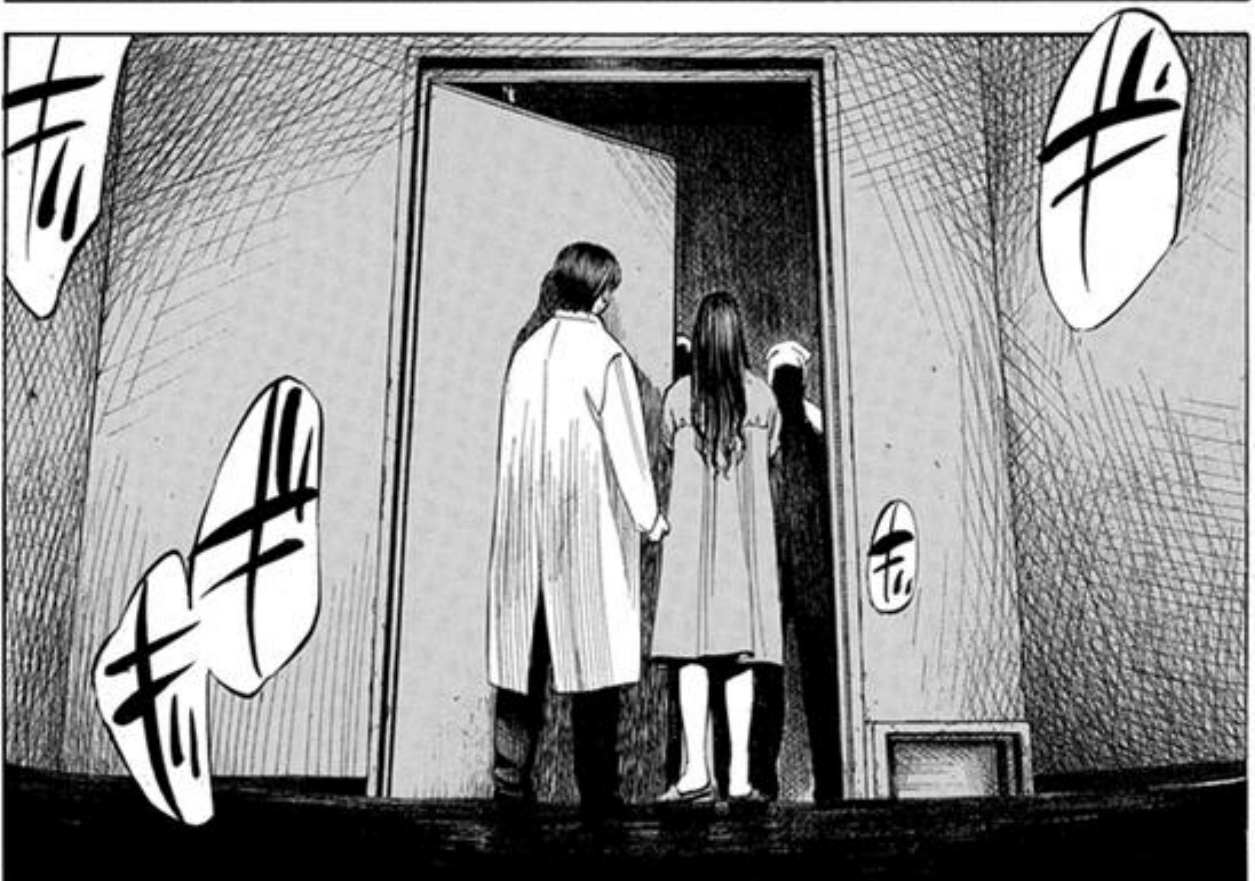


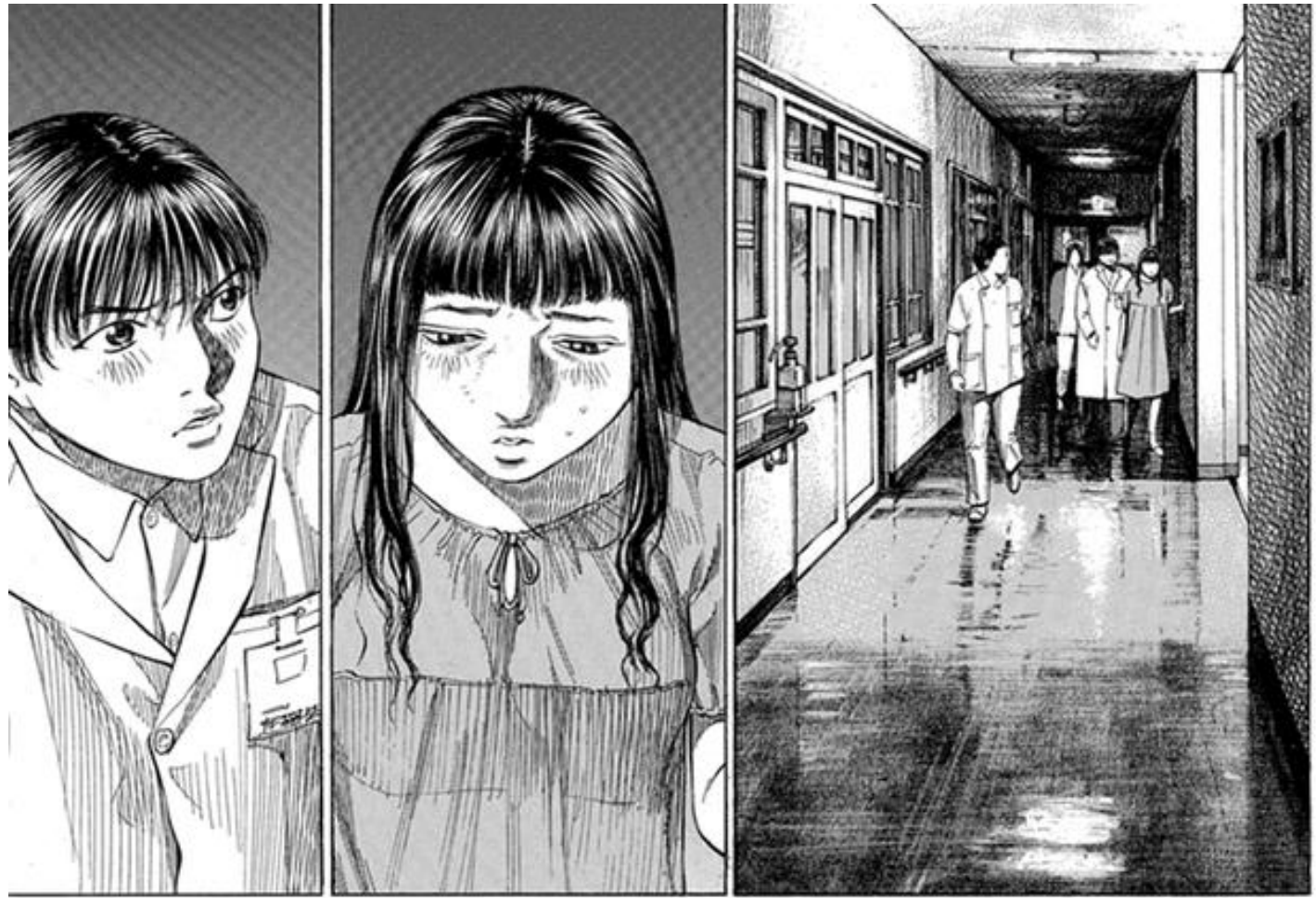


殺される
覚悟がないの
なら……

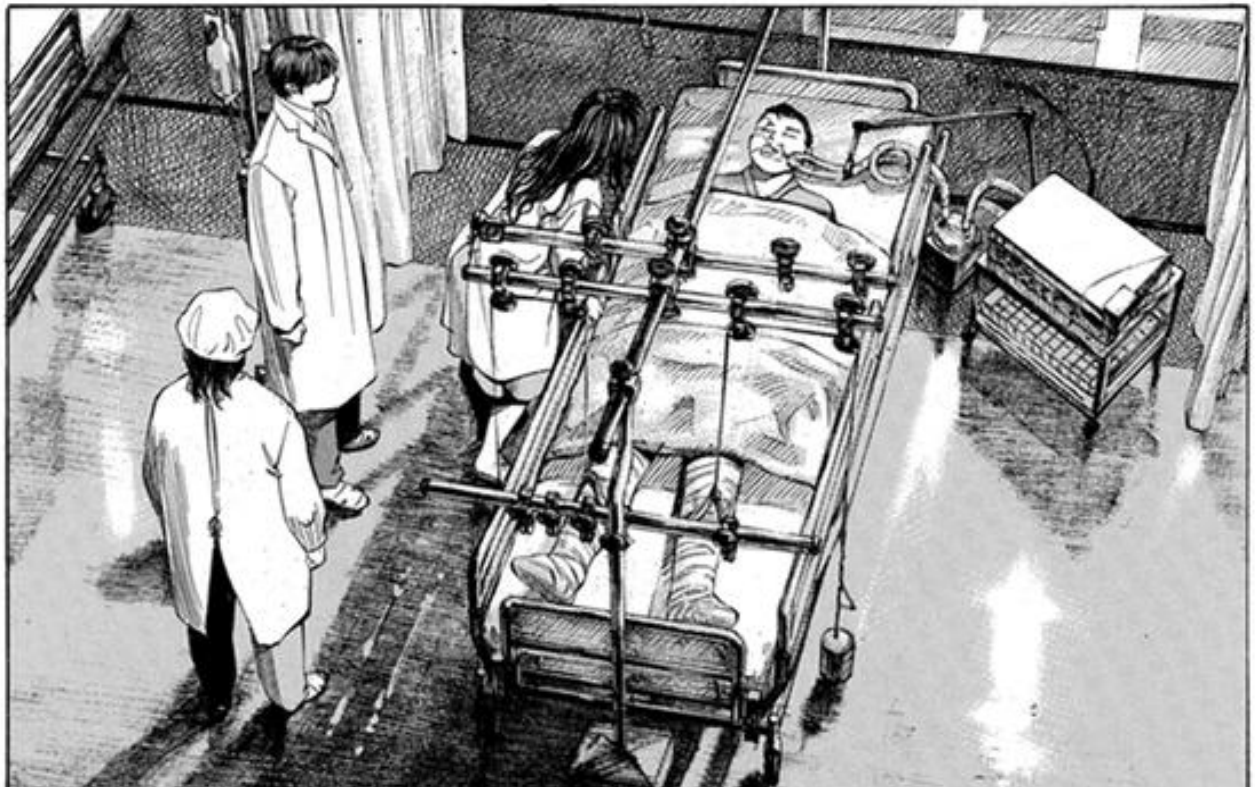
舞台になんて
上がらなければ
いい……







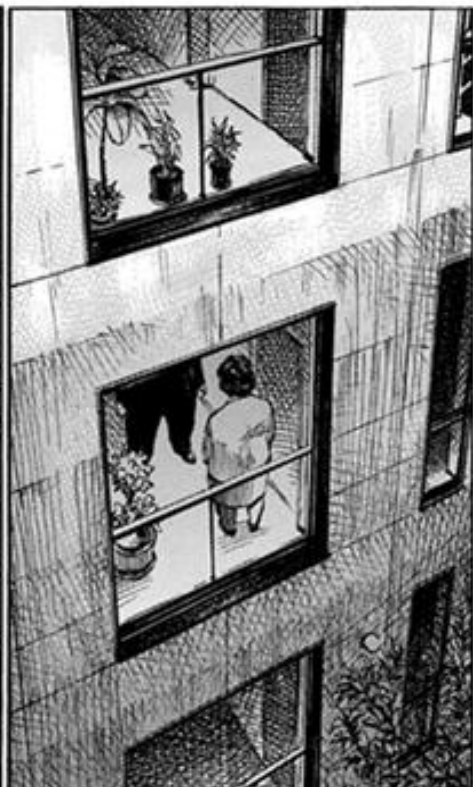
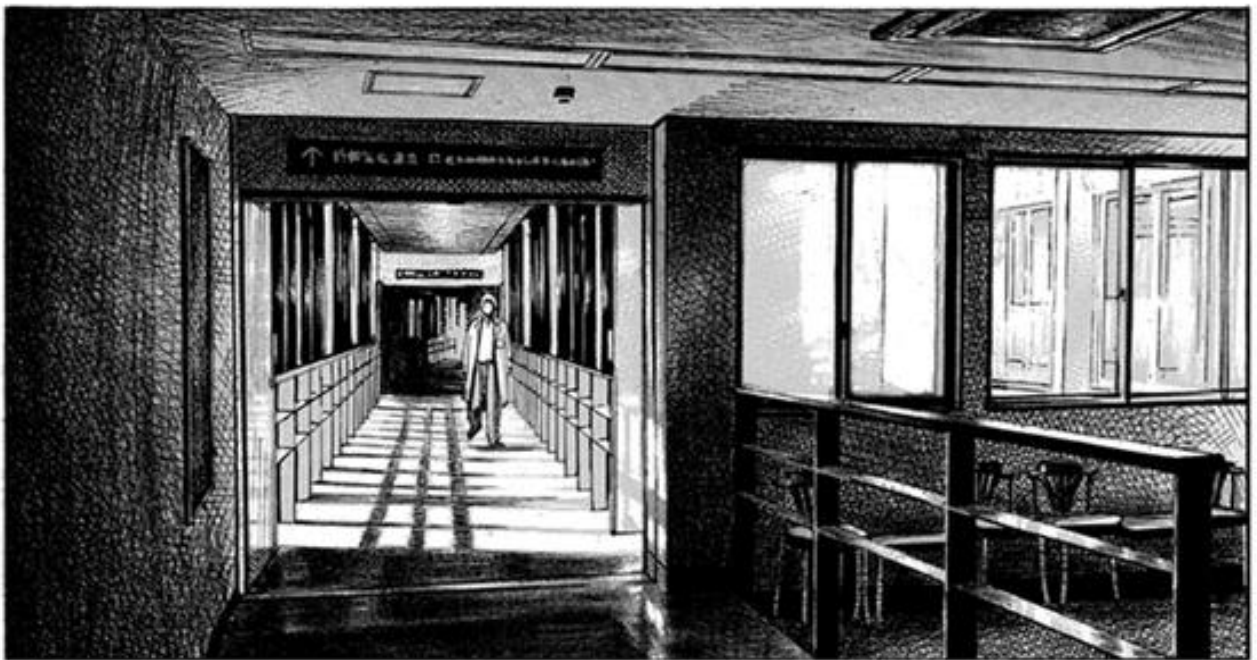
集中治療室
ICU





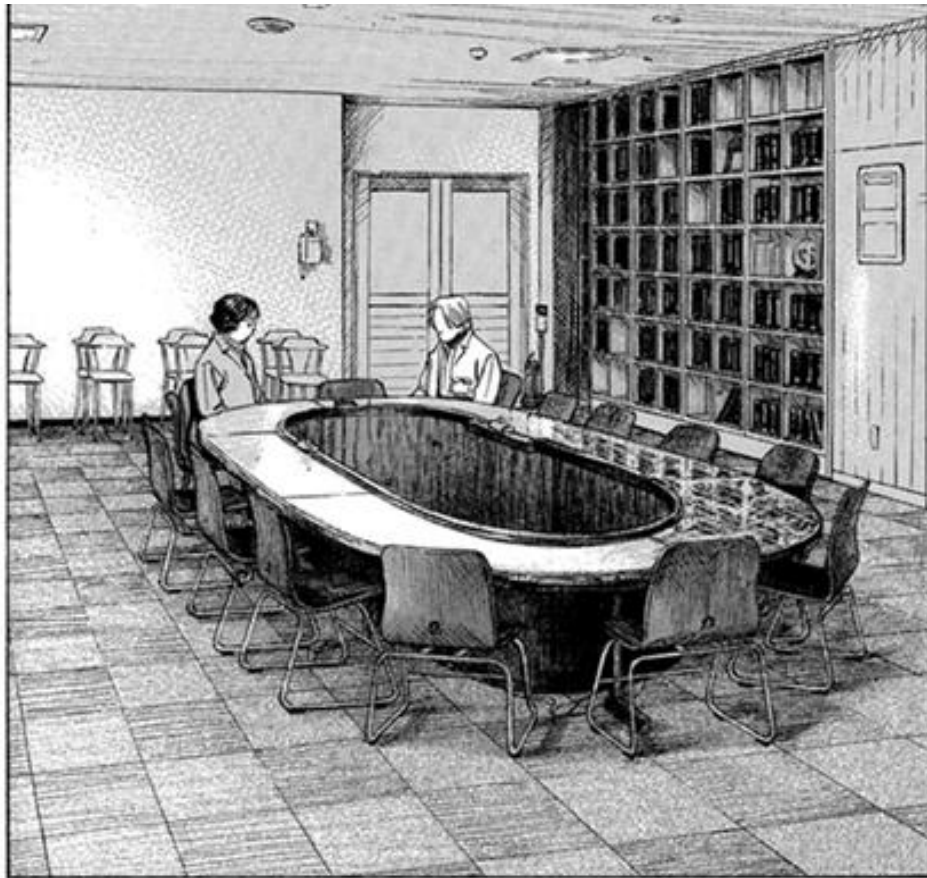




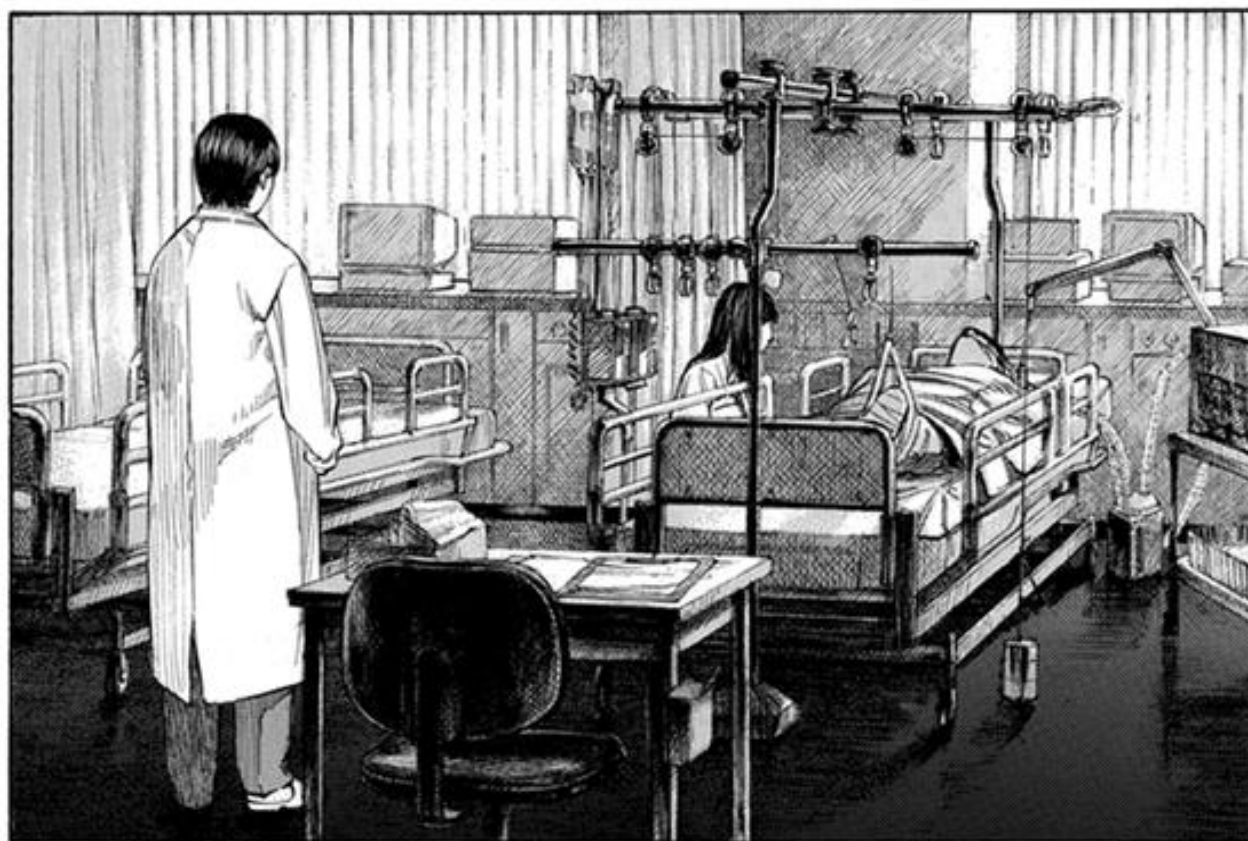


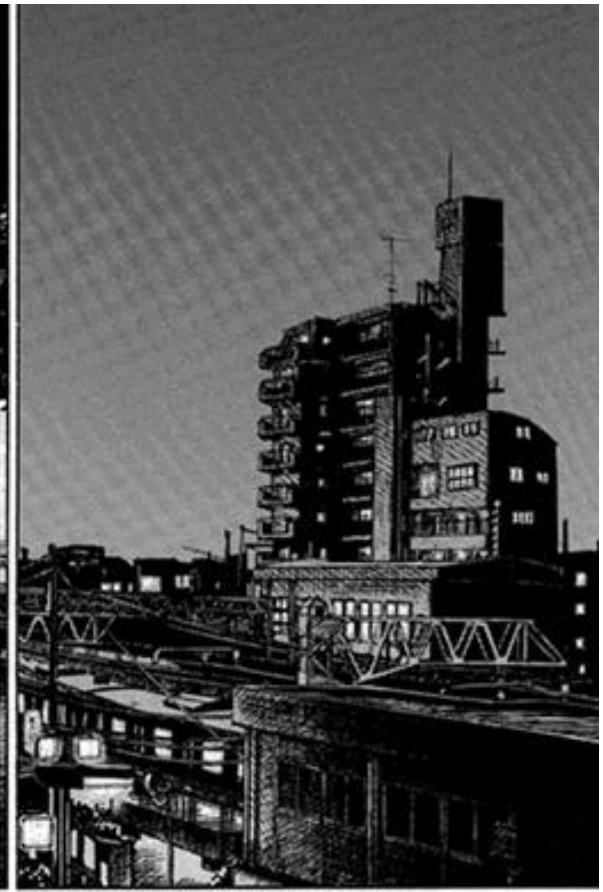
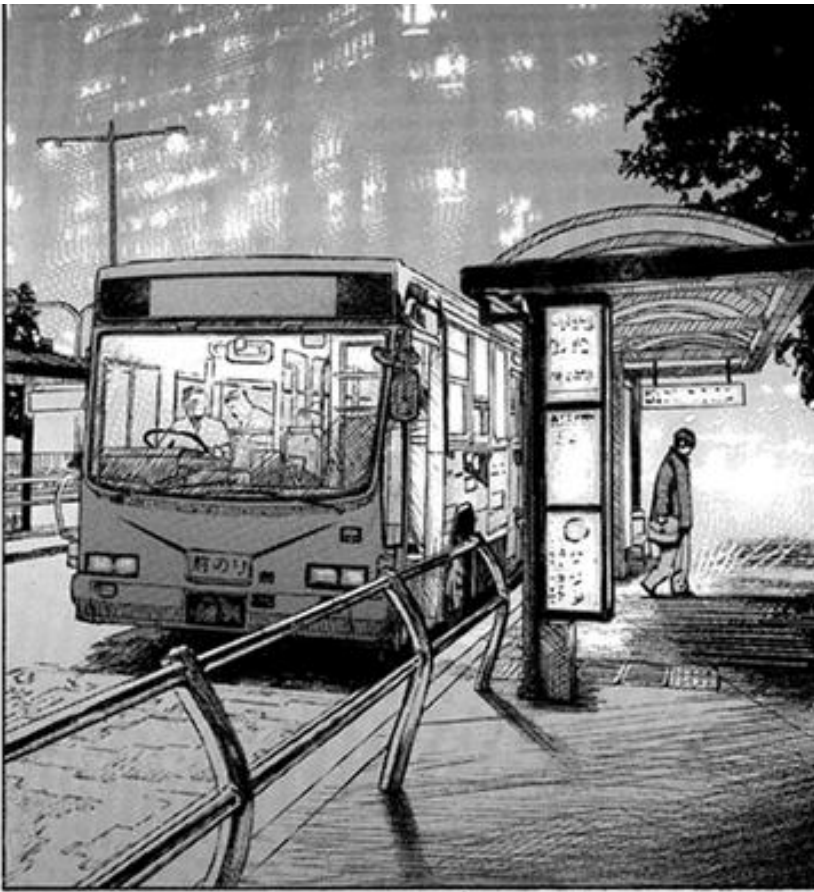
第121話 点火















今はホッと
しているんです
……

しばらく
そっとしておいて
いただけませんか
……？



現実的な
お話を
しますと……

退院後の
小百合さんの生活には
お母さんの支えが
必要です……



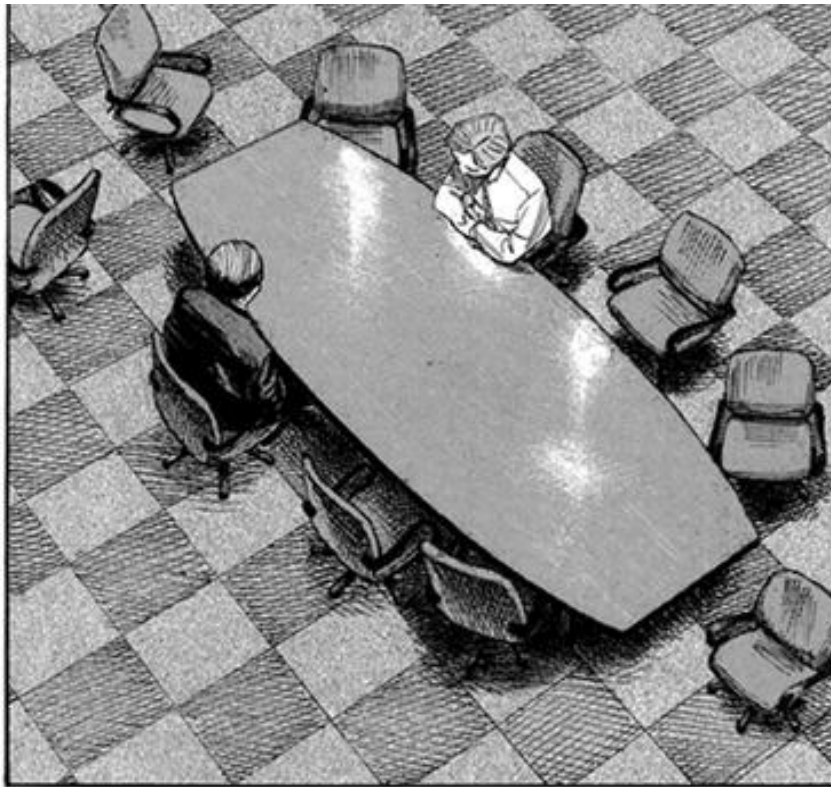
お帰り下さい
……



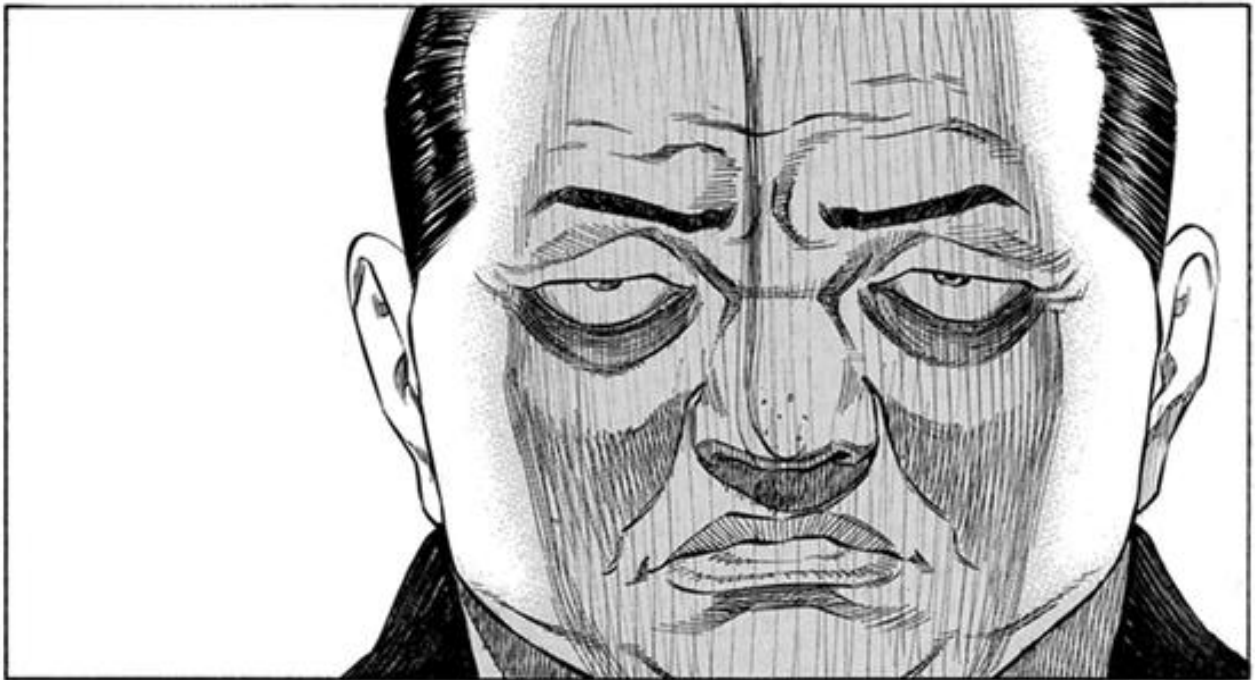
もちろん僕も
できる限りの事を
させていただきます
……

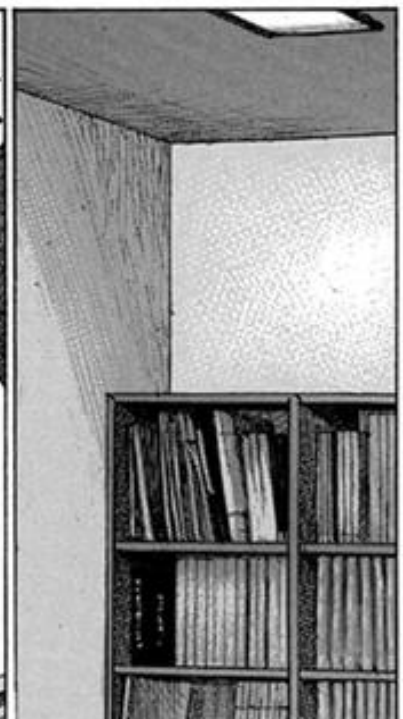
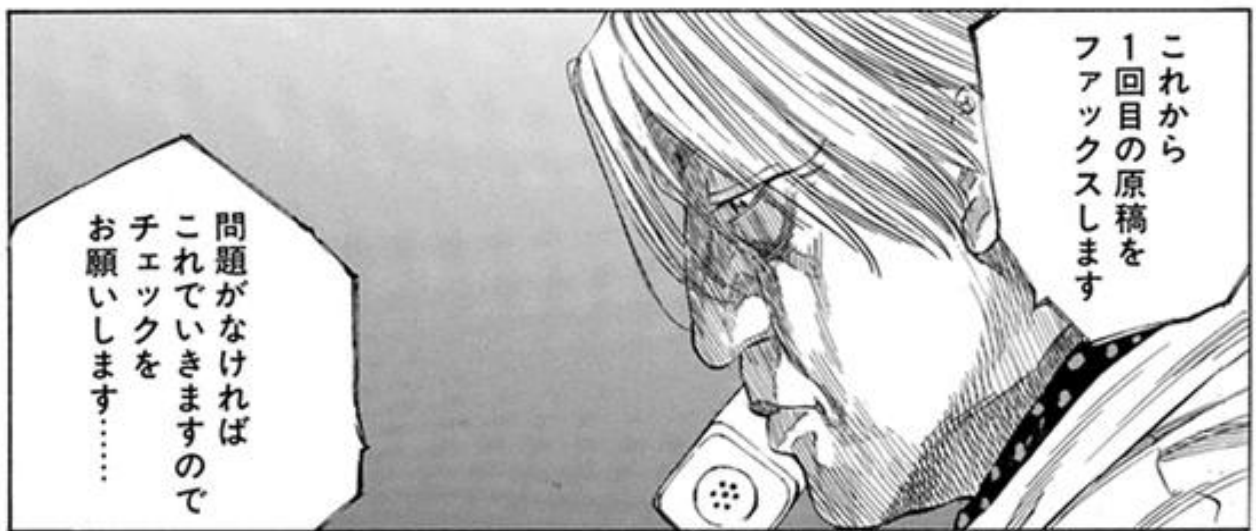
行政のサービスや
民間の支援団体などの
情報についても……











「健二さん（仮名）の命か？」研修医は静かに言
の屋上から一人の精神障
れたが、未だ意識が回
彼の担当研修医が発し
は私たち報道機関が

彼はすぐさま
同大病院の
救急へ
運ばれたが

11月20日



未だ意識が
回復する目処は
たっていない

ある大病院の
屋上から
一人の
精神障害者が
投身自殺を図った



冒頭に掲げたのは
患者の飛び降り後
彼の担当研修医が
発した言葉である



彼を自殺へ
追い詰めた
ものは何だった
のか

そこには
私たち報道機関が
触れようとして
こなかった
闇がある

健二さんは今年、大学を卒業した。講義では最前列に座る勤勉な学生だったが、就職活動は失敗に終わる。将来に不安を感じていた健二さんに相談相手となる友人はなく、孤独な大学生活であったという。在学中、健二さんの病気はまだ発症していない。

卒業してからの健二さんはアルバイトで生計を立てる就職浪人となる。この頃から夜は眠れず、頭痛に苛まれる日々が続く。ある日、健二さんはアルバイト先のコンビニエンスストアで万引きの疑いをかけられる。「言い返す気力も起さないほどの脱力感」と健二さんは語った。この出来事をきっかけに、健二さんは幻聴を聞くようになり、奇行に及ぶ。通報により駆けつけた警察官が保護したとき、健二さんは壁に包丁を何度も突き立てていた。健二さんの病名は統合失調症。以前は分裂病という名で呼ばれていた、自我を保てなくなる精神病だ。飛び降り自殺を図る前日まで、彼は都内の大学病院に入院する。

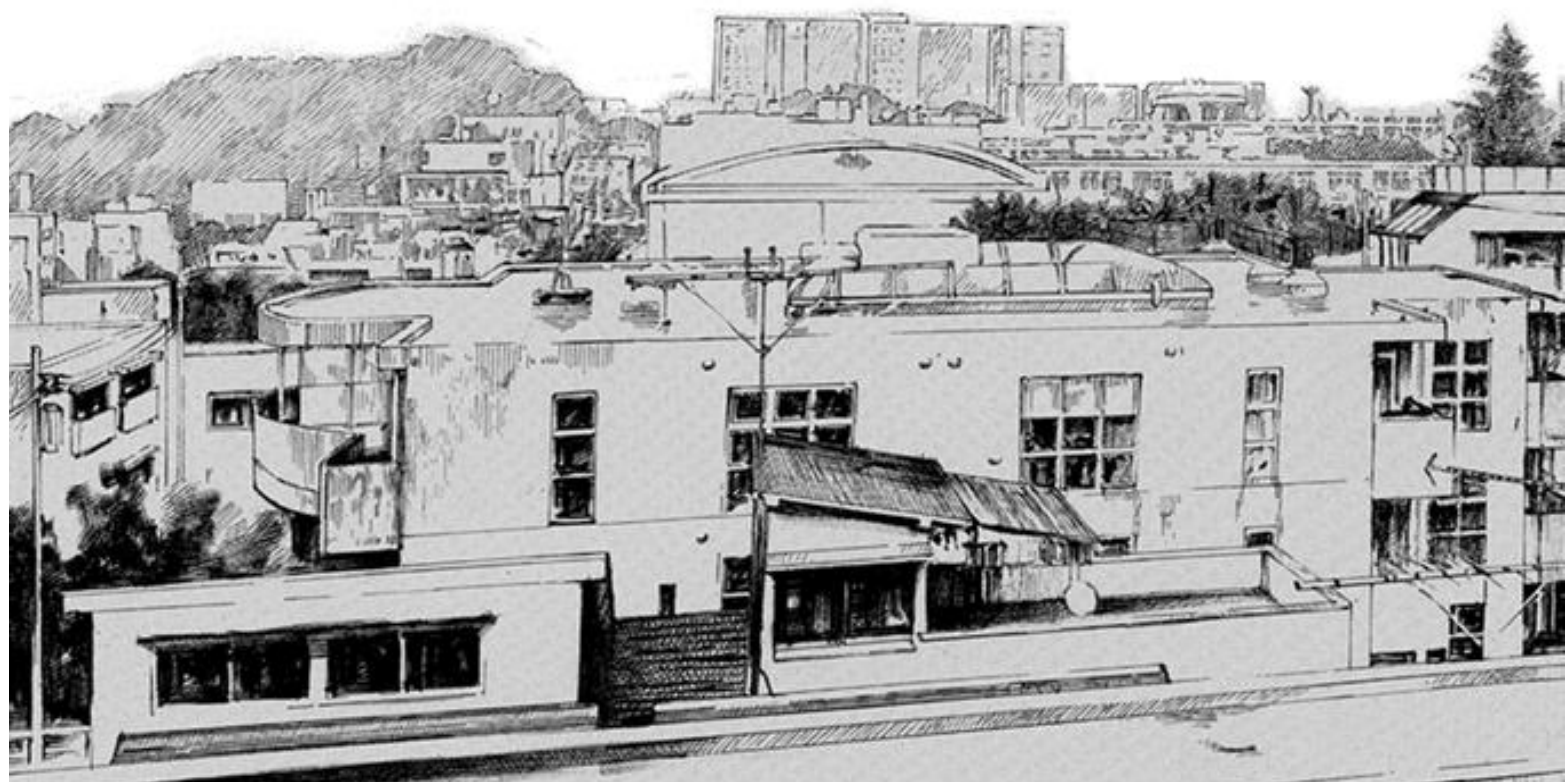
その後、精神病棟に入院していた健二さんは、相変わらず幻聴などに苦しめられていたが、時間の経過と共に治療が功を奏し、病状は快方に向かう。そんな頃、健二さんは同じ統合失調症で入院する由香利さん(仮名)に出会った。健二




さんは由香利さんに恋愛感情を抱いた。担当医は外来に切り替えてもいいだけの快復を見せたと判断し、退院を許可した。不安を抱きながらも、健二さんは退院を決意する。それはやがて由香利さんとの生活を見据えた結論だった。しかし退院を控えた1週間前に、事件は起きた。

○小学校で起きた児童殺傷事件は、その特異性や残忍性から世間の大きな注目を浴びた。その第一報は衝撃的なものであったが、特に、警察発表のある部分を強調してマスコミ各社は報じた。「犯人は精神病院への入退院をくり返していた」と。逮捕された容疑者の男には確かに精神病院への通院歴があった。だが、精神病が今回の惨劇をもたらした原因であったかどうかの議論は行われることがないまま、世論は「精神病患者は危険である」という一色に染められる。その中で健二さんの退院は敢行された。

覚悟を決めた退院から、たった一日で健二さんは自殺へと追い込まれた。病院の外に出た短い時間の中で何があったのかは定かではない。病が彼を自殺に駆り立てたとするのは容易い。だが、健二さんのケースには精神病に対する偏見、マスコミの害悪、精神医療の問題が潜んでいる。これから7回にわたって、様々な角度から今回の悲劇を検証したい。








燃え上げれ
……

もっと
強く熱く……



燃え上げれ……

遠くからでも
見えるように
大きく……

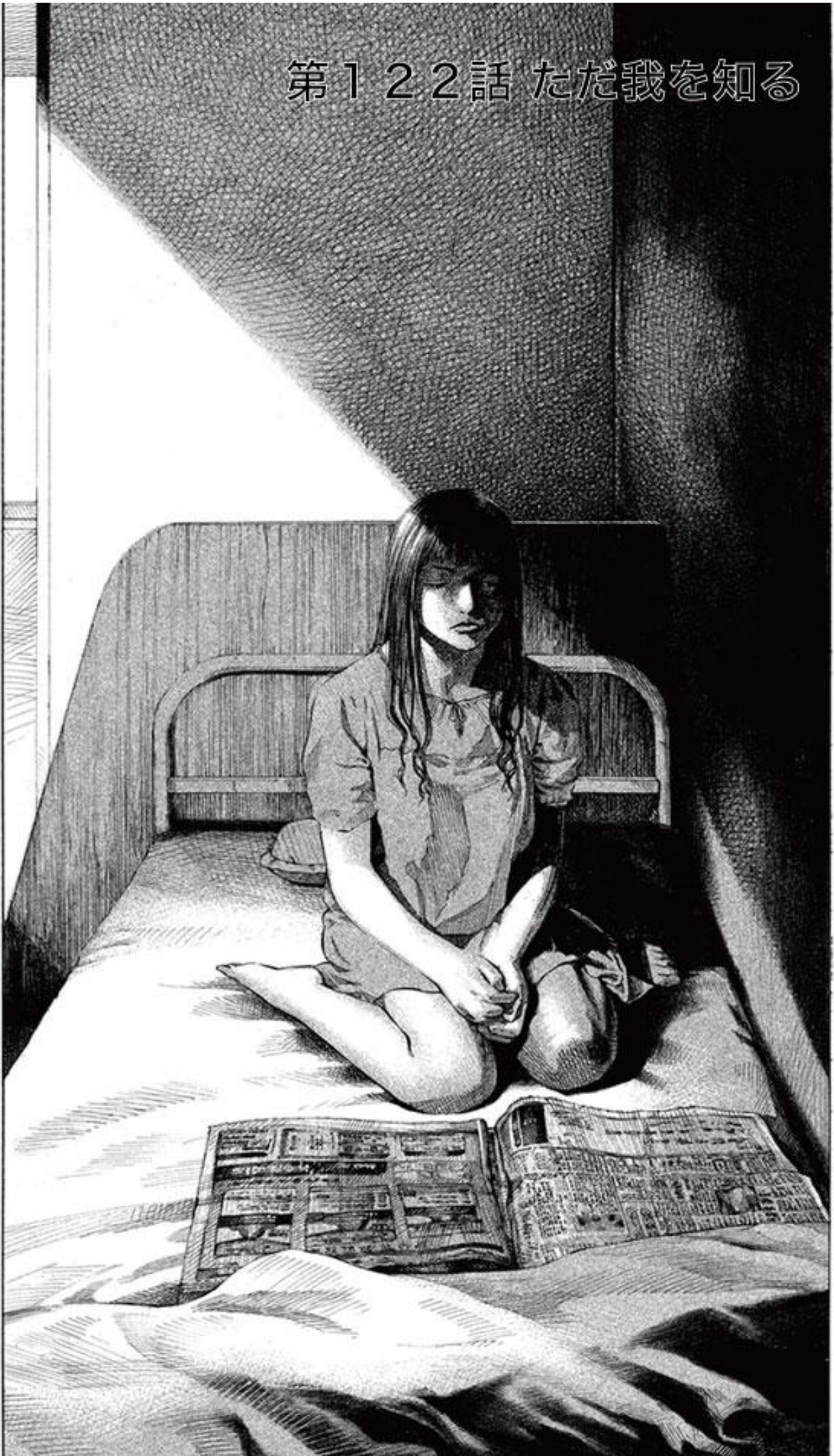






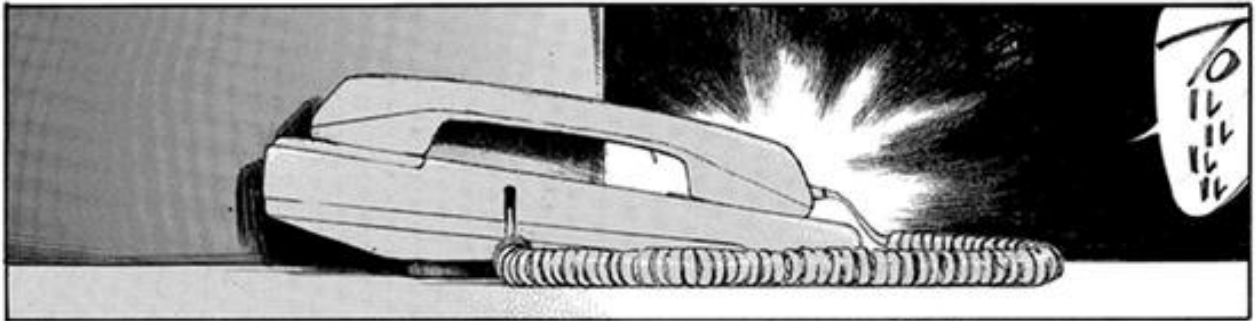


第122話 ただ我を知る

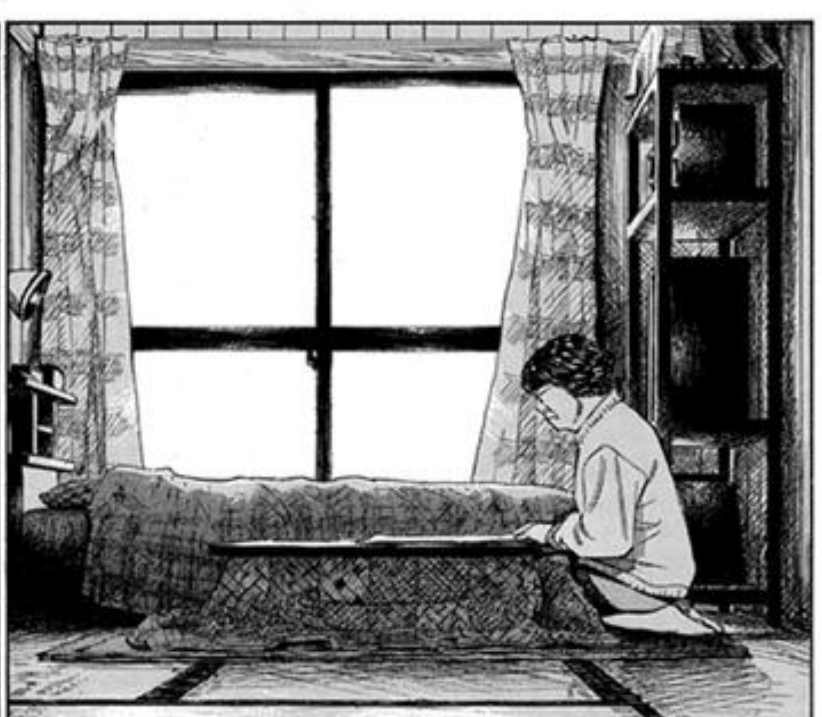














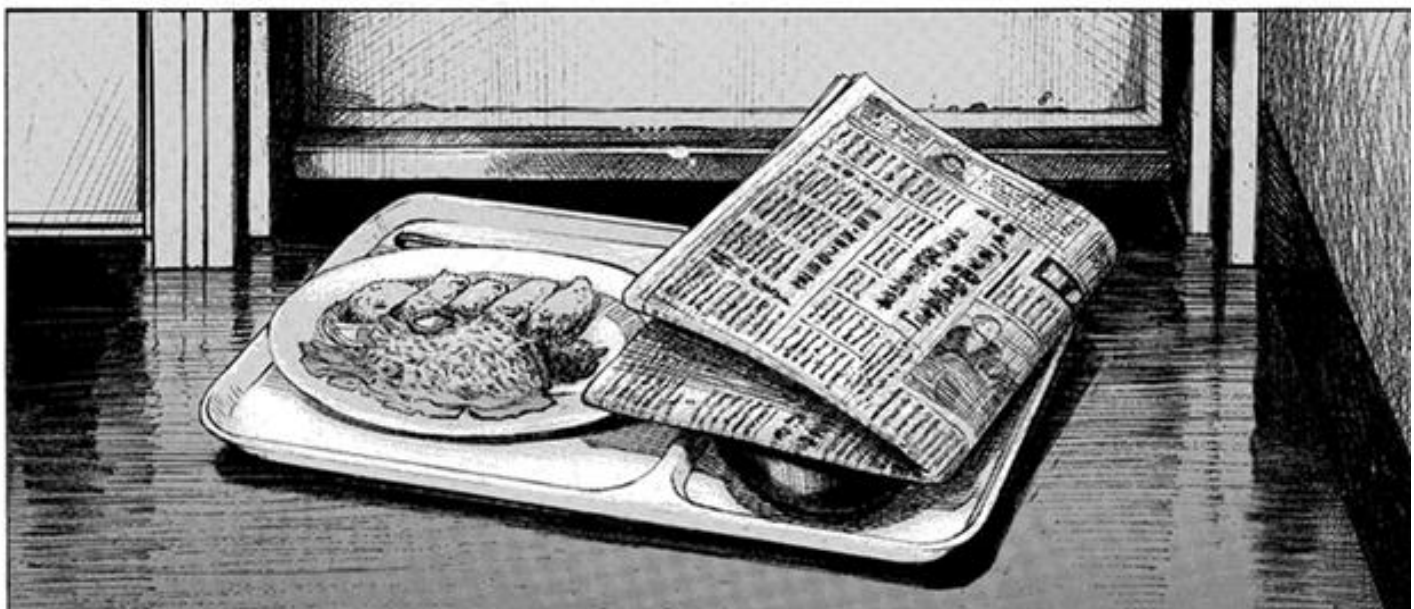
精神科医の多くは
この病気を「自我の
保てなくなる病」と
表現する

それは言い換えれば
「自分」と「そうでない
もの」の区別が曖昧に
なる病気である



早川さん

斉藤先生が
食事と一緒に
これを





私達は自分の手が
自分の一部であり
目の前のテレビが
自分でない事を
知っている

例えるなら私達の
「自分」と「そうでない
もの」は見えない膜の
ようなもので隔て
られている



しかし
この病にかかると
その見えない膜に
穴が開いてしまう
のだ



膜に穴が開き
「自分」が外へ漏れ
出してしまおうと
周りにあるすべての
ものに自分が感じ
られる

そしてすべての
自分以外のものが
暴力的に膜の中へ
侵入してくるの
ようになるのだ

テレビから
聞こえてくる
笑い声が自分を
嘲笑っている
気がする



何かを考えよう
としても考えは
まとまらない内に
「自分」の外へ流れ
出してしまふ



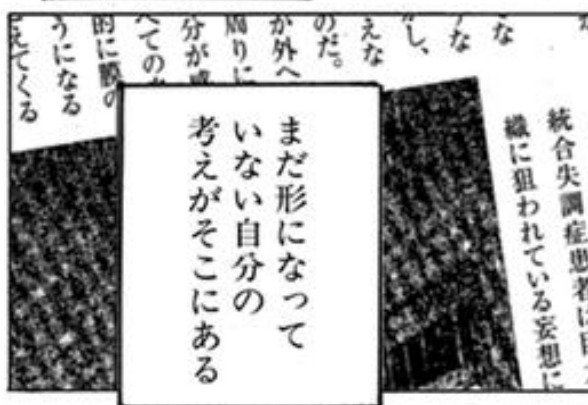
何かを
話そうとしても
考えが抜き取られ
てうまくしゃべる
事ができない

エアコンのかすかな
作動音がヒソヒソと
自分の噂話をして
いる声聞こえる

新聞を見ても
そこに自分を
見つけてしまふ
すかなく
他の
分の噂
こえる。

病で「自分」を
見失った
統合失調症患者は巨大
織に狙われている妄想に
まれている。
そのような思考を経た結
核に狙われている妄想に
まれている。

まだ形になつて
いない自分の
考えがそこにある



考えが
盗まれている





!! 窓を閉めるなって
言ってるじゃない

妖精が入って
来れなくなったなら
どうするの!?



病院へ
行きましょう
.....

あなたはきっと
病気のよ
.....



妖精なんて
いる訳ない
じゃない.....

お願い小百合
.....
バカな事を言う
のはやめて.....



お母さんは
私を騙そうと
してる……

私を騙して
すべてを
奪い取るつもり
なんだわ……



何を言ってる
のよ……

お母さんが
悪かったんなら
謝るから
一緒に病院へ
行きましょう……

これ以上
私から何を
奪うつもり
!?



ウエンティ……
お前の母親は
お前の考えを
盗んで奴らに
報告している

母親がいる限り
我々はお前を
迎えに行く事は
できない……

どうすれば
いいか
分かるだろ？
ウエンティ……



やめて……

一緒に病院へ
行きましょう……



いやあああああ

ブッ
ッ









何も変わり
ませんよ……



数ヵ月後には
彼の医療観察法が
成立します……

触法精神障害者を
一生施設に
閉じ込めておく
事を可能にする
法律がね……



……
そうだな

……
何も変わら
ないかもな



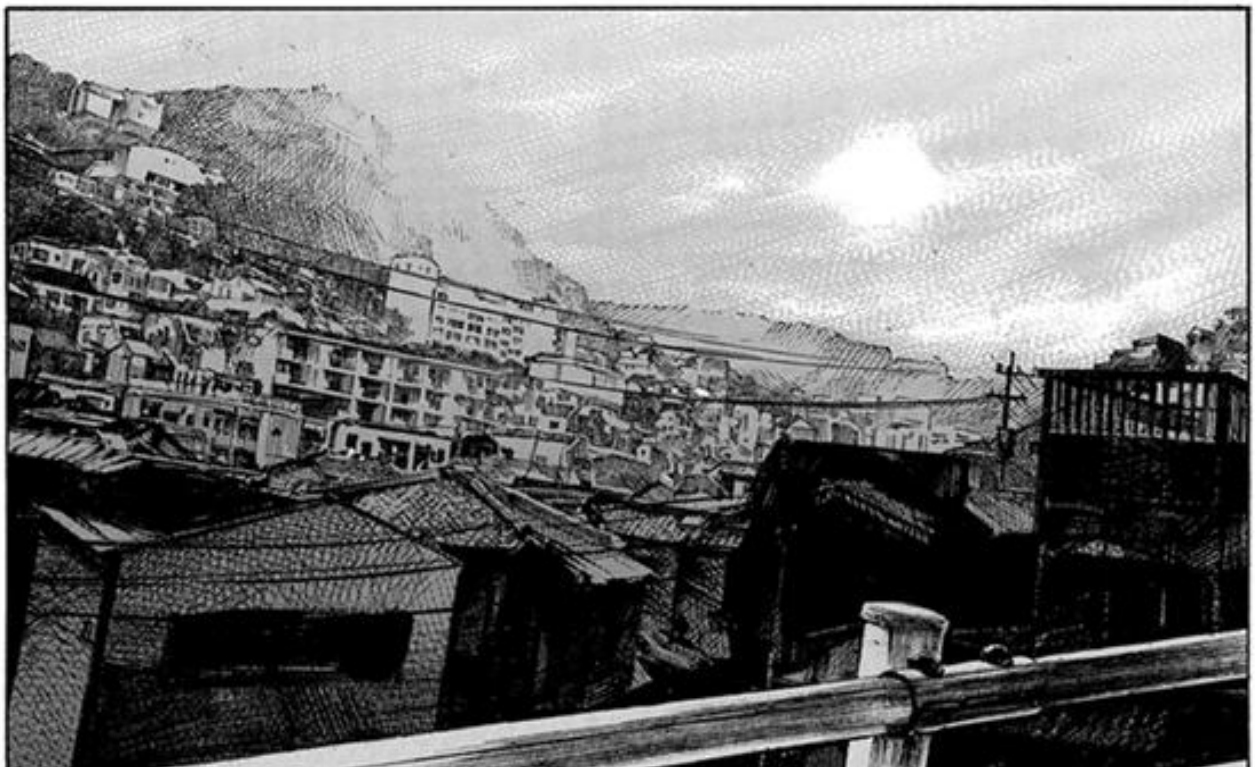
与党内で
意見の調整が
ついたそうです
よ……

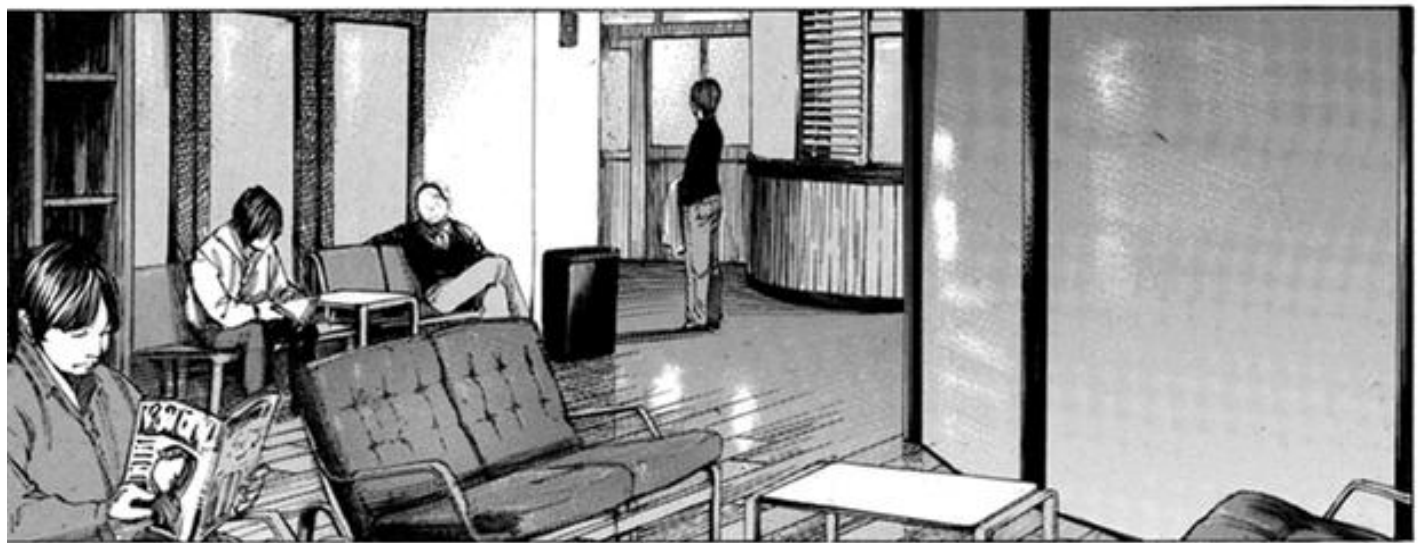
国は一度
ふり上げた拳を
降ろすつもりは
ないようですよ
……



私は……

何も変わら
ない……







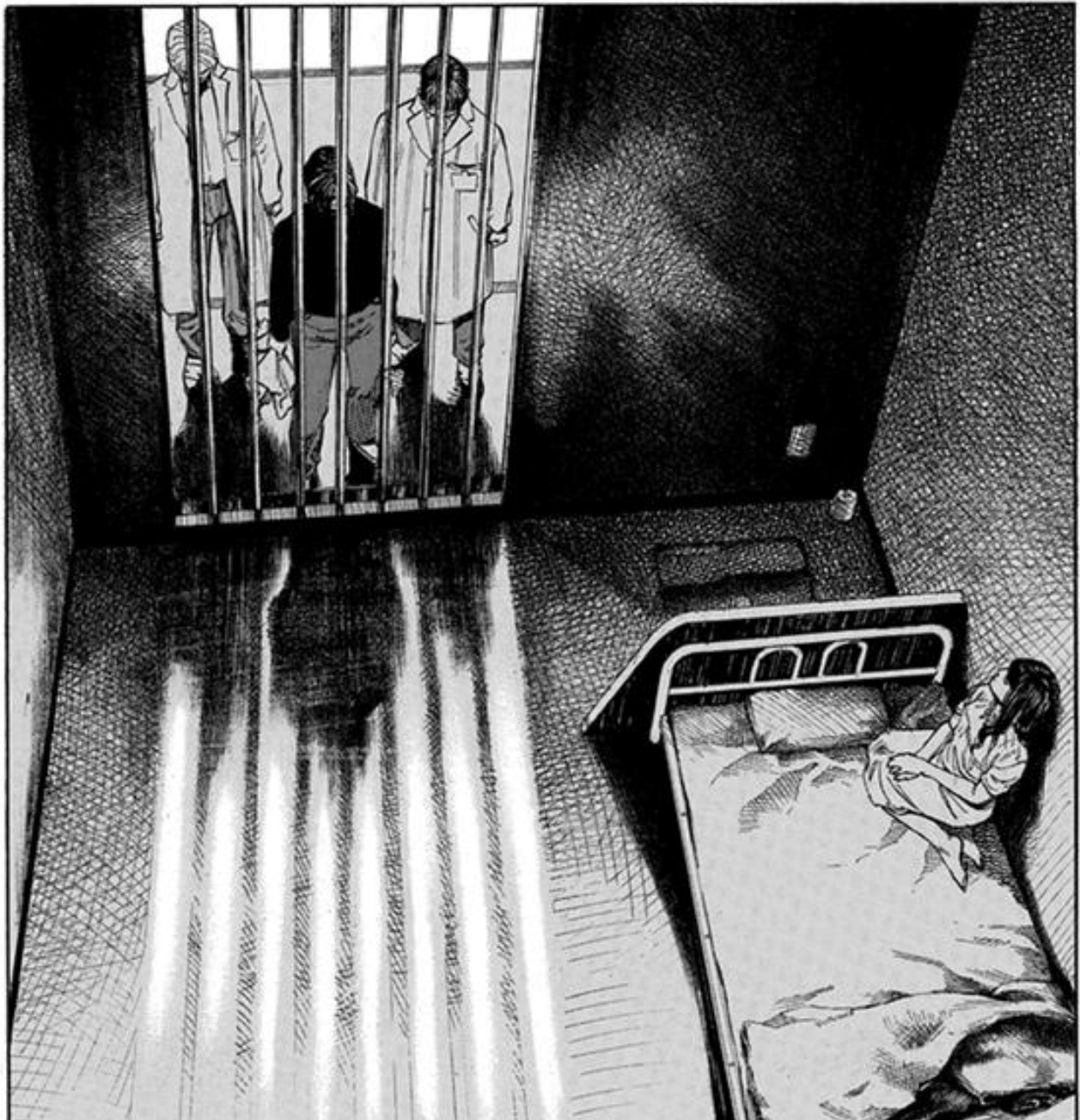






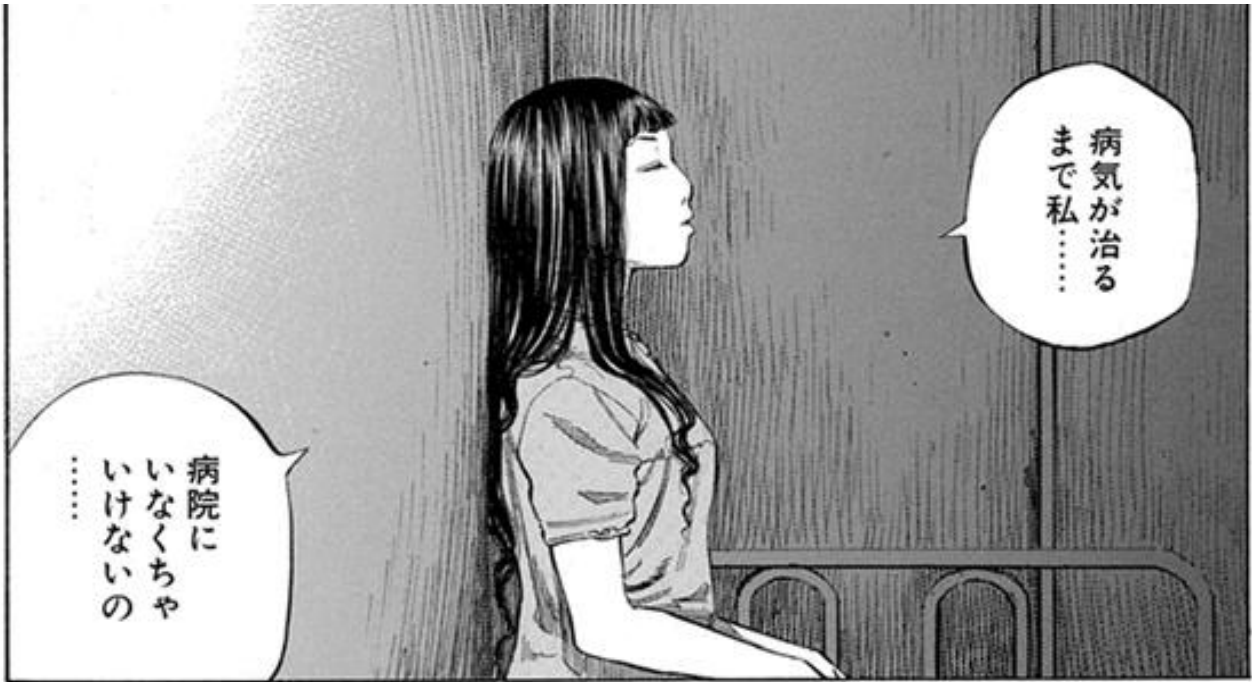
第123話 受容の時





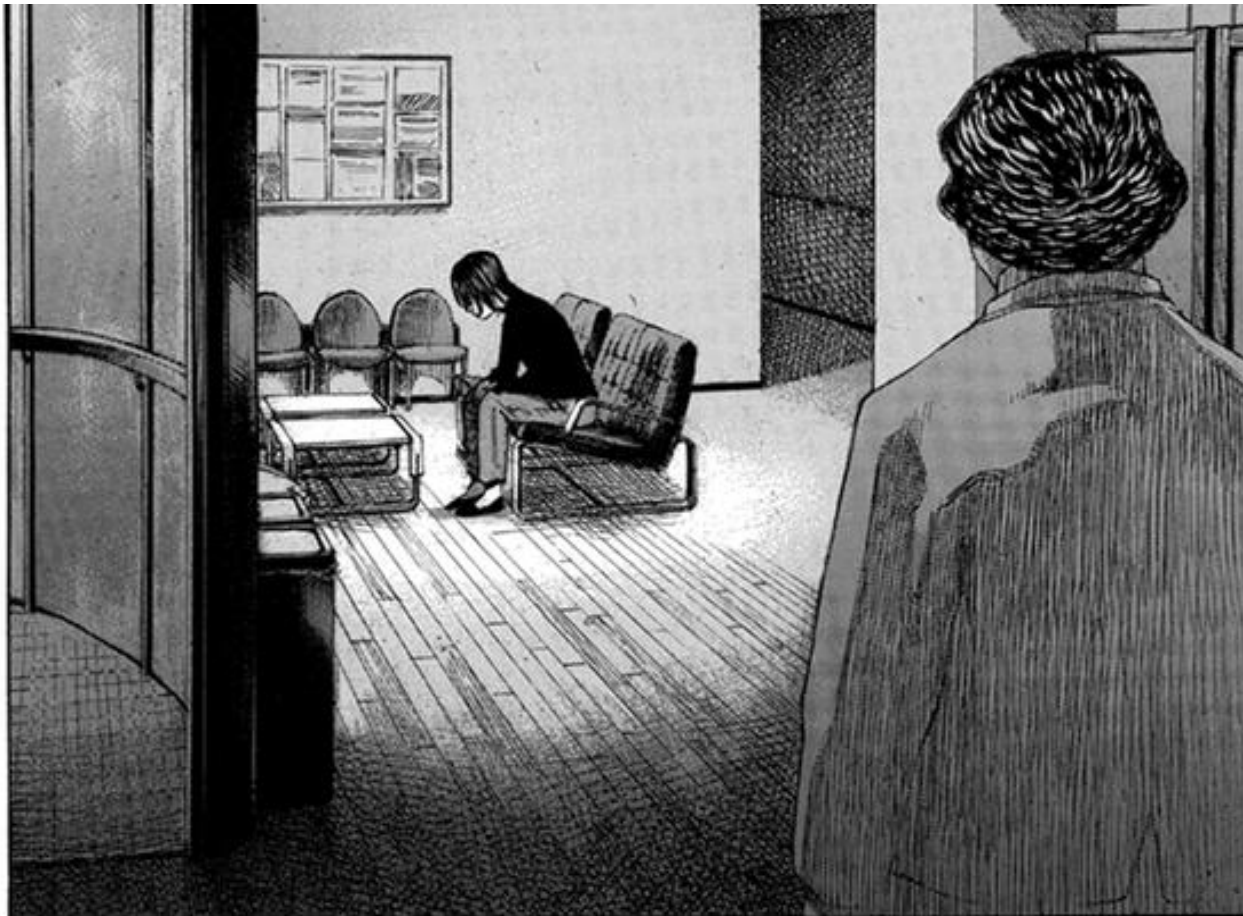












先程は
どうも





ウチも息子が
統合失調症
でしてね……

この病気は
家族も何かと
大変ですよね
……



そうでした
か……

お宅も
お子さんが
入院なさって
いるんですか
……



私が悪かったん
でしようかね
……？

私をもっと
きちんとあの子と
向き合っていれば
こんなことには
……



病気
ですよ……

統合失調症と
いうのは
100人に1人が
かかる病気
なんです……







お母さん
.....

小沢さんは
もう大人に
なっただんです.....



小沢さんには
お母さんの
知らない
大切なものが
あります.....



手を放す
勇気も必要だと
思いませんか
.....?



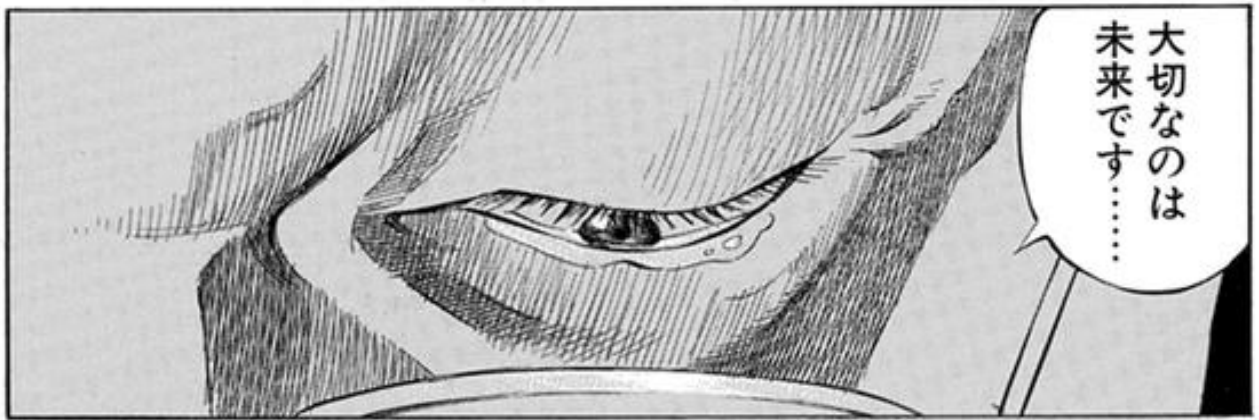
本当は気づき
始めているん
じゃありま
せんか.....

このままじゃ
どこにも
いけないって
.....



私.....
小沢さんと
一緒にいたいです
.....

お母さん
.....



大切なのは
未来です……

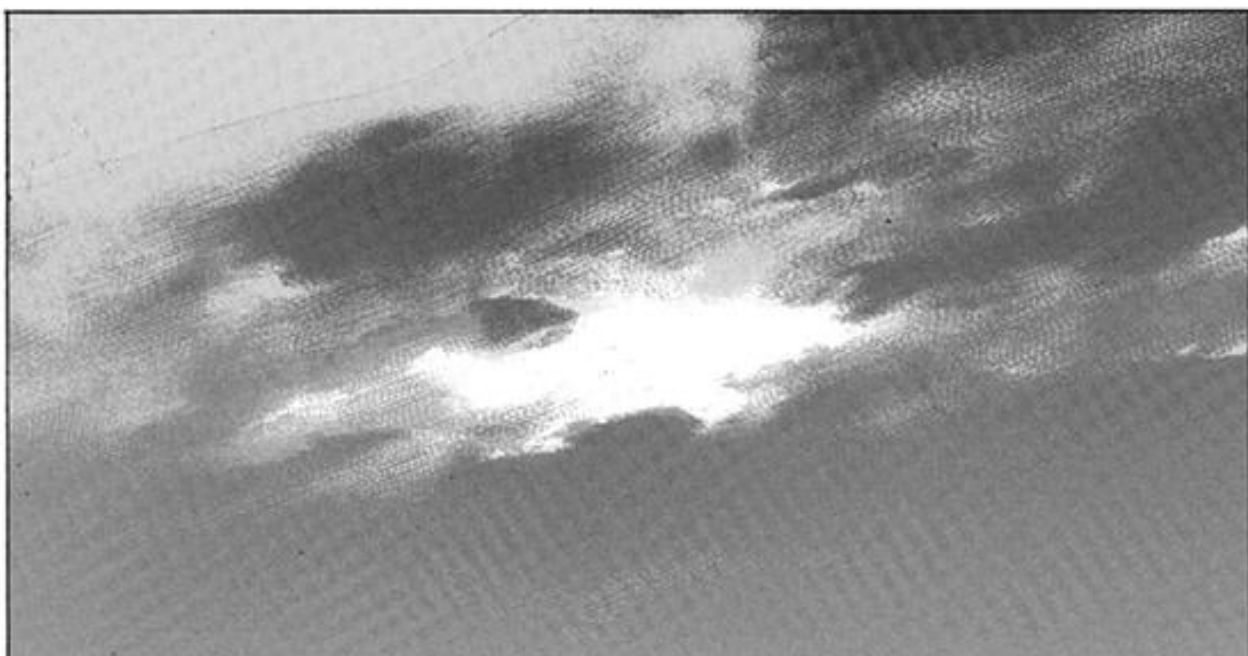


私達親に
できる事は
……

何も与えず

何も負わせず

ただ……
社会に立たせて
やる事じゃないで
しょうか……？





○小事件において我々マスメディアが伝えてきたいくつかの内容は結果的に誤報であった



ある。○小事件において、我々マスメディアが伝えてきたいくつかの内容は結果的に誤報であった。容疑者の男が精神安定剤を10回分まとめて飲んだという事だという事に支配され、幻覚や妄想に支配されて犯行に及んだという無知と無実。今こそ部を知るべき時なのではない

精神医療の未来 第3回

が業界全体で多くを占めている。容疑者の男が精神安定剤を10回分まとめて飲んだという事実も、康状態険なものである。自分の正しい判断

新しい保険の在る

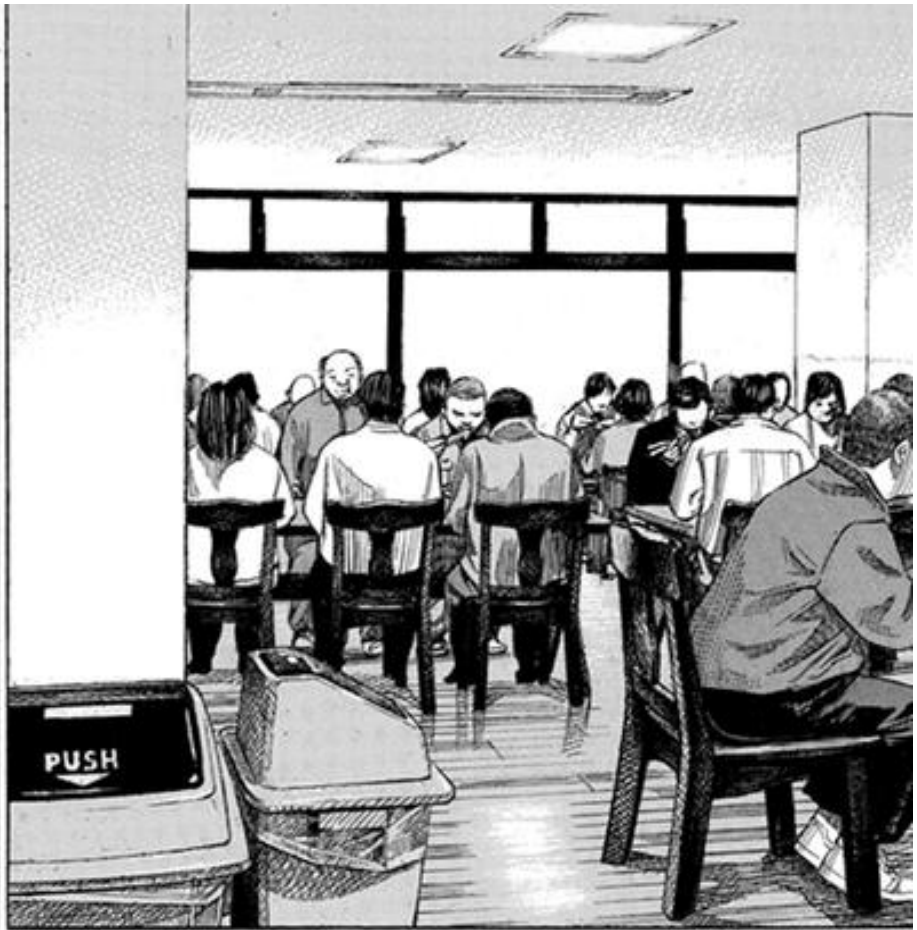
精神科病

今こそ我々は精神科の内部を知るべき時なのではないだろうか

- ①精神科病院の使命
精神科病院は、超域医療、福祉ならびに保健を担う。
- ②精神科病院の倫理
精神科病院の職員は、奉仕の精神をもって、自己の心を医療に捧げるとともに、人間愛をもって患者の家族に接する。
- ③人権尊重と守秘義務
精神科病院の職員は、とくに患者の基本的人権を尊重するとともに、守秘義務についても厳重に守る。
- ④生涯研修
精神科病院の職員は、医師も勿論 医療従事者の学術的知識向上のため、たゆみなき研修に励む。
- ⑤地域医療



偏見は無知と無理解によって生まれる



精神障害者は
果たして
危険なので
あろうか？



警察庁の統計に
よると
2000年に
検挙された
一般刑法犯
約31万人の内

精神障害者は
疑いのある者を
含めて2072人

これは検挙された
一般刑法犯全体の
0.67%でしかなく

15歳以上の人口に
占める精神障害者
の比率1.84%よりも
かなり低い





また

未検挙の
被疑者の大部分は
精神障害者以外と
考えられる事なども
考慮する必要がある



重大犯罪に限れば
殺人で9%
放火で16%と
人口比で考えれば
検挙者は多いが

この中には
一時的な精神障害や
事件後に初めて
精神障害が判明した
ケースが含まれる



精神障害者は
全国に200万人いる

しかしその中で
検挙された
一般刑法犯は
2072人と
0.1%に過ぎない




法務省によると
精神障害者による
殺人の被害者の
約7割は親族で
ある

再犯率も低く
精神障害者は
放っておくと
通り魔的に犯罪を
犯すという
イメージは誤りだ



精神障害者の
殺人や殺人未遂に
至っては132人と
0.01%にも満たない



精神障害者が
危険であるかどうか
という問いかけ自体
意味のない事
なのかもしれない

糖尿病患者は
危険であるか
？

高血圧患者は
危険であるか
？

肉体労働者は
危険であるか
？

サラリーマンは
危険であるか
？

日本人は
危険であるか
？



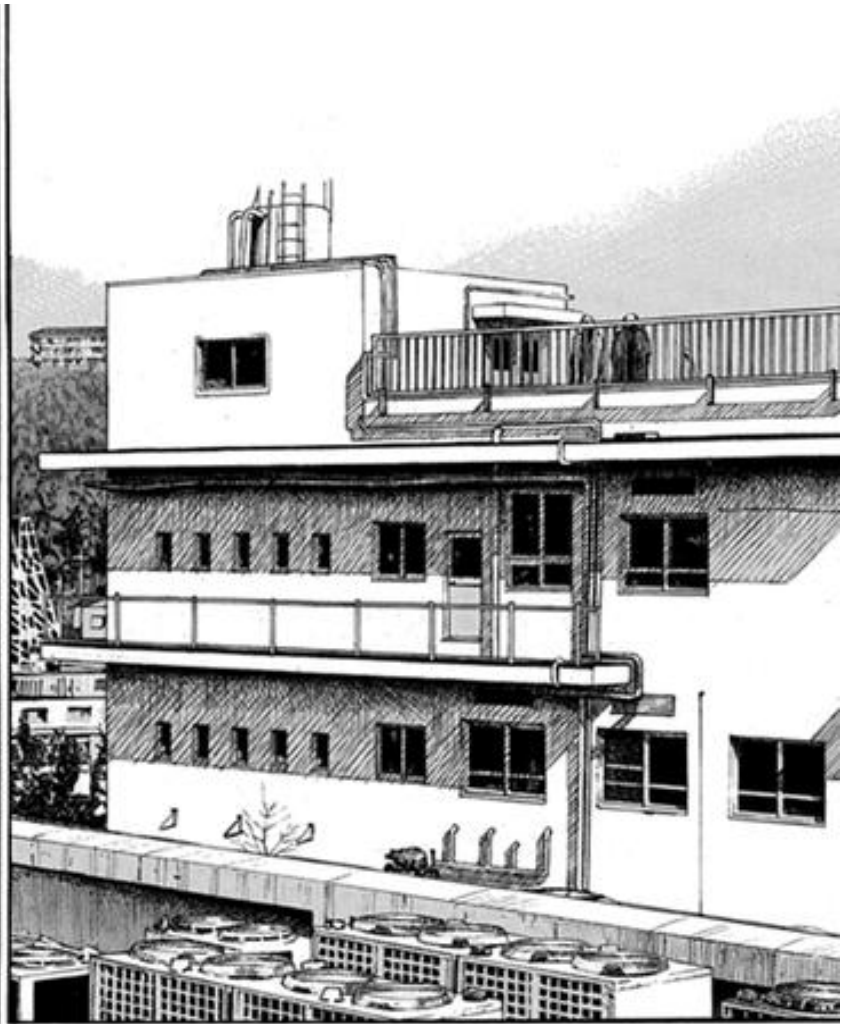




第124話 屋上の戦士









……
伊勢谷先生

結局私は何かを
変える事が
できたんで
しょうか……？

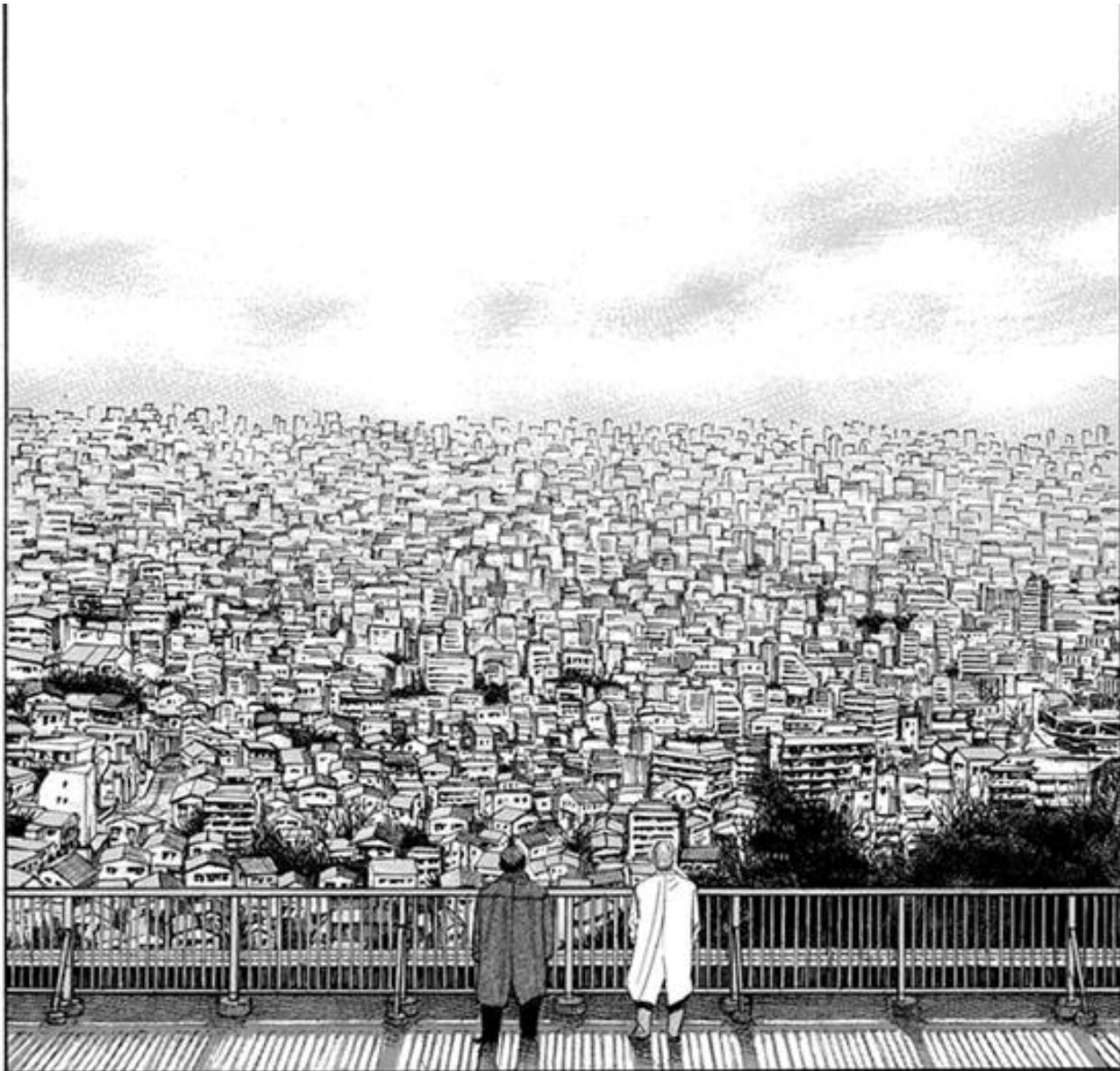


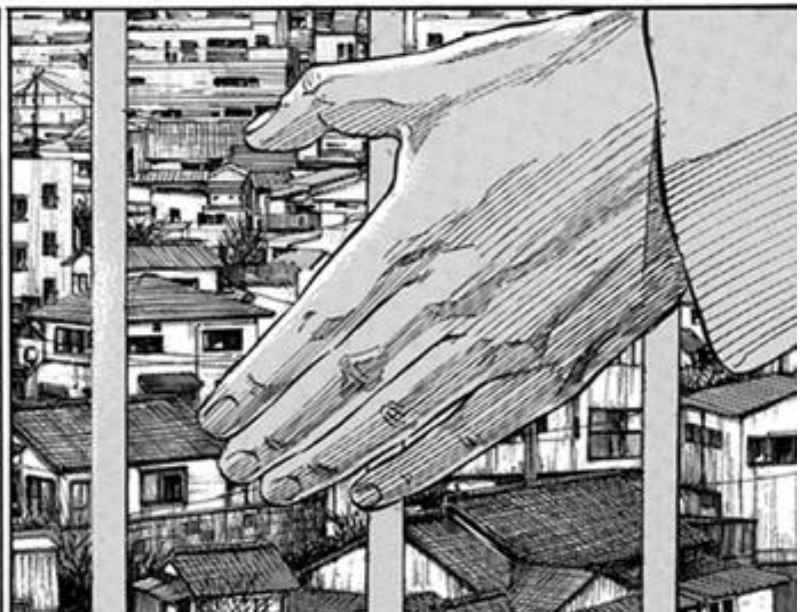
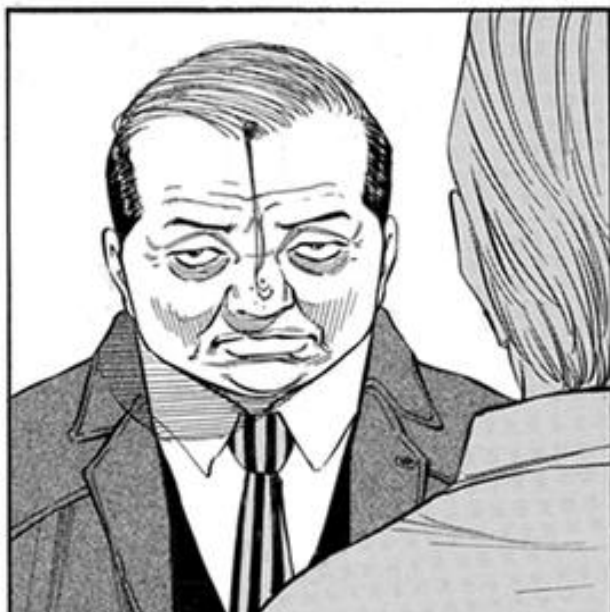
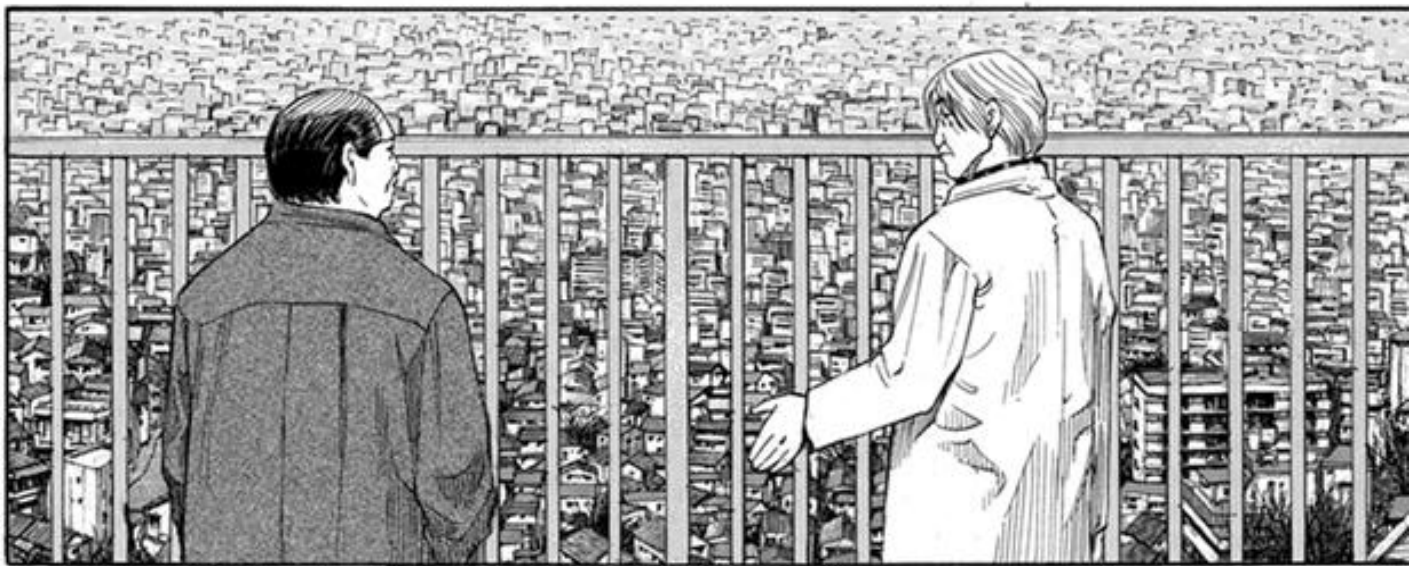
ある程度
反応が
あった事は
事実です……

ですが
何かが
変わったかと
言う……

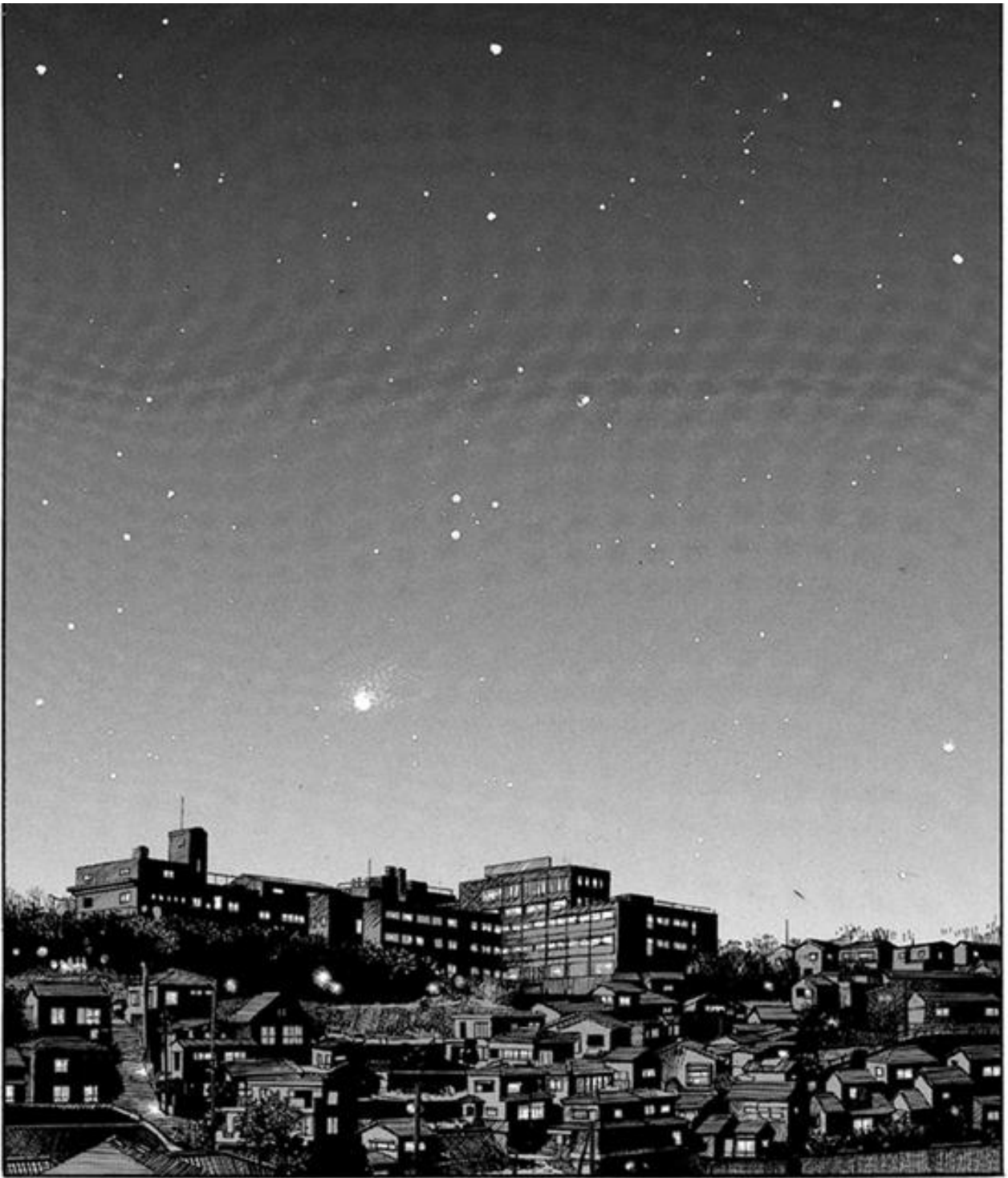


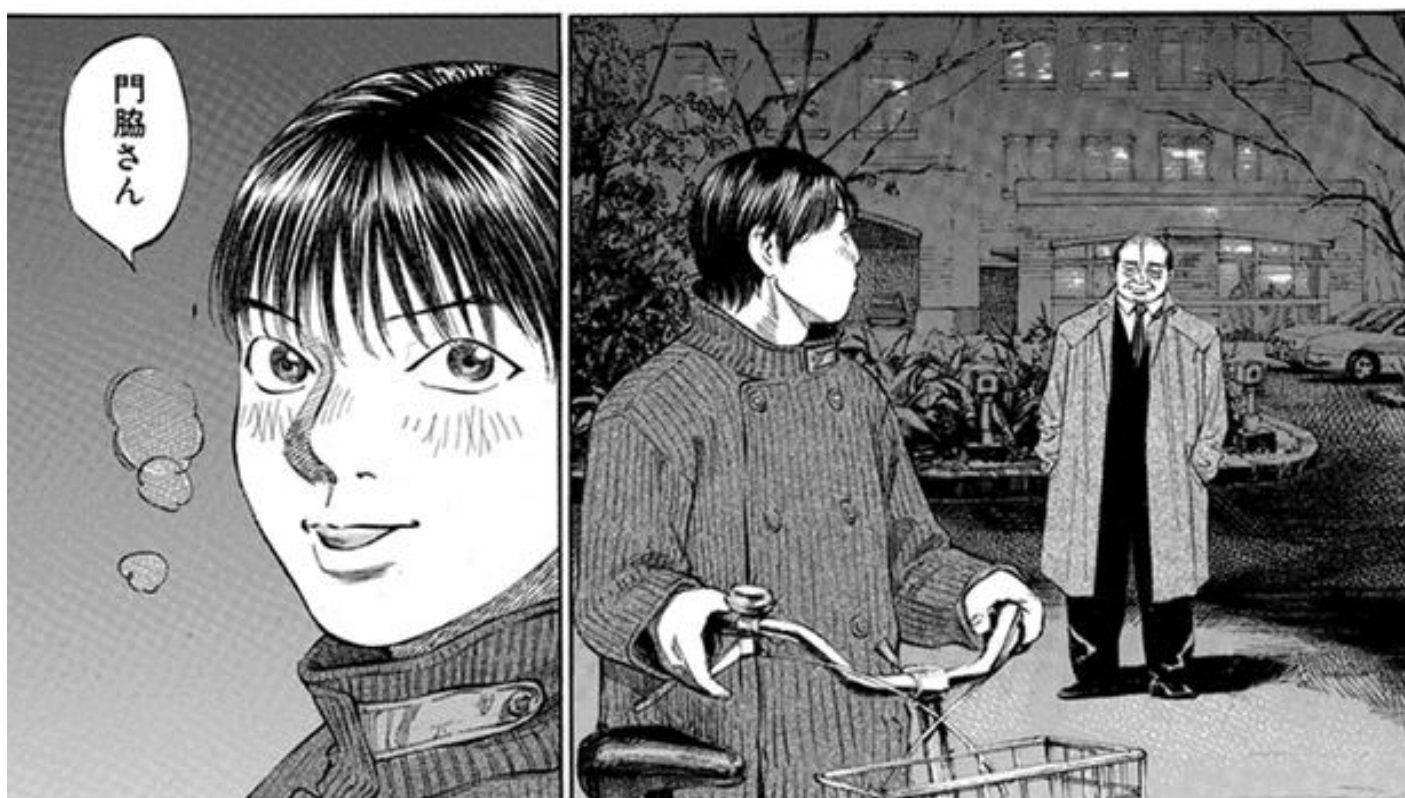
何も
変わりませんか
……？





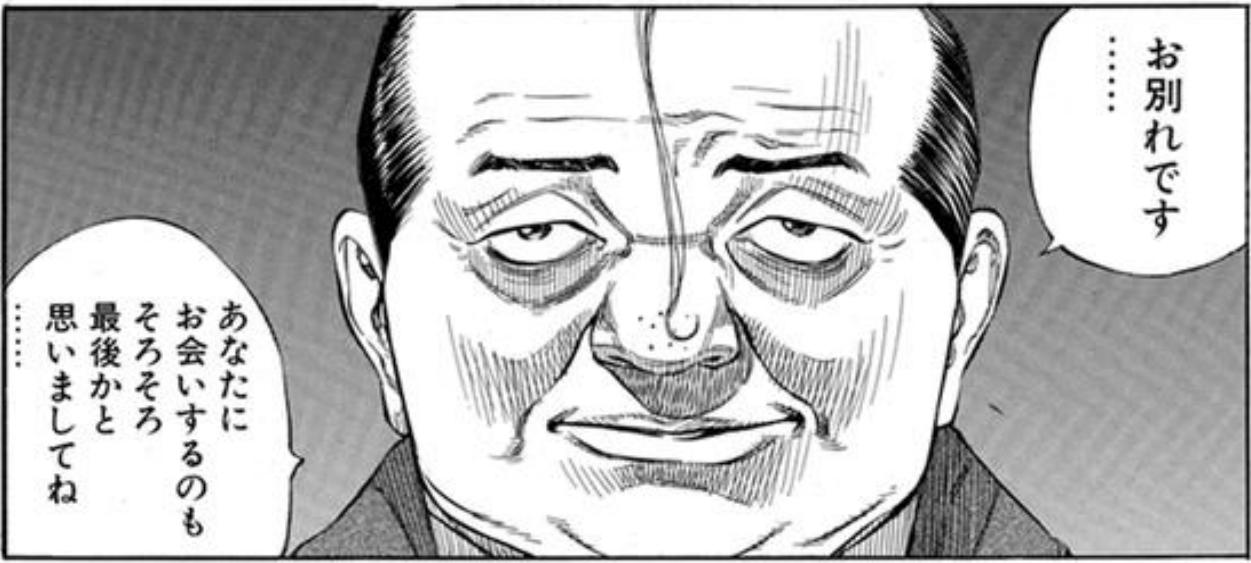






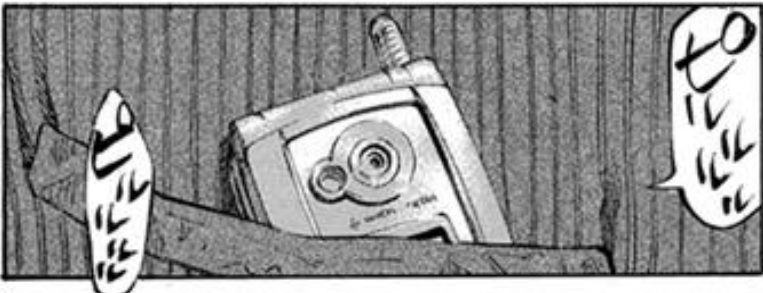


飯でも一緒に
...? どうですか



お別れです
...

あなたにお会いするの
もそろそろ最後かと思
ひましてね
...



お別れ



もしもし

あ...
すいません
...

あ...
伊勢谷先生...
今日はお帰りになった
んじゃない...



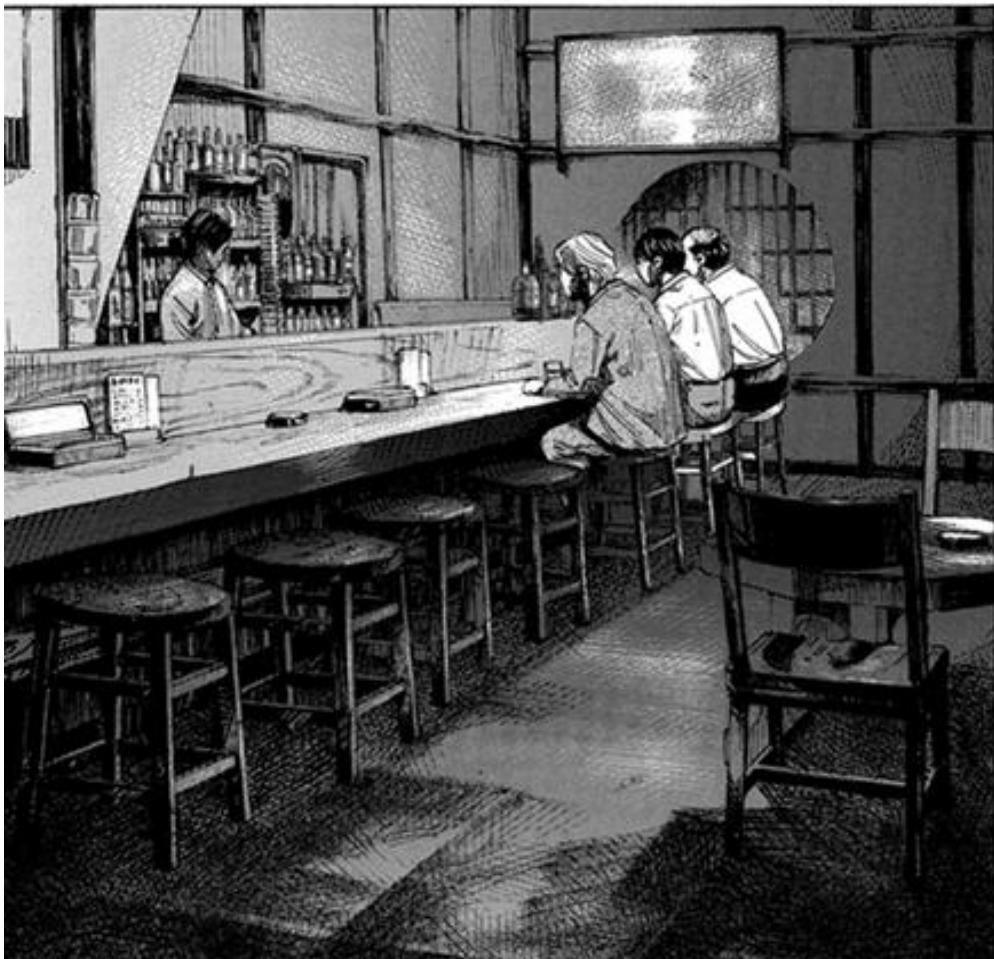
食事でも
一緒に
どうですか？



君の精神科での
研修も
もうすぐ
終わりです……









私のいた病院では
毎朝入院患者を
床に一列に
寝かせてね……

端から順番に
いわゆる
電気ショックを
やっっていく
わけです……



私が
精神科医に
なった
20数年前……

精神病院という
所の多くは
それはもう非道い
所でした……



壮絶な
光景ですよ
……

電極を
こめかみにあて
100ボルトの
電流を流すんです
……

確かに
そうすると
患者は
おとなしくは
なるんですけどね
……



てっ
っ



我々の仕事は
刑務所の看守
……

あるいは
動物園の飼育係
でした……



患者は収容して
おけばよいと考え
社会復帰など
想像もしません
でした……

精神障害者の
人権に対して
意識が低かった事も
あるでしょう……



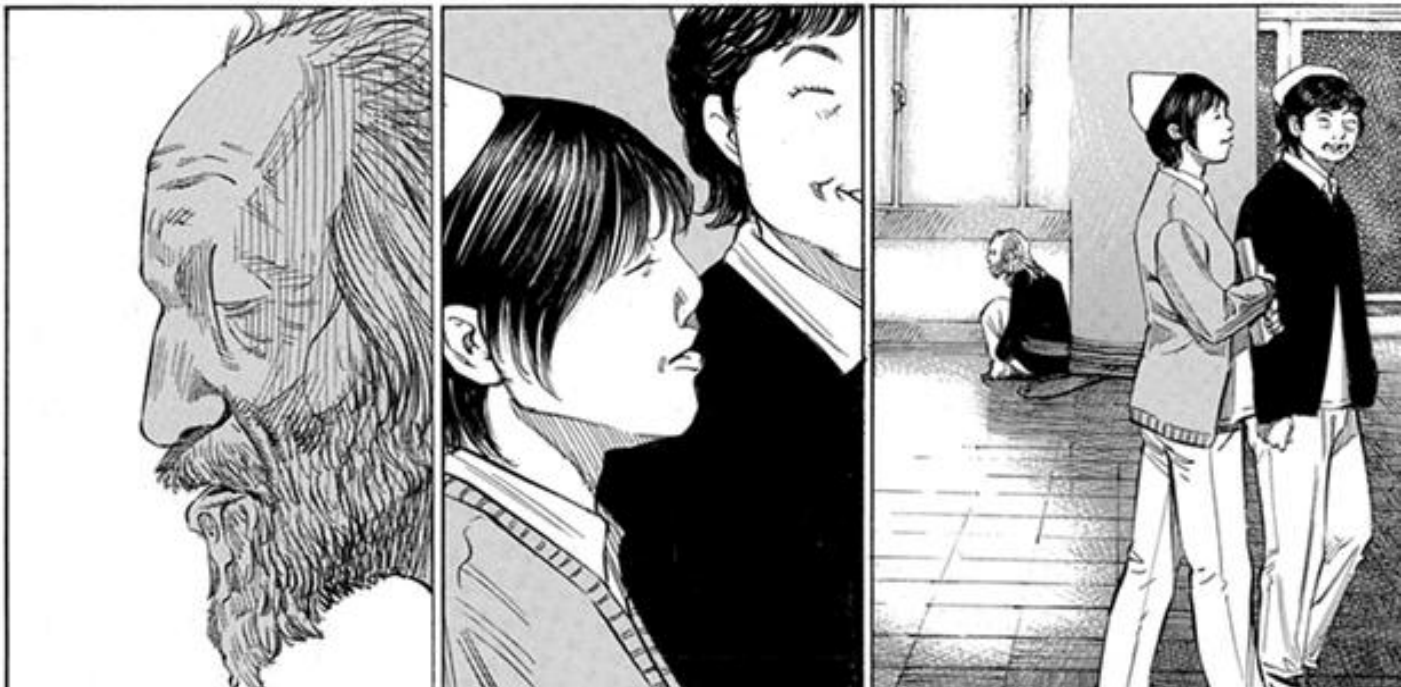
暴れる患者は
懲罰的に
保護室に隔離
しました……

それでも
治まらなければ
ベッドに紐で
縛り付けました
……



当時 患者の中に
病院のスタッフから
ポチと呼ばれている
男性がいましたね
……







その病院に
勤めてから
1年がたった
ある日……

私は
病院に内緒で
彼のロープを
ほどきました
……



……
だけどね
……

逃げないん
ですよ……
彼……

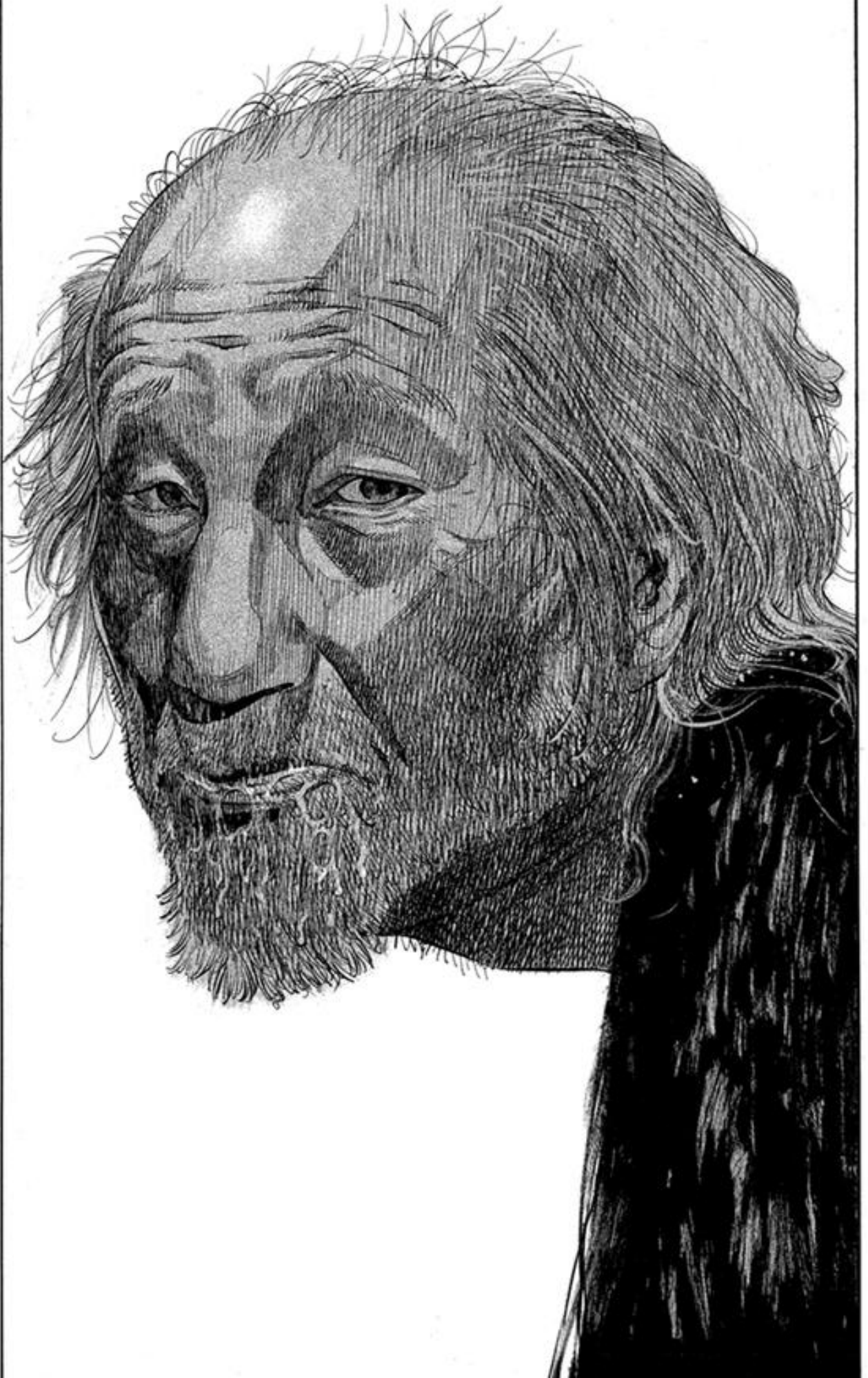


今でも
忘れられ
ません……

私はあの目から
逃れたくて
もがき続けて
いるのかも
しれません……

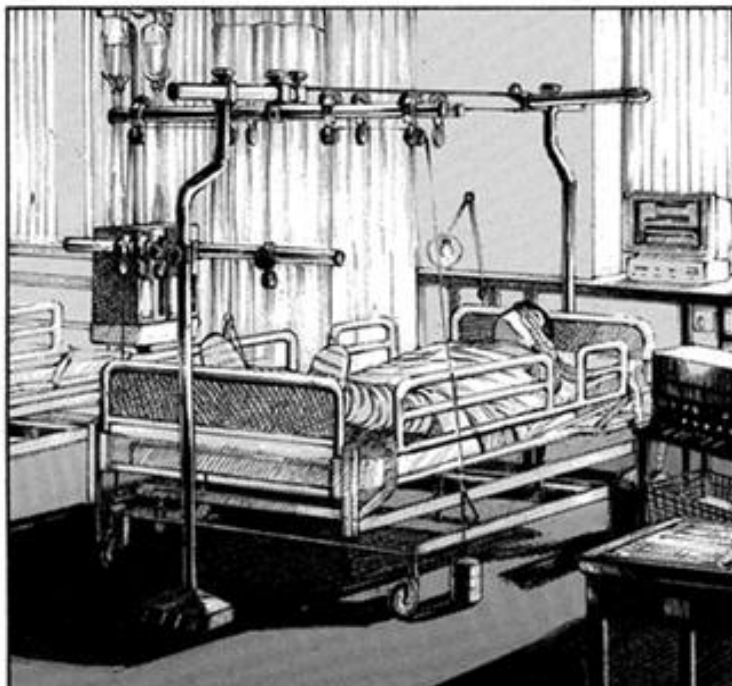
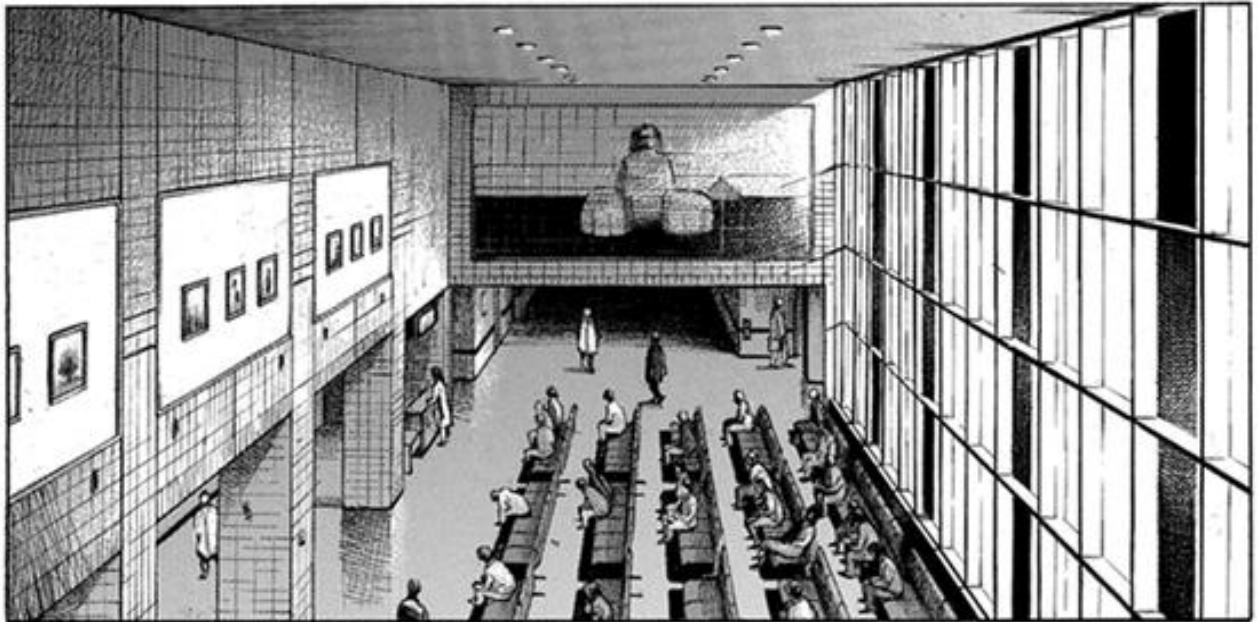


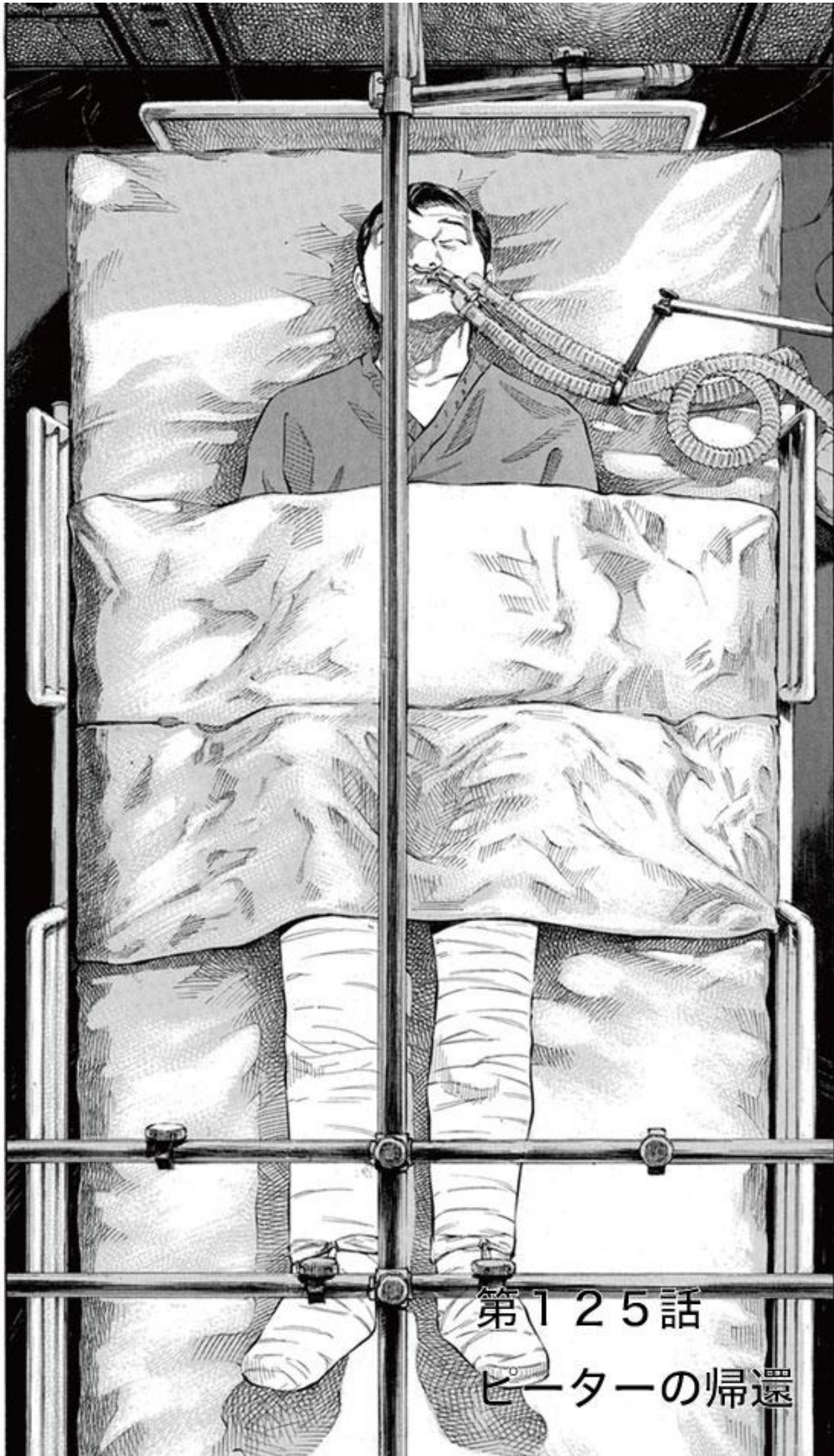
……
じっと私を
見るんです
……











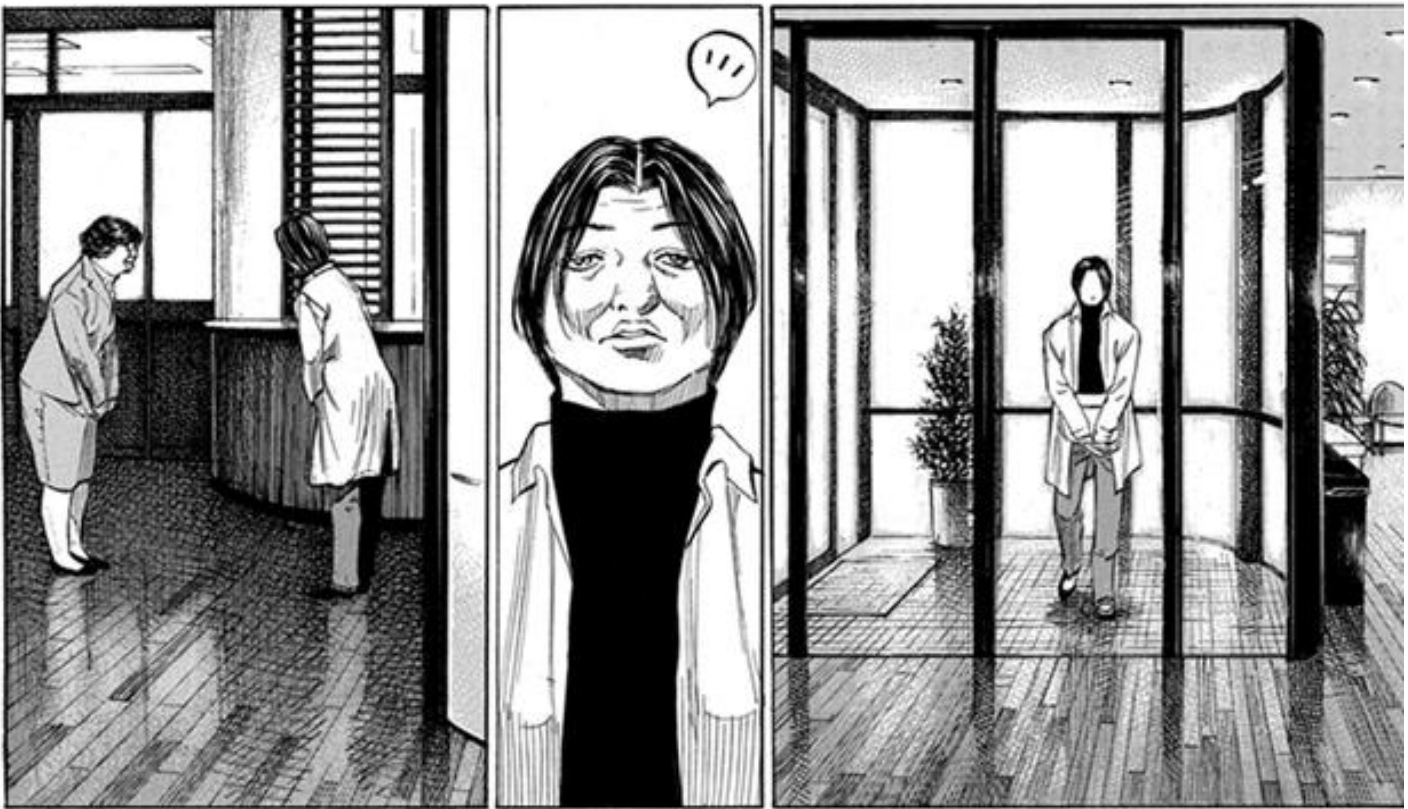
第125話

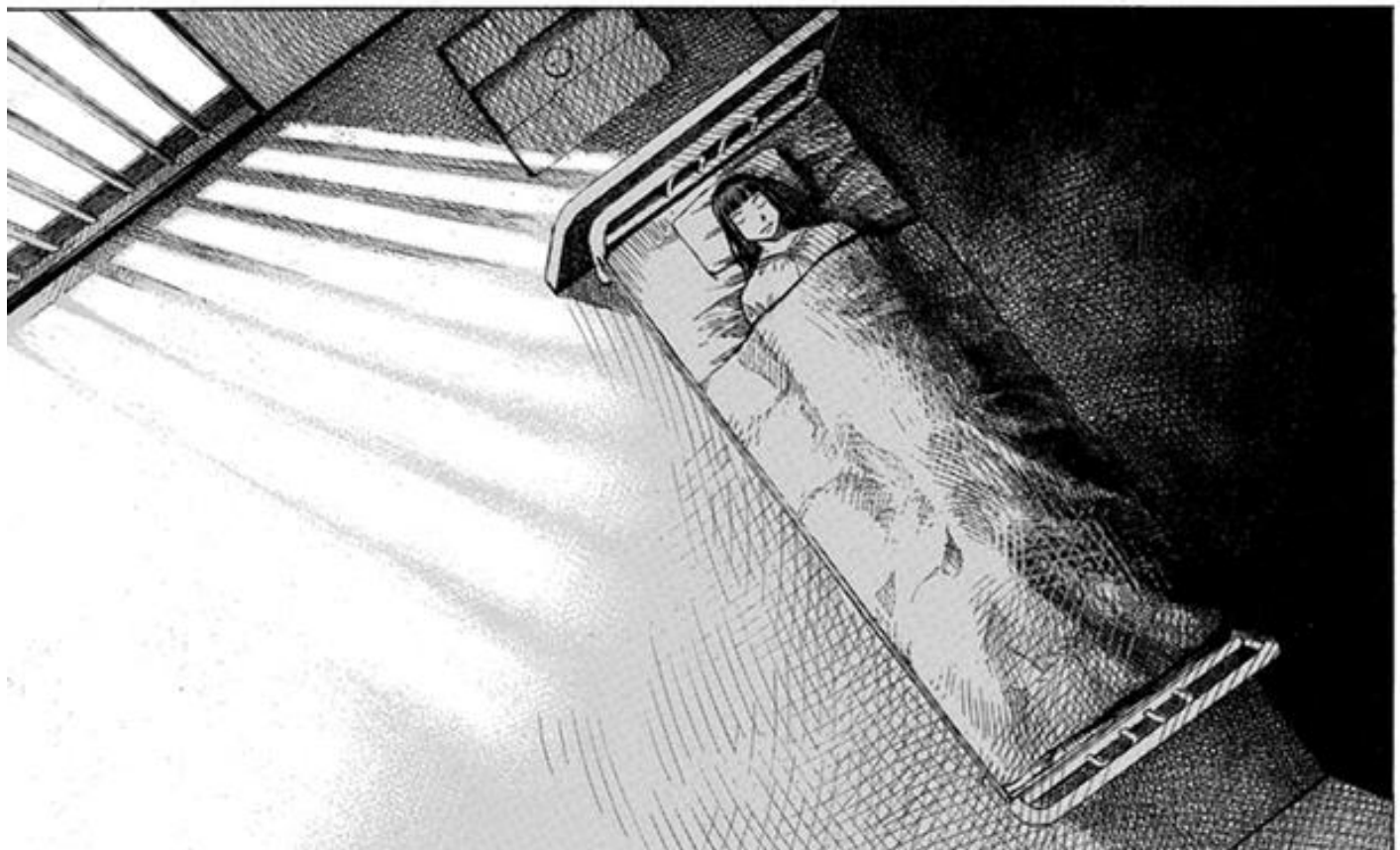
ピーターの帰還



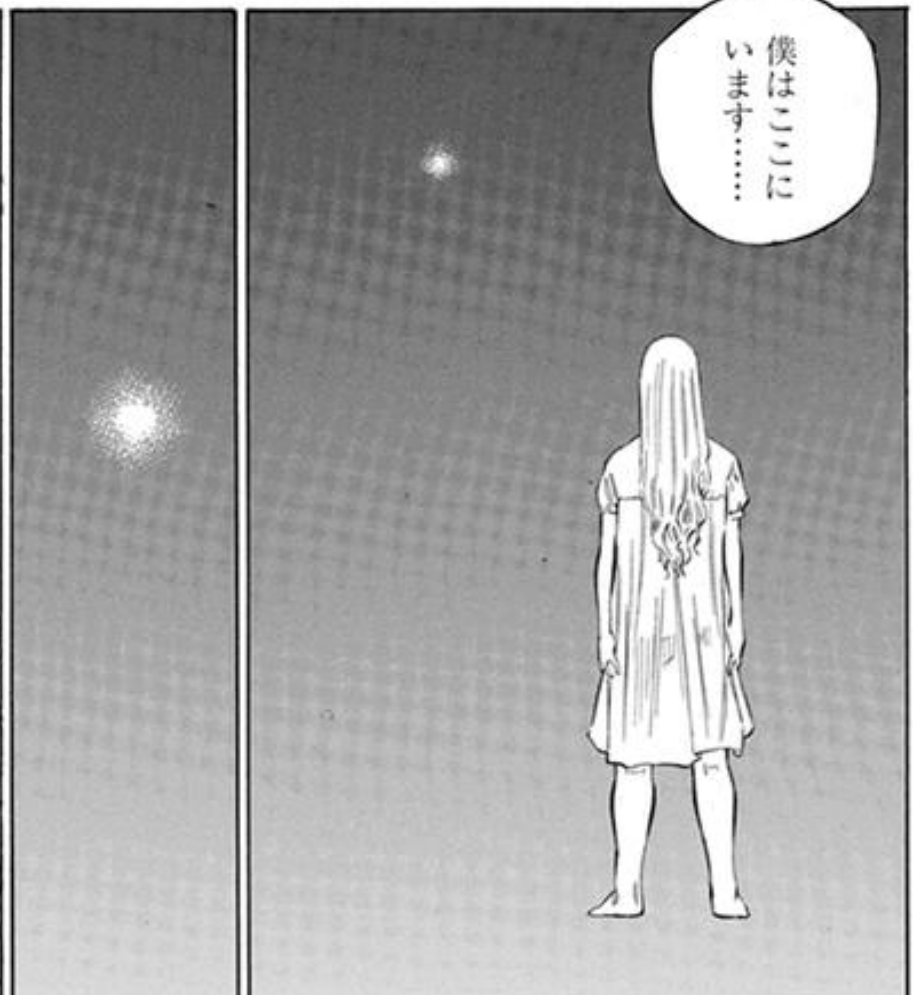
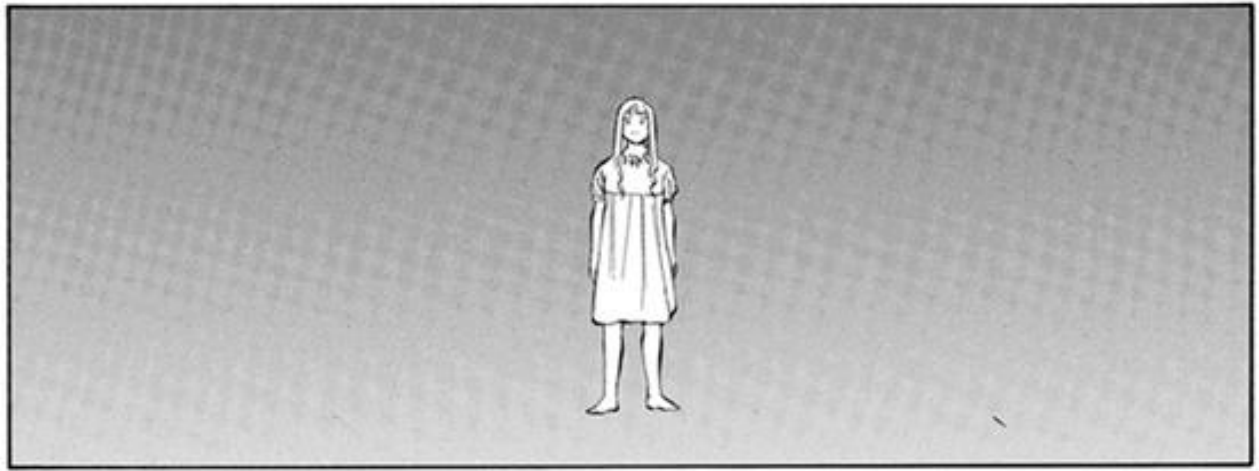
ご案	
■ 保険取扱	保険医療機
■ 施設基準	精神病棟入 精神科急性期 精神療養病 夜間勤務等





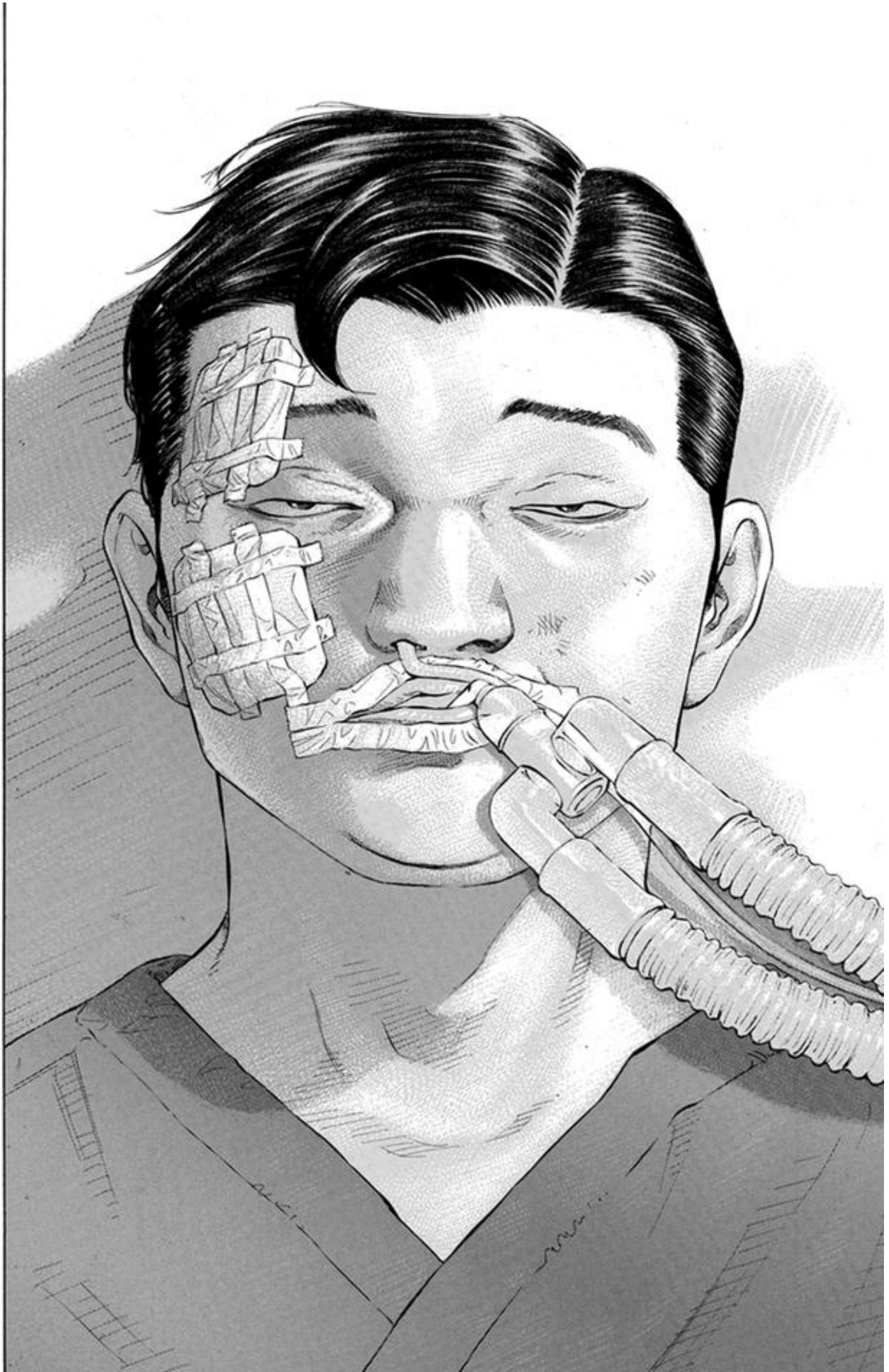












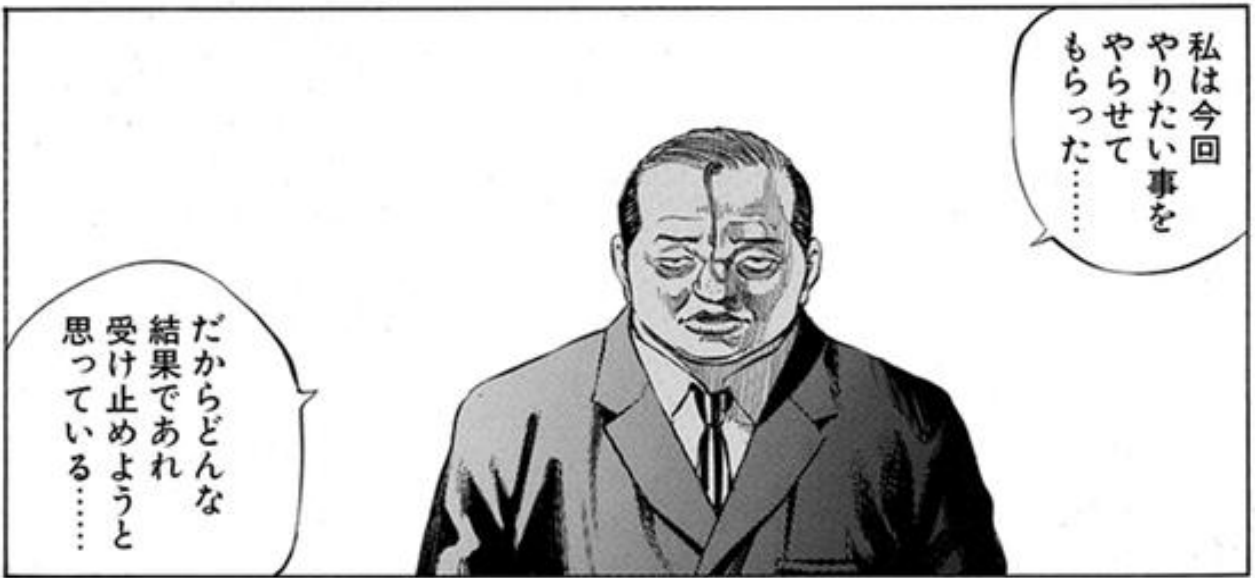
次の
ニュースを
お伝えします





種本君……

これは私の
正直な気持ち
なので変に
受けとらないで
ほしいんだが……



私は今回
やりたい事を
やらせて
もらった……

だからどんな
結果であれ
受け止めようと
思っている……



だが私が
やりたい事を
やれたのは……

君のような
人間が会社に
いてくれた
おかげだ……



君は私を
無視しなかった
……



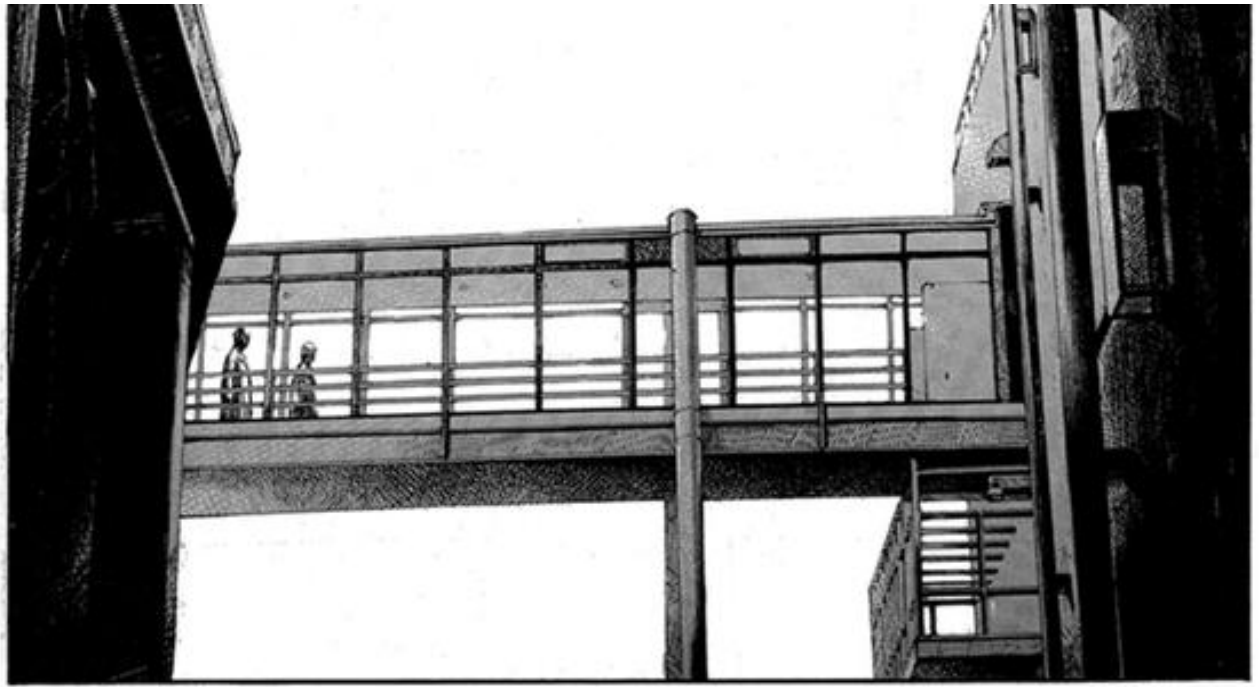
私を否定
したいだけなら
私を無視すれば
よかった……

だが君は
それを
しなかった……



感謝している
……









さいとう
齊藤先生……

君は
どんな医者に
なるつもり
ですか……？



僕は
伊勢谷先生の
やり方には
同意できません

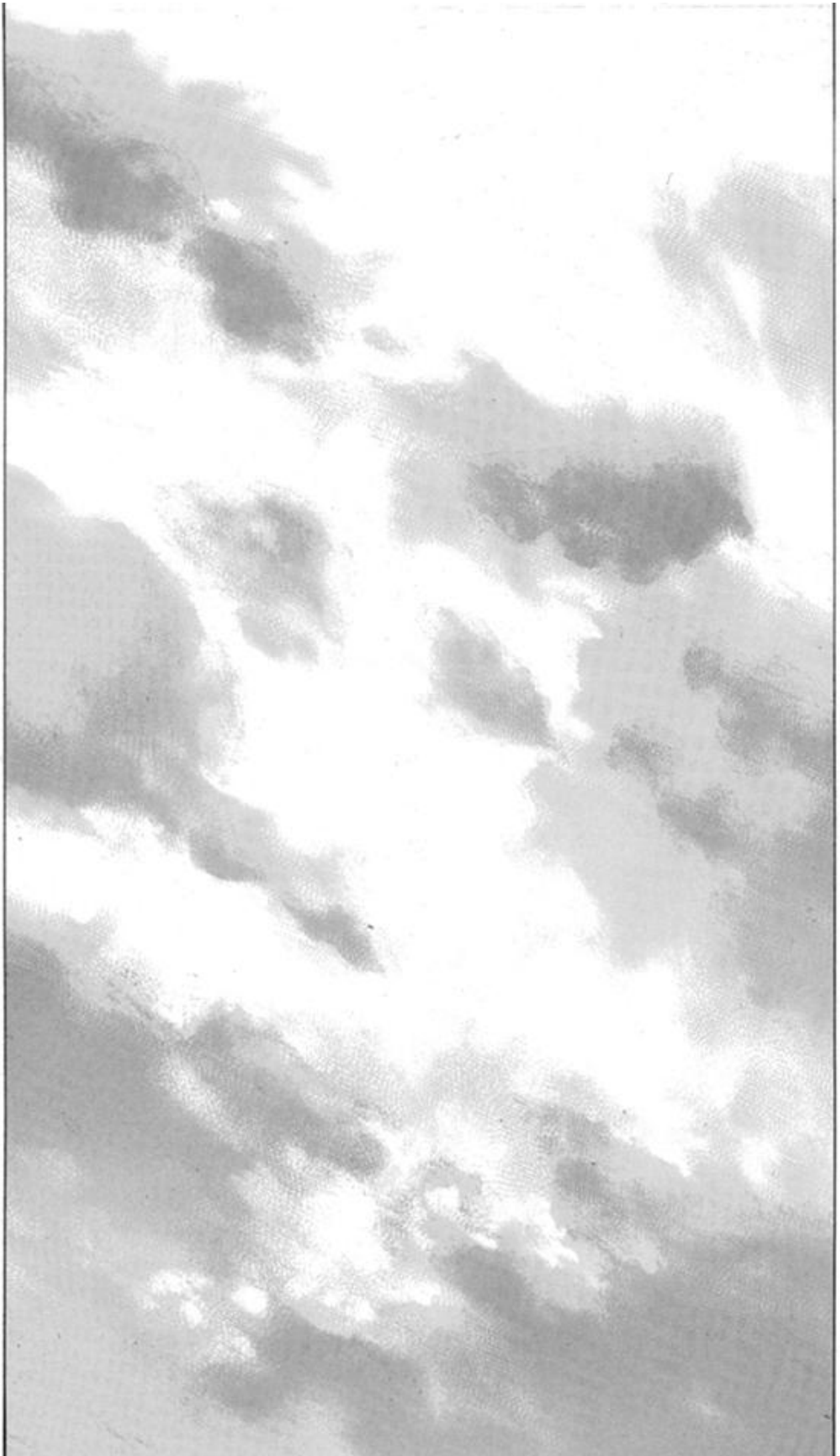
けど……



今までいろんな
先生に出会ってきま
した……

その中で僕は
一番難しいのは
開い続ける事だと
感じました……

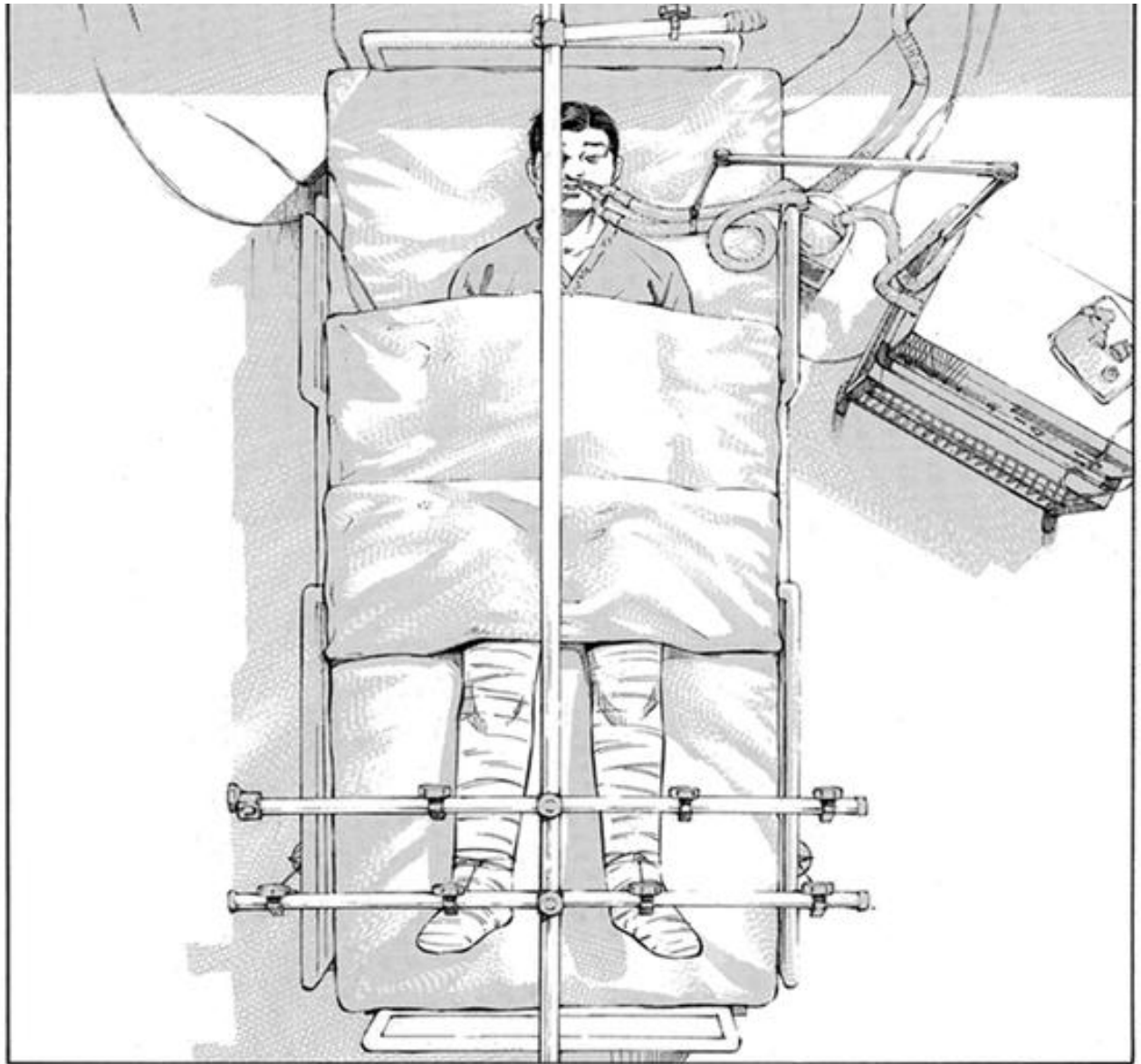












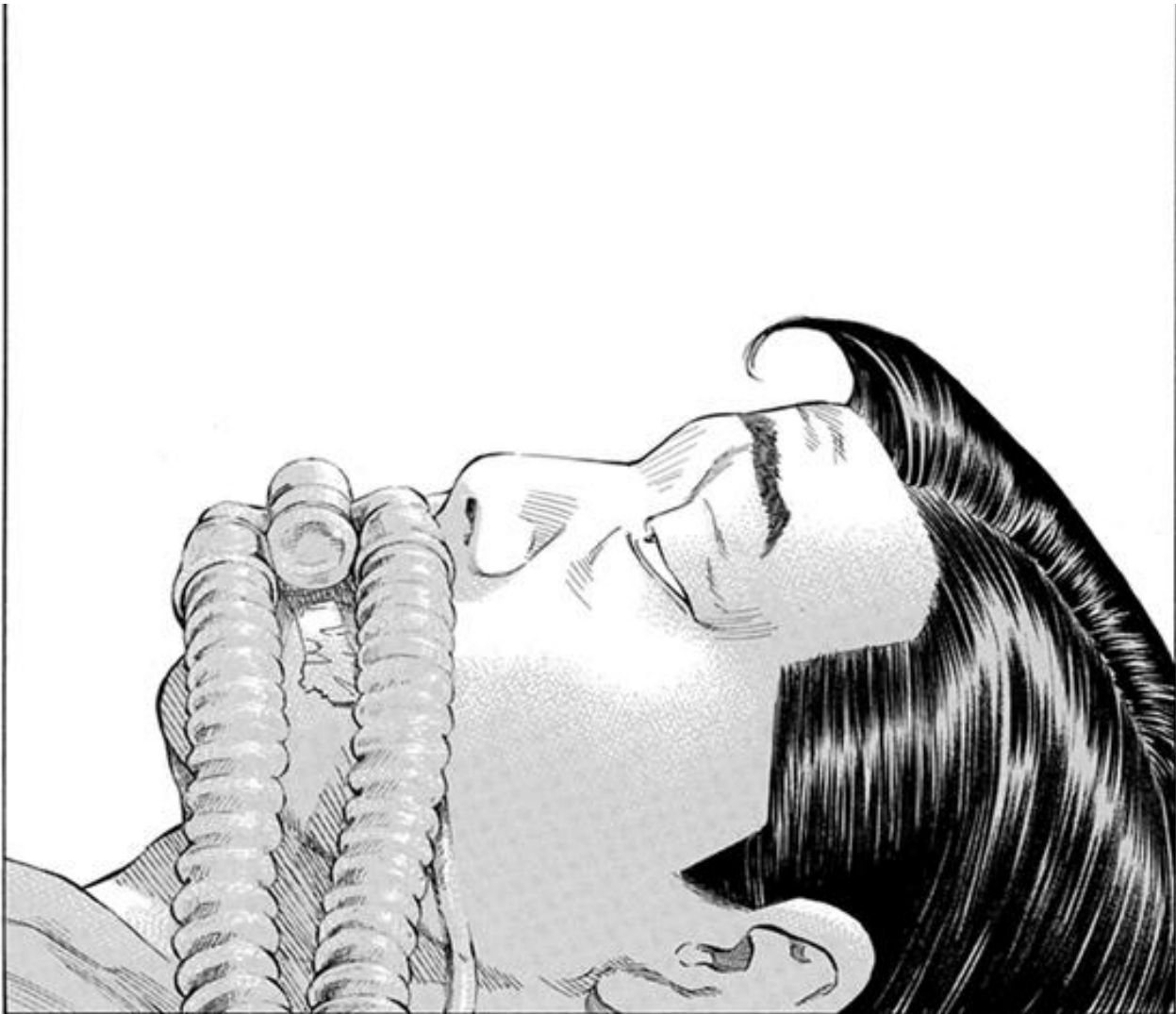
第126話 生きていたい

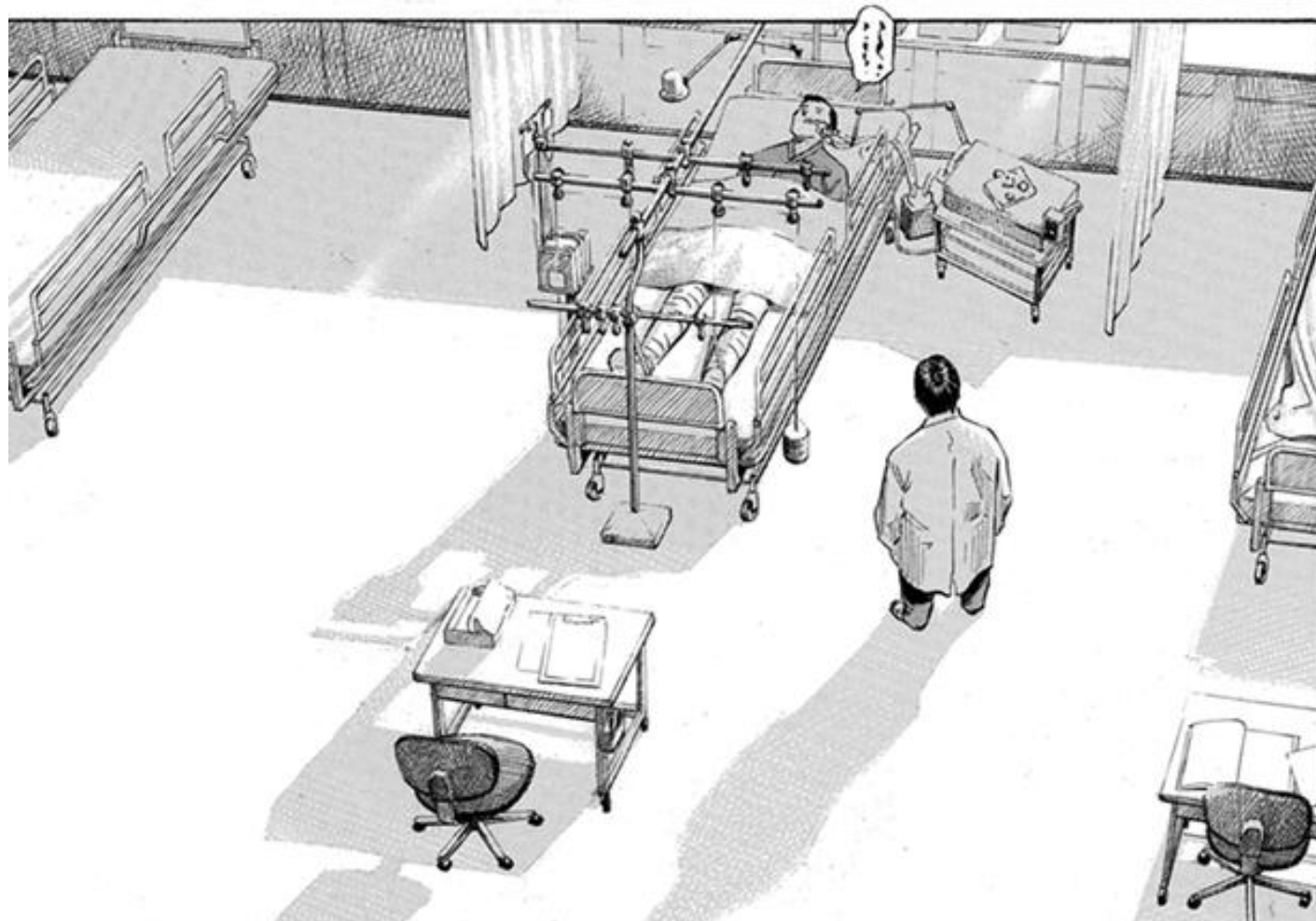
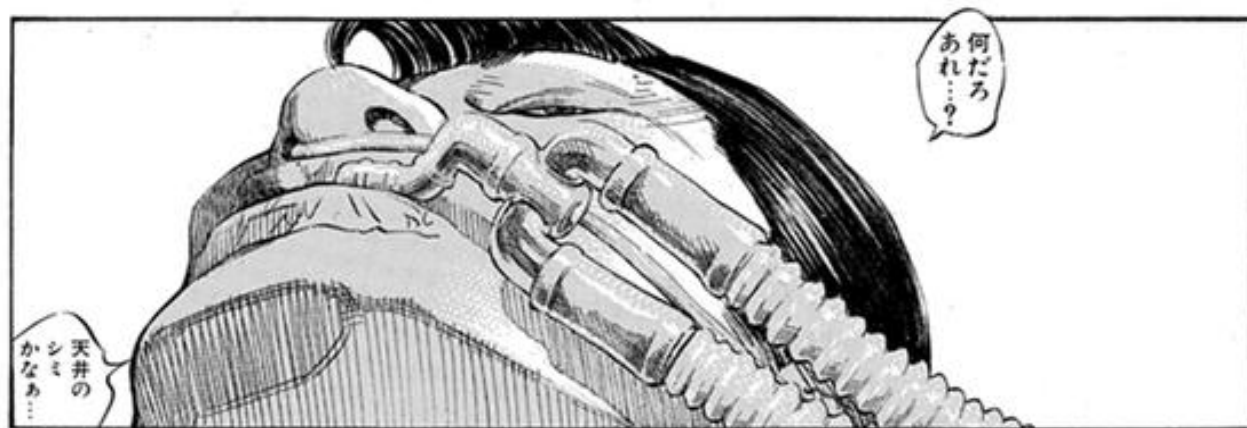




集中治療室
ICU



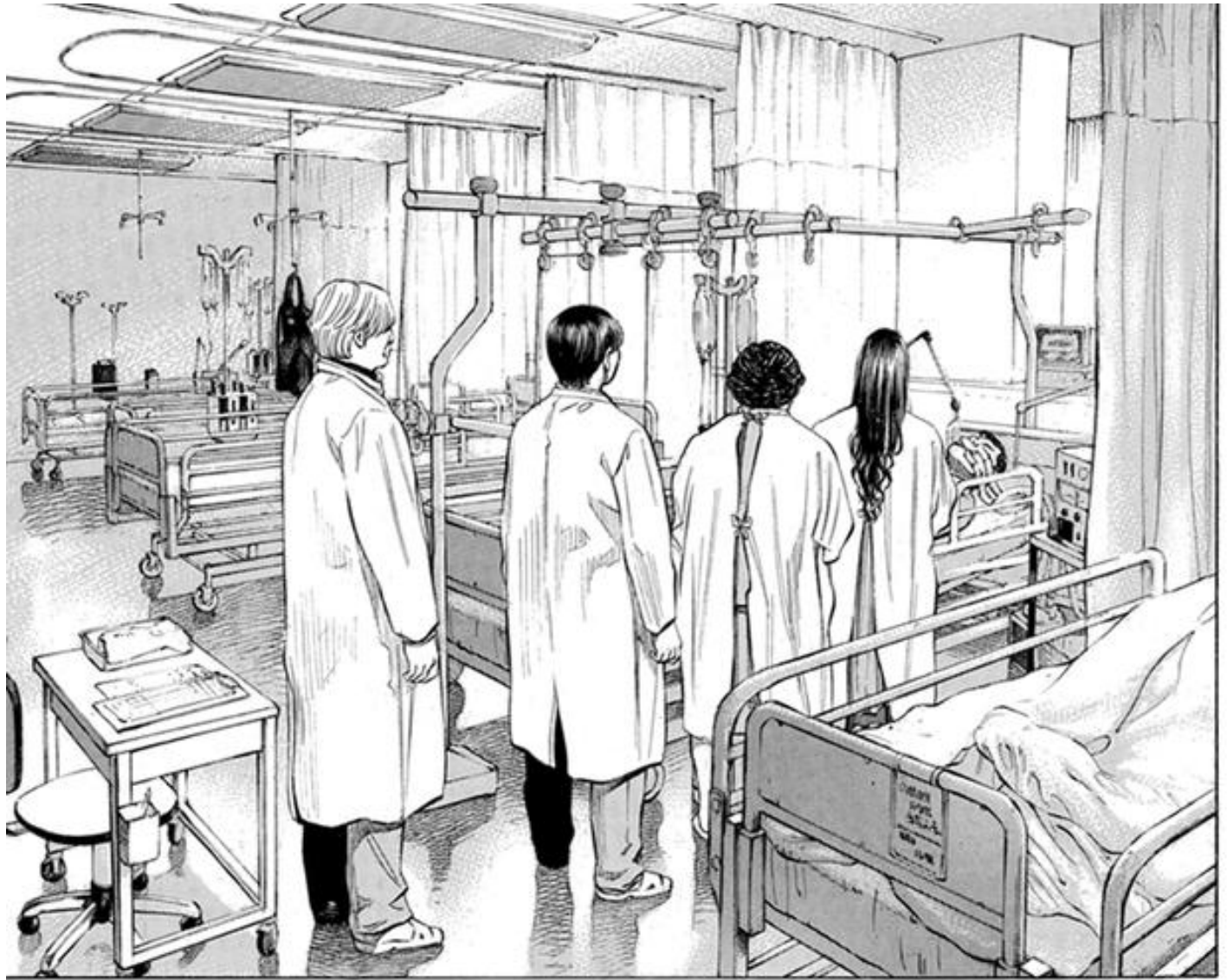


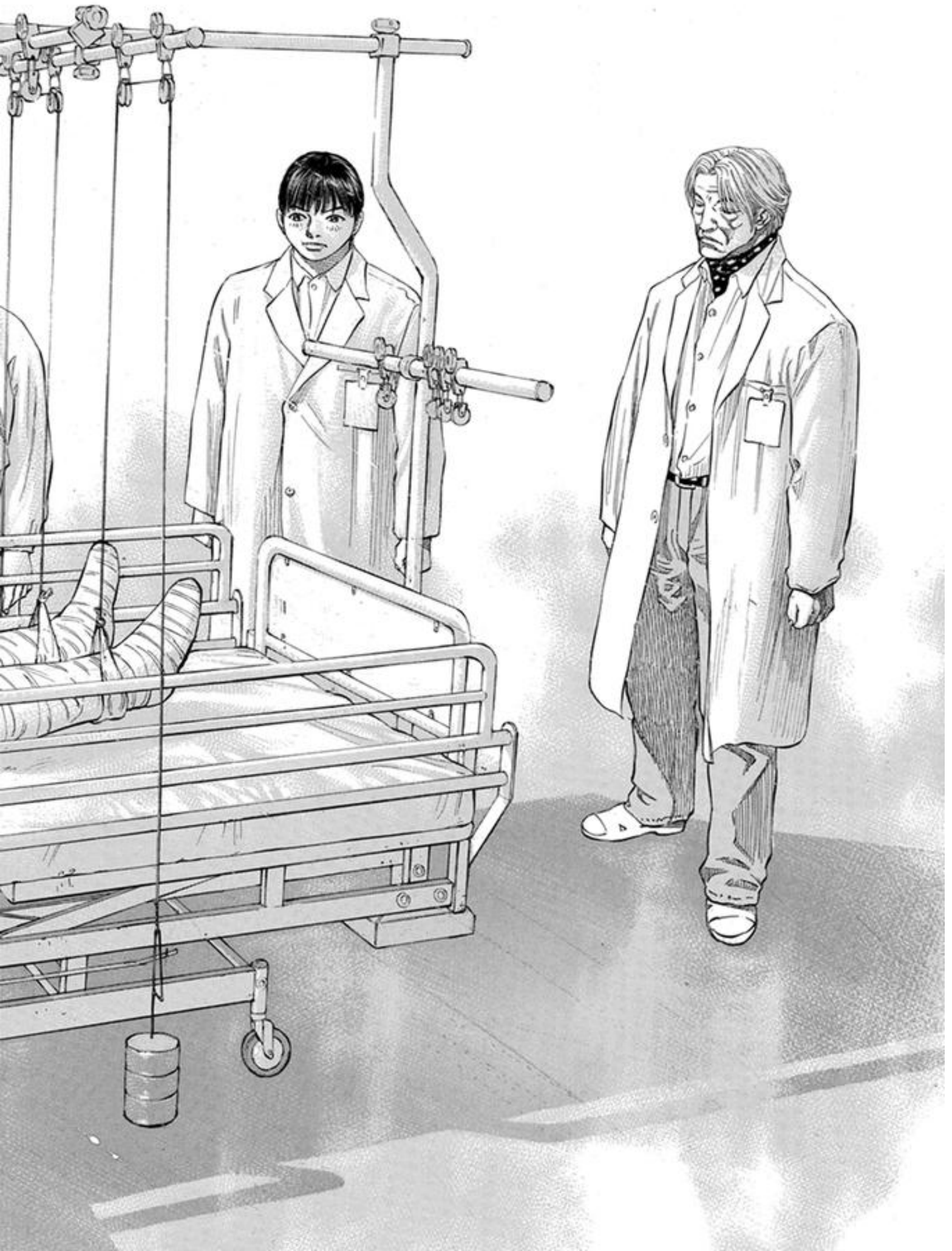




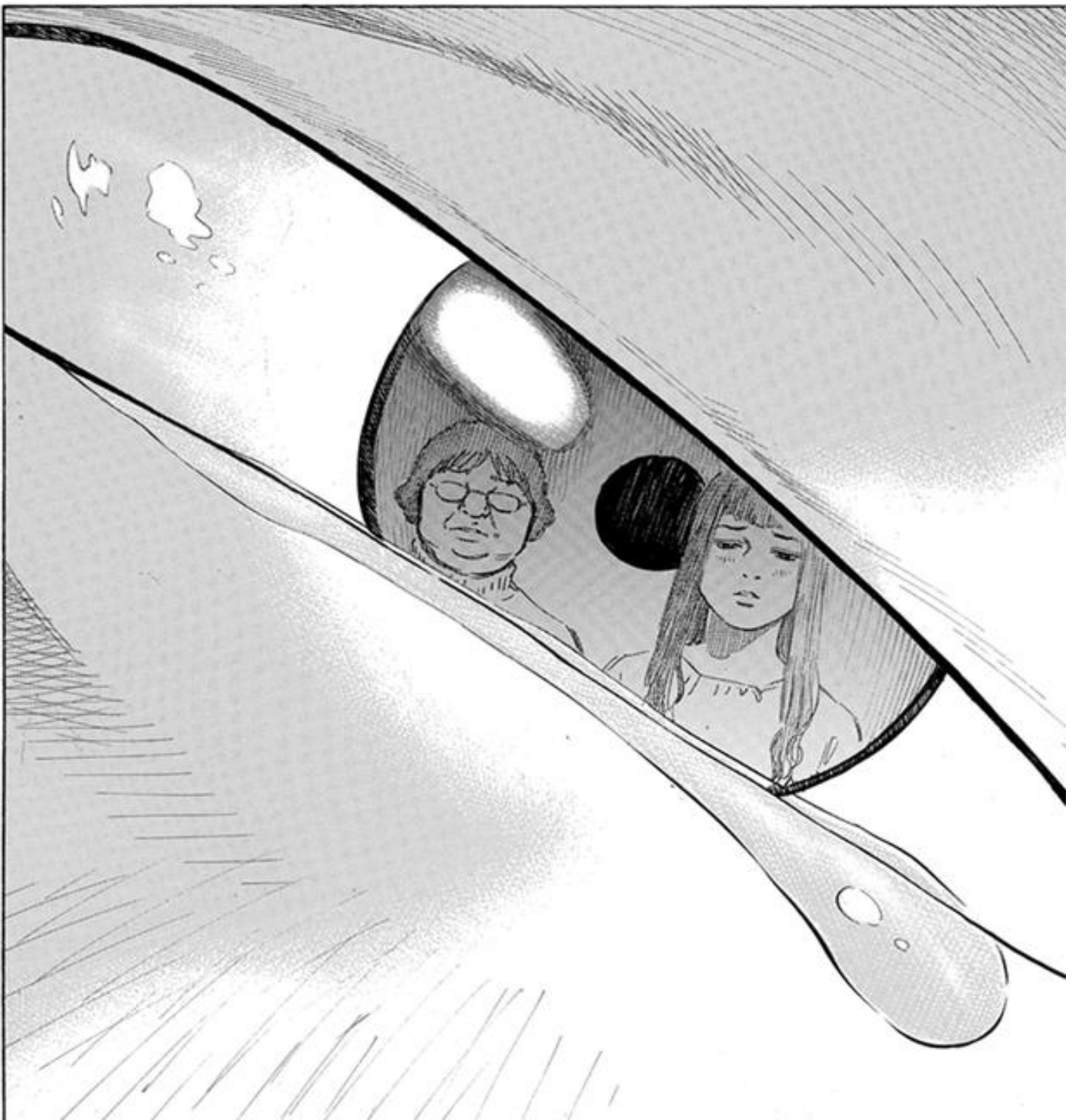
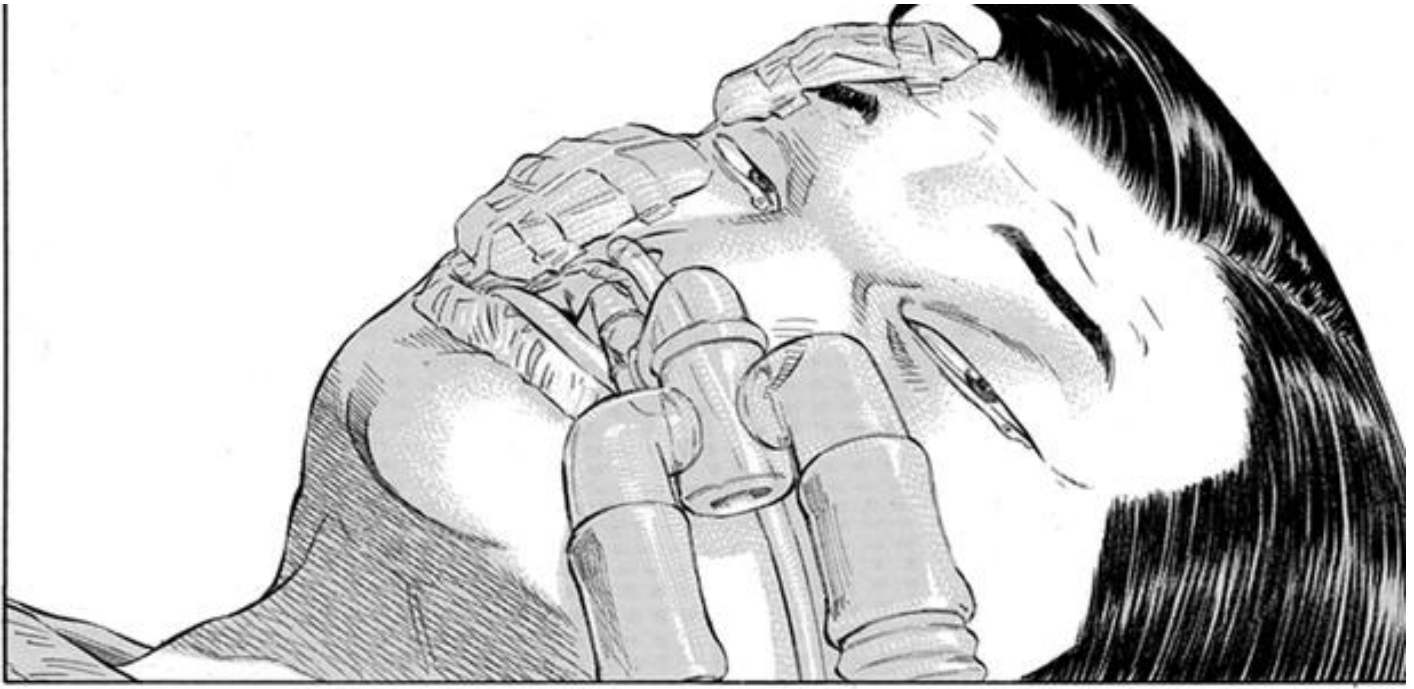
6

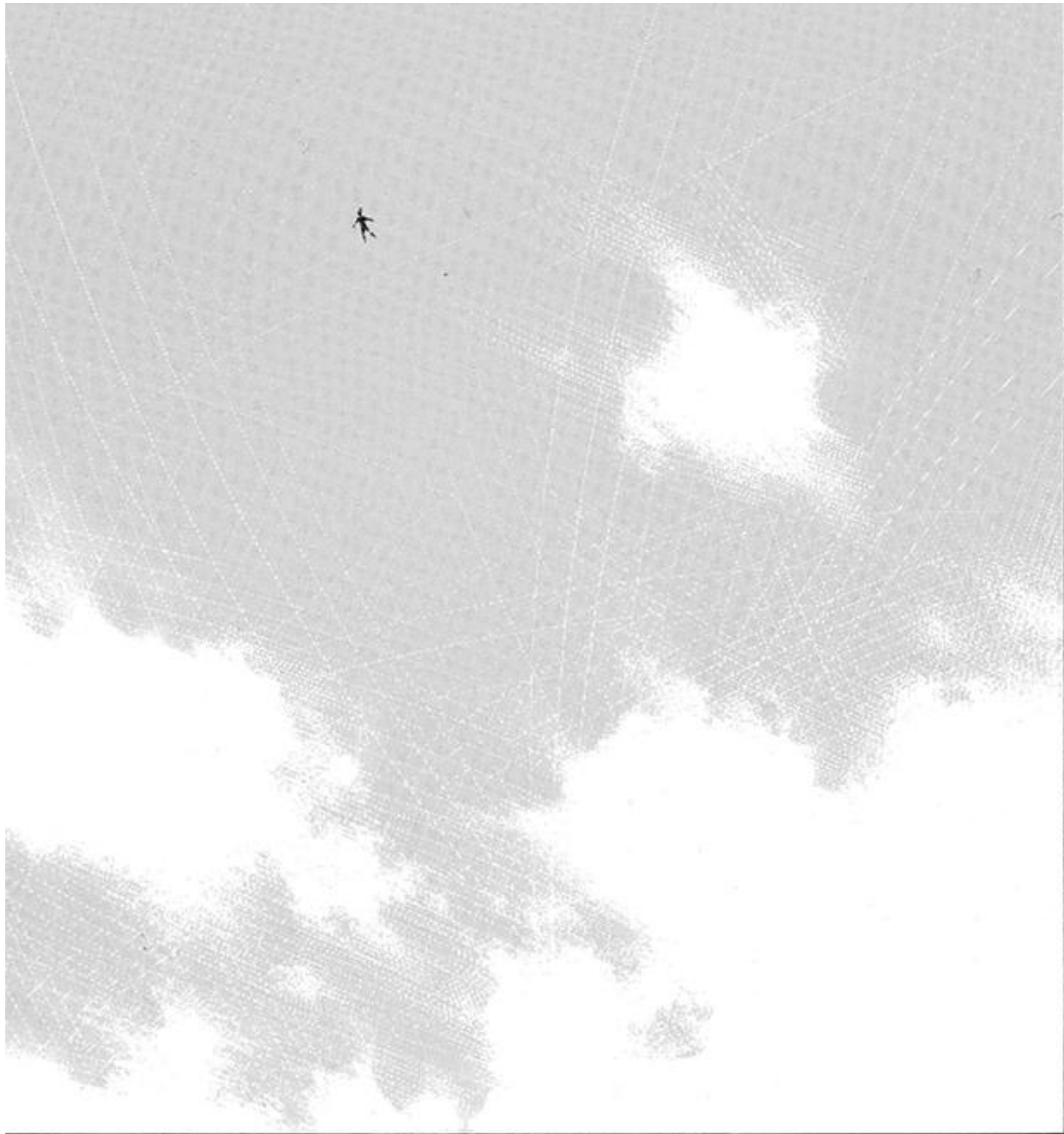






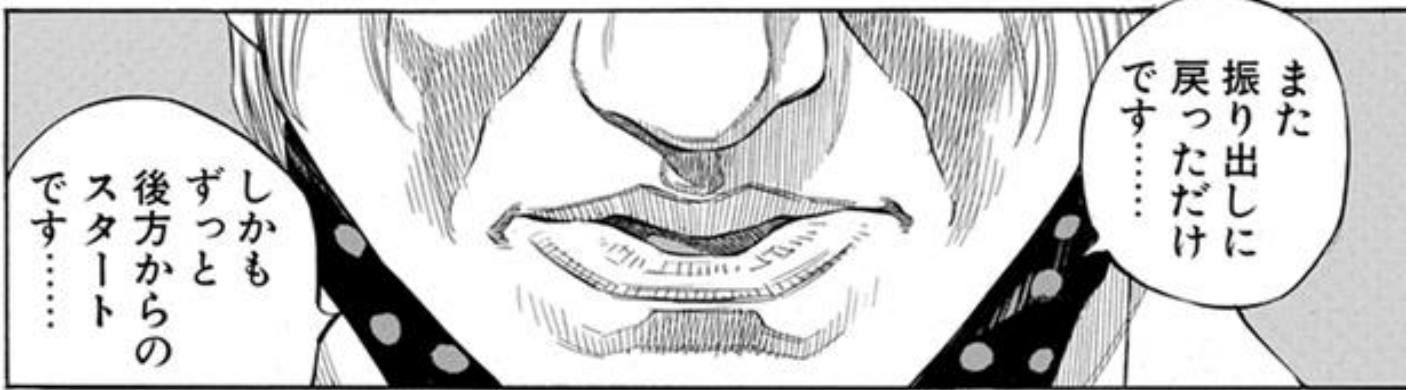




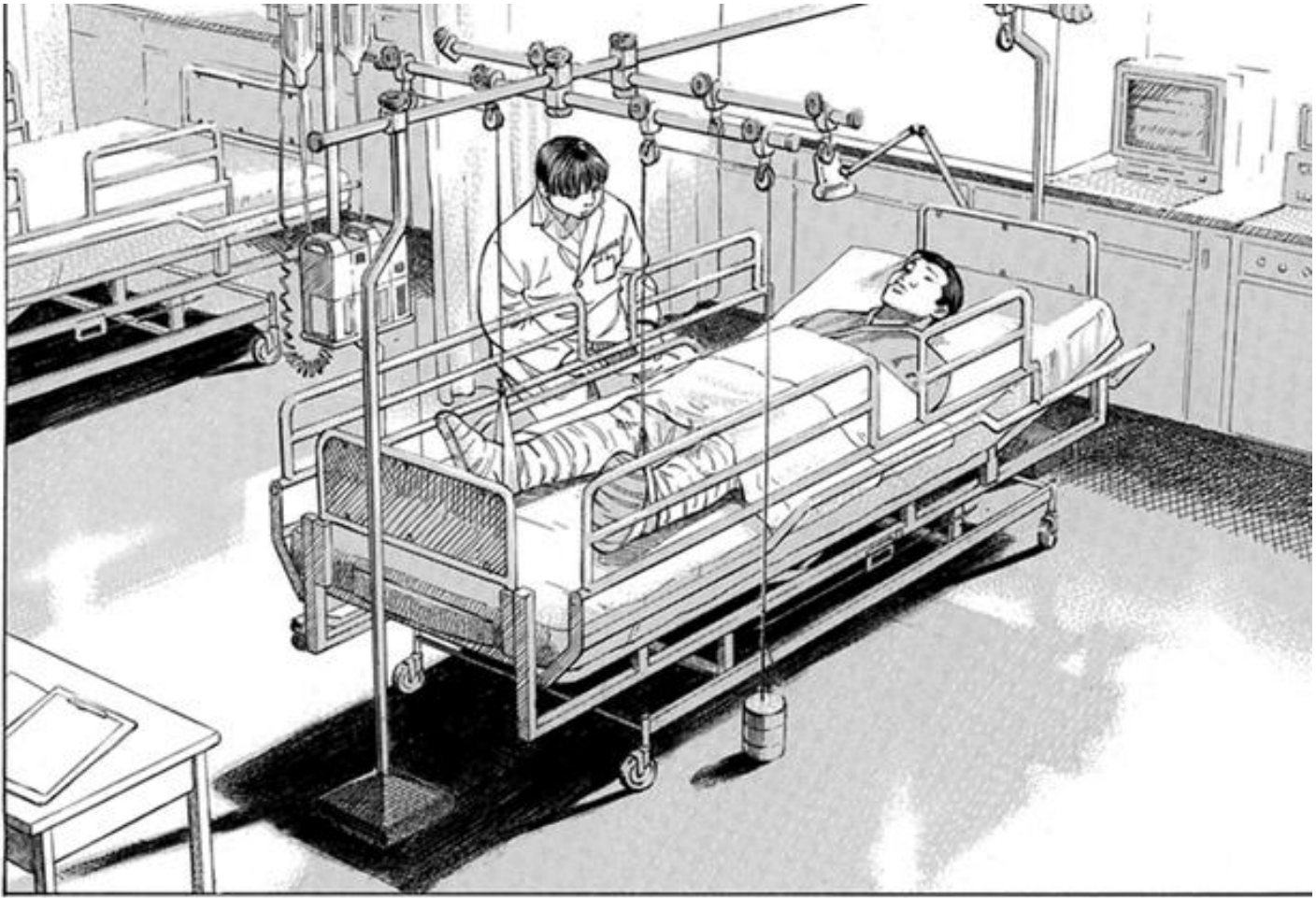














ハシゴと言っても
2m程の高さの
金属でできた
脚立で……

虫眼鏡は
天井からひもで
吊しただけの
小さなものです
……



その中の
1つにね……

天井から
ぶら下がった
虫眼鏡の前に
ハシゴが
置いてある作品が
あったんです……



ジョン・レノン
はハシゴを登って
虫眼鏡で天井を
見たそうです……



そしたらね
……

天井にすごく
小さな字で
こう書いて
あったんです……

YES







暗い穴の底に
いたんだ……

穴の底から
見えるものは
……

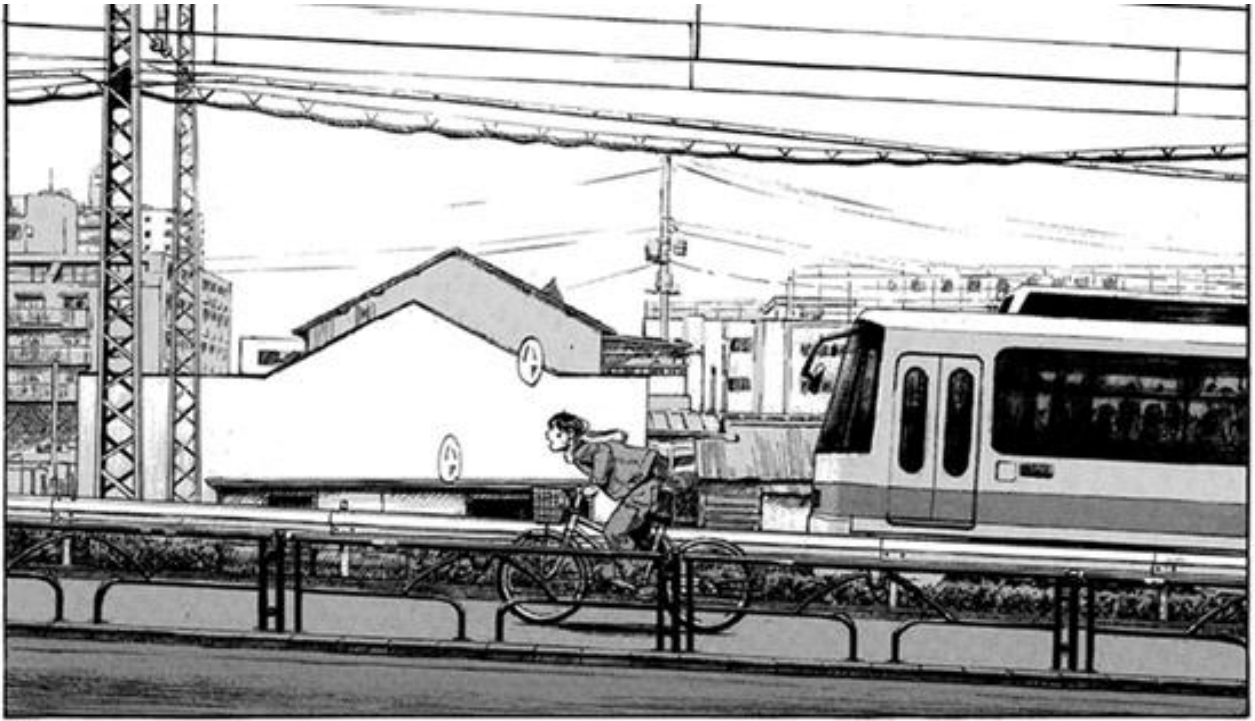
光だけだった
……

だから僕は
登ったんだ……

だ
け
ど
……



第127話 坂道を登る



そう言えば
最近考えなく
なった

「医者って一体
何なんだ……?」



永大での2年の
研修期間も
残り4ヵ月

行き先は
まだ見えない



これは
前進か……？

それとも
後退か……？



ガシヤン









だけど学校が
変わっても必ず
同じクラスに
斉藤って子が
いてさ……

僕は結局
「斉藤バート2」
とか呼ばれちゃう
んだ……



うん……
ウチは父親が
公立の英語の
先生だから
転動とか
あってさ……

転校は小学生の時に
一回と
中学生の時に
一回……



国語の教科書に
斉藤茂吉が
出てきた時は
絶対この人より
偉くなって
やるって……

ははは
バカだねえ



で
目立ちたかつ
たんだ？

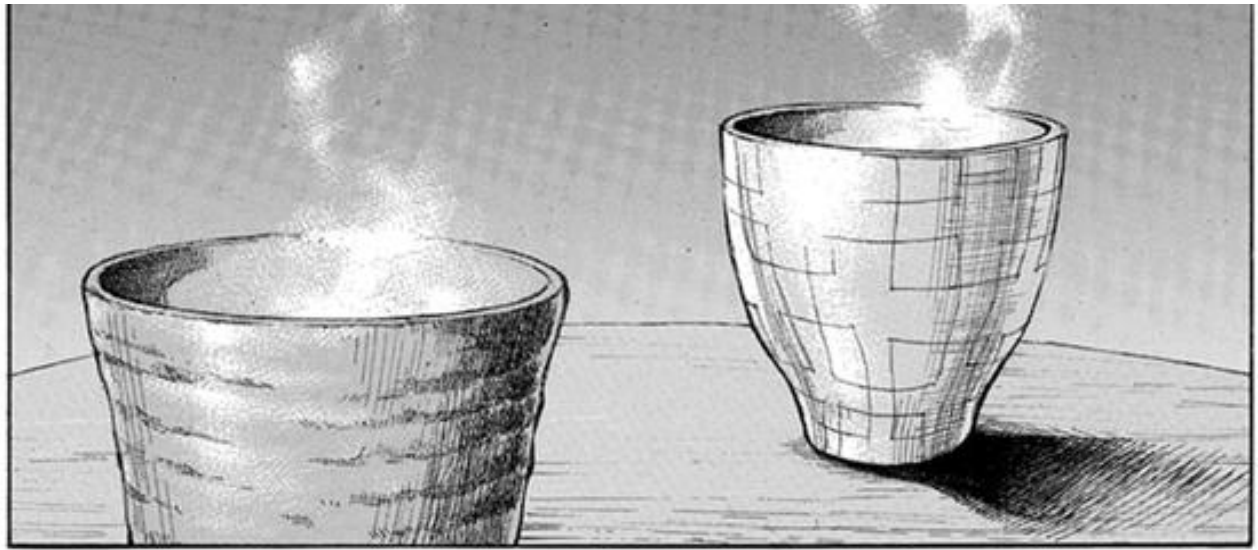
うん
体育ダメ
だから
勉強した



結局僕には
地元って呼べる
場所がないし……

別に何か
とりえがあった
訳じゃないし
……

何とかして
自分を確立させた
かったんじゃない
かなって……



安定した
かったんだ
……

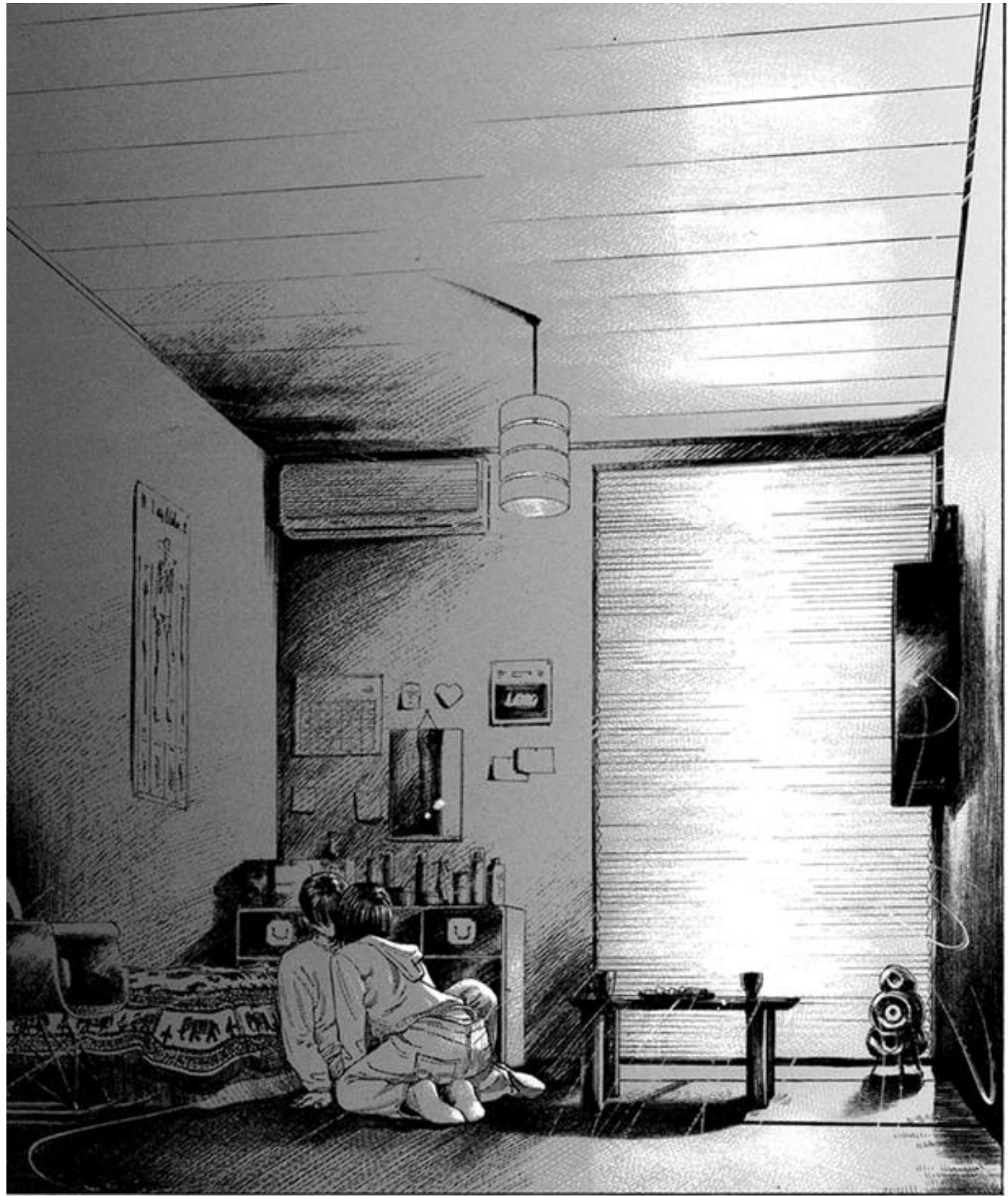


ねえ
みなぎわ
皆川さん……

結婚しよう
か……

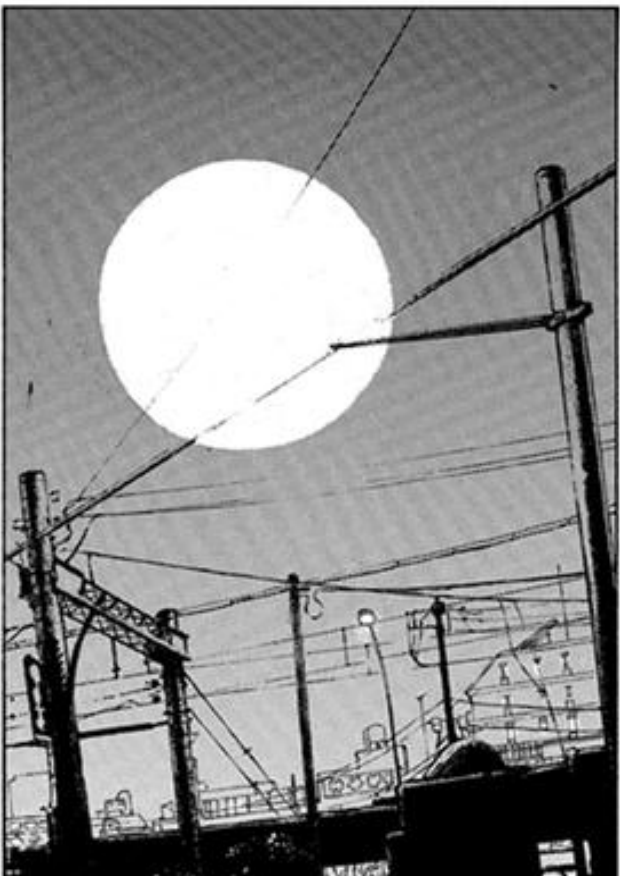













僕は自由だ

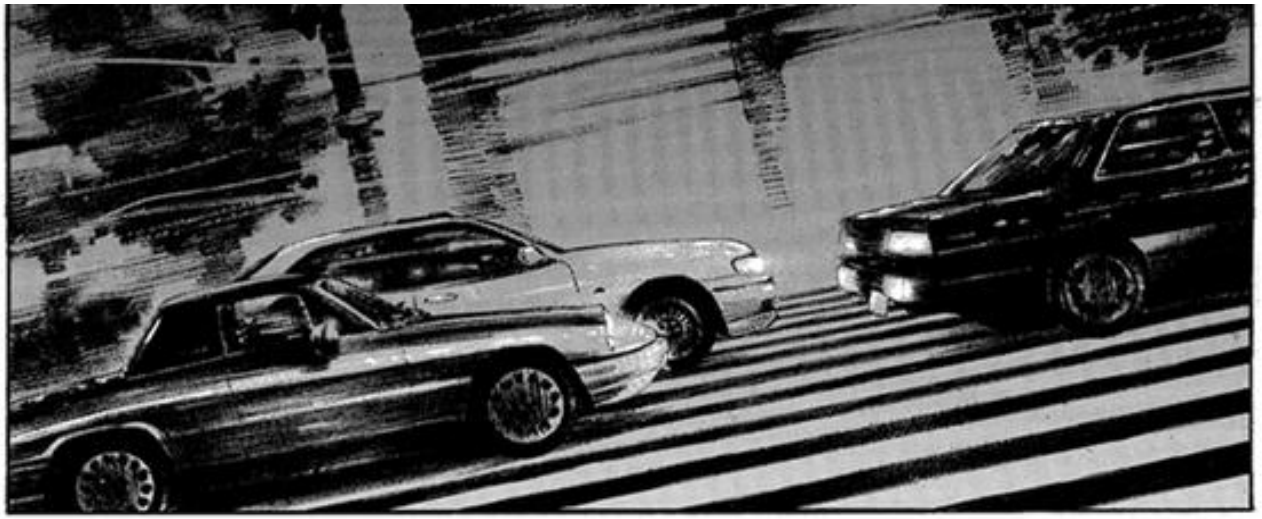






僕が全部
壊してやる……

僕が全部
創ってやる……







利用規約

有限会社佐藤漫画製作所及び佐藤秀峰は、「ブラックジャックによろしく」作品の利用に関して、以下の通り規約を定めます。

【自由な利用】

本規約の条件に従う限り、「ブラックジャックによろしく」作品を商用・非商用の区別なく、事前の承諾を得ることなく無償で複製し公衆送信し、また、どのような翻案や二次利用（外国語版、パロディ、アニメ化、音声化、小説化、映画化、商品化など）を行うことも可能です。二次的著作物に関して原著作物の著作権を弊社は行使しません。また、著作者人格権（同一性保持権）を行使しません。

【制限】

1. 書籍の版面の複製禁止

漫画 on web でダウンロードや販売された「ブラックジャックによろしく」第1巻から第13巻までの弊社作成のデータについては、複製、再配布することができます。

書籍の版面を自ら又は第三者が複製したものやデータ化したものについては、再配布を認めません。

2. 「ブラックジャックによろしく」作品のみの利用

「新ブラックジャックによろしく」やその他の作品は、許諾の対象とはなりません。

3. タイトルと著作者名の表示

以下の事項の表示を作品毎に明示的に必ず行ってください。これらの内容の変更はできません。

日本語版		英語版（日本語以外での利用）の場合の表記	
タイトル	ブラックジャックによろしく	タイトル	Give My Regards to Black Jack
著作者名	佐藤秀峰	著作者名	SHUHO SATO
サイト名	漫画 on web	サイト名	Manga on Web
URL	http://mangaonweb.com	URL	http://mangaonweb.com

【免責】

利用者の利用行為については、弊社及び佐藤秀峰は一切その責任を負いません。

【事後報告】

作品の二次利用については、弊社宛 (<http://mangaonweb.com/inquiryTop.do>) に、事後にご報告してください。

条件に従っている限り、事後報告によって利用を拒否することはありません。

制定日 2012年9月15日